



Solaris 9 8/03 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-2437-11
2003 年 8 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L、HG-MincyoL-Sun、HG ゴシック B、および HG-GothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HG 平成明朝体 W3@X12 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、JDK、Solaris JumpStart、SunOS、OpenWindows、XView、JavaSpaces、SunSolve、iPlanet Directory Server、Sun4U、Sun StorEdge、Solstice AdminSuite、SunInstall、Solaris Web Start、Java Naming and Directory Interface、Enterprise JavaBeans、および Sun Enterprise は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

PostScript は、米国 Adobe Systems, Inc. の商標であり、国によっては登録されていることがあります。Netscape および Netscape Navigator は Netscape Communications Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 9 8/03 Release Notes

Part No: 817-0496-11

Revision A



030826@6671



目次

はじめに 13

1 Solaris 9 8/03 のメディアの概要 19

Solaris 9 8/03 のメディア 19

Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD 19

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD 19

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 2 of 2 CD 20

Solaris 9 8/03 LANGUAGES CD 20

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD 21

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD 21

Solaris 9 8/03 Operating Environment DVD 21

Solaris Software Companion CD 21

2 インストールに関する注意事項とバグ情報 23

日本語環境をインストールする前に知っておく必要がある情報 23

必要なディスク容量 23

日本語環境の選択 27

Solaris 9 8/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要がある注意事項 30

x86: Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD のパーティションに関する問題 30

x86: 起動ディスクのデフォルトパーティションレイアウトの変更 31

SPARC: デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある 32

x86: Service パーティションがないシステムでは、デフォルトで Service パーティションが作成されない 33

x86: Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) ブート用フロッピーディスクが使用できない	35
x86: Solaris 9 オペレーティング環境へアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS を最新のものに更新する必要がある	36
x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない	36
Solaris 9 8/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ	37
Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)	37
Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 8/03 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)	37
Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報	38
Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 8/03 ドキュメントをインストールする方法	39
インストール全般に関する注意事項とバグ情報	39
x86: 3Com 3C905C ネットワークカードを使用すると、PXP ブートが失敗する (バグ ID: 4847803)	39
SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)	40
スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)	40
[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される	41
[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力	41
Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報	42
ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)	42
[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項	43
インストール時またアップグレード時に発生するバグ情報	44
Solaris WBEM プロバイダパッケージ SUNWwbpro をインストールすると、無効なエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4824518)	44
アップグレードに関する注意事項	44
Solaris 9 8/03 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない	44
Solaris suninstall プログラムによるアップグレードでのロケール選択	45
x86: Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD (x86 版) を使用して x86 システムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードできない	45
旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない	45
アップグレード時に発生するバグ情報	48

Solaris フラッシュ差分アーカイブをインストールするときに luupgrade コマンドを使用すると問題が発生する (バグ ID: 4890708)	48
アップグレード時に、SUNWceudt パッケージをインストールできない (バグ ID: 4826785)	49
Solaris Live Upgrade の使用時にインストールプログラムが表示するテキストに関する問題 (バグ ID: 4736488)	49
SPARC: アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (バグ ID: 4525236)	50
Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)	51
/export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)	51
ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)	52
アップグレード後に発生するバグ情報	52
SPARC: アップグレード後にパッチを削除すると WBEM リポジトリが破壊されることがある (バグ ID: 4820614)	52
アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)	54
日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4677463)	54
64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報	54
SPARC: 一部の Sun UltraSPARC システム (sun4u) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある	55
DOCUMENTATION CD に関する注意事項	56
Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前のドキュメントパッケージをインストールできない	56
DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報	57
Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)	57
特定のロケールで Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD が Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールしない (バグ ID: 4859494)	57
コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)	58
インストール時のローカライズに関する注意事項	58
選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある	58
インストール時のローカライズに関するバグ情報	59
Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォントパッケージが Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)	59
タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)	59

- 3 実行時の注意事項とバグ情報 61
 - スマートカードのバグ情報 61
 - スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094) 61
 - スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632) 62
 - 共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項とバグ情報 62
 - 共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項 62
 - x86: qmon アプリケーションを実行すると、判読不能な文字が表示される (バグ ID: 4649547) 63
 - CDE のリムーバブルメディア自動実行機能が削除されている (バグ ID: 4634260) 63
 - SPARC: FontList オプションが指定されている場合、コマンド行から起動した dtmail がクラッシュする (バグ ID: 4677329) 63
 - 行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793) 64
 - Solaris PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435) 64
 - Solaris PDA Sync のロケールとはコードセットが異なる PDA デバイスとデータを交換する場合の注意事項 65
 - dtmail で不在返信メッセージを作成すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110) 65
 - [日本語環境のみ] ja_JP.UTF-8 ロケールで日本語テキストファイルが添付されたメールを正しく転送できない (バグ ID: 4862205) 66
 - [日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項 66
 - [日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565) 66
 - GNOME 2.0 に関する注意事項とバグ情報 67
 - GNOME 2.0 のマニュアル 67
 - システム管理に関するバグ情報 67
 - Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587) 67
 - Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092) 67
 - Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885) 68
 - [日本語環境のみ] Solaris 管理コンソールのヘルプなど JavaHelp を使用したヘルプの索引で日本語文字列を検索するとフリーズする (バグ ID: 4869742) 68
 - x86: Sun4U ディスクレスクライアントを確立できない (バグ ID: 4878696) 68
 - /etc/named.conf ファイルが存在する場合、Solaris 管理コンソールからユーザーアカウントまたはグループツールで処理を実行しようとする と失敗する (バグ ID: 4777931) 69

x86: BIOS のブート時に F4 キーを押すと Service パーティションのブートに失敗する (バグ ID: 4782757)	70
Solaris 9 8/03 オペレーティング環境で、UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403)	71
Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)	71
XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID: 4497393、4497399、4497406、4497411)	72
Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)	72
WBEM でデータを追加しようとするとき CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)	73
[日本語環境のみ] Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の Sun ONE Console で GUI 上のレイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)	74
admintool を使用してユーザーを作成する場合の注意事項	74
Solaris ボリュームマネージャの問題	74
Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある	74
Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報	75
障害の発生したホットスワップディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの metahs -e コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)	75
論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの metadevadm コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)	77
Solaris ボリュームマネージャの metarecover コマンドが metadb 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)	77
ネットワーク接続に関するバグ情報	78
x86: e1000g インタフェースで IPv6 を使用すると障害が発生することがある (バグ ID: 4874857)	78
フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)	78
セキュリティに関するバグ情報	79
CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)	79
cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431)	79
ソフトウェアに関するその他のバグ情報	80
SPARC: Solaris 9 8/03 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)	80
DOCUMENTATION CD に関する注意事項	80
iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない	80

他のドキュメントパッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要 81

DOCUMENTATION CD に関するバグ情報 81

ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475) 81

Solaris 9 8/03 ドキュメントパッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 8/03 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961) 82

ローカライズに関する注意事項 83

ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項 83

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境では、エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードのハードウェアがサポートされない 83

ローカライズに関するバグ情報 85

SPARC: アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879) 85

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314) 85

Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関するバグ情報 85

[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123) 86

[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428) 86

Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571) 86

Netscape 7.0 に関する注意事項 87

Sun ONE Application Server のバグ 87

デフォルトのブラウザが Sun ONE Application Server 7 と互換性がない (バグ ID: 4741123) 87

SPARC: Netscape Navigator の一部のバージョンでアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされていない (バグ ID: 4750616) 88

Oracle 9.2 クライアントで Oracle 9.1 データベースにアクセスすると、データが破壊される場合がある (バグ ID: 4707531) 88

SPARC: コマンド行で作成した持続マネージャファクトリのリソースを表示すると、管理インタフェースはペリファイアエラーを表示する (バグ ID: 4733109) 89

SPARC: server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性は、any 値をサポートしない (バグ ID: 4743366) 89

SPARC: SSL 対応環境への移行時にアプリケーションサーバーが再起動に失敗する (バグ ID: 4723776) 89

SPARC: 動的再ロードの実行中にアプリケーションサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4750461) 90

システムのデフォルトエンコーディングが UTF-8 ではない場合、コンソール出力

が適切に表示されない (バグ ID: 4757859)	90
外部証明書のニックネームが、管理インタフェースのニックネームリストに表示されない (バグ ID: 4725473)	91
SPARC: flexanlg コマンドを使用すると、オープンエラーが表示される (バグ ID: 4742993)	92
IPv6 のみに対応したクライアントからアプリケーションサーバーに接続できない (バグ ID: 4742559)	92
変更したサンプルが、再配置するまで更新されない (バグ ID: 4726161)	93
SPARC: トランザクションの設定に 0 以外の値を指定すると、ローカルトランザクションが遅くなる (バグ ID: 4700241)	94
Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない (バグ ID: 4732684)	94
IPv6 アドレスに対する DNS アドレス参照が失敗すると、RMI-IIOP クライアントが IPv6 アドレスに対して動作しない (バグ ID: 4743419)	94
アプリケーションまたはシステムが UTF-8 エンコーディングを使用していない場合、「表示するエントリタイプ」フィールドに指定した値はイベントログ中で文字化けする (バグ ID: 4763655)	95
デフォルトの管理コンソールの GUI が (ローカライズ版で) 英語で表示される (バグ ID: 4761017)	95
asadmin ヘルプから翻訳されたマニュアルページが呼び出せない (バグ ID: 4758671)	95
Sun ONE Application Server のセキュリティ関連のバグ	96
アプリケーションサーバーがすべてのインスタンスを root として開始するため、root 以外のユーザーにも root アクセス権が許可される (バグ ID: 4780076)	96
Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の問題	98
設定の問題	98
スキーマの問題	98
レプリケーションの問題	99
サーバープラグインの問題	99
サービスのロールとクラスの問題	99
インデックスの問題	99
Sun ONE Directory Server に関するバグ情報	100
Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)	100
ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)	100
サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)	101
ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが有効なまま残る (バグ ID: 4527623)	101
インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)	101
DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)	101
Export、Backup、Restore の実行中または索引の作成中にサーバーを停止する	

	と、そのサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)	102
	レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)	102
	UFS ファイルシステムに関する注意事項	103
	SPARC: サイズが 2T バイトを超える UFS ファイルシステムは VxVM ボリューム上に作成できない	103
	UFS ファイルシステムに関するバグ情報	103
	UFS で mount コマンドに noatime オプションと logging オプションの両方を使用すると、ファイルシステムが破壊されることがある (バグ ID: 4884138)	103
	SPARC: マルチテラバイトの UFS ファイルシステムで fssnap を使用しても動作しない (バグ ID: 4836824)	104
	その他	104
	バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない	104
4	サポート中止に関する情報	105
	Solaris 9 でサポートを中止した製品	105
	adb マップ修飾子とウォッチポイント構文	105
	AnswerBook2 文書サーバー	106
	aspppd ユーティリティ	106
	ATOK8 日本語入力方式	106
	crash ユーティリティ	106
	Solaris ipcs コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション	107
	cs00 日本語入力方式	107
	x86: devconfig コマンド	107
	x86: デバイスとドライバソフトウェアのサポート	107
	アーリーアクセス (EA) ディレクトリ	108
	ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ	108
	enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタ	108
	x86: Intel 486 システム	108
	japanese ロケール	109
	Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2	109
	JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8	109
	libjapanese.a	109
	Kerberos バージョン 4 クライアント	110
	OpenWindows 開発ツールキット	110
	OpenWindows ユーザー環境	110
	プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ (priority_paging/cacheefree)	110
	s5fs ファイルシステム	111

sdtudc_extract_ps	111
sendmail ユーティリティ機能	111
SUNWebnfs パッケージ	111
sun4d ベースのサーバー	112
SUNWrdrn パッケージ	112
将来のリリースでサポートを中止する予定の製品	112
add_drv システムコマンドの <i>device_driver</i> へのバス名指定サポート	112
AdminTool コマンド	113
アジアの短縮 dtlogin 名	113
asystem() インタフェースおよび systemem() インタフェース	113
監査デーモンインタフェース	113
基本セキュリティモジュールのデバイス割り当てインタフェース	114
廃止されるデバイスドライバインタフェース (DDI)	114
power.conf の Device Management エントリ	116
デバイスとドライバソフトウェアのサポート	116
Alt キーおよびメタキーを使用した Euro 文字入力シーケンス	117
フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド	117
fork() 関数	118
GMT zoneinfo タイムゾーン	118
SPARC: グラフィックドライバのサポート	118
JRE 1.2.2	119
Kodak Color Management System	119
Korean CID フォント	119
libXinput ライブラリ	119
LDAP クライアントライブラリ	119
廃止される軽量プロセス (LWP) インタフェース	119
Solaris Maintenance Update	120
匿名インタフェースグループ機能	120
Netscape 4.7x	120
Netscape 6.2x および Netscape 7.0	120
netstat の -k オプション	121
NIS+ ネームサービスの種類	121
pam_unix モジュール	121
Perl バージョン 5.005_03	121
電源管理入出力制御コマンド	122
64-bit SPARC: libc の ptrace インタフェース	122
sendmailvars と L sendmail.cf コマンドまたは G sendmail.cf コマンド	122

SPARC: 64 ビットパッケージ	123
Solaris 32 ビット Sun4U カーネル	123
Solaris スタティックシステムライブラリ	124
Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム	124
Solstice Enterprise Agents	124
SPC ドライバ	124
スタンドアロンのルーター検出	125
記憶装置インタフェース	125
sun4m ハードウェア	125
Sun StorEdge A3000、Sun StorEdge A3500、および Sun StorEdge A3500FC システム	125
テープデバイス	126
Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカード	126
32-bit: X11 スタティックライブラリ	126
XIL インタフェース	126
xetops ユーティリティ	127
xutops プリントフィルタ	127

5	マニュアルに関する情報	129
	マニュアルの訂正・補足と注意事項	129
	『Solaris WBEM 開発ガイド』	129
	『Solaris WBEM 開発ガイド』の「クライアントプログラムの記述」	129
	『Sun ONE Application Server 7, Update 1 開発者ガイド』	130
	『Solaris ボリュームマネージャの管理』の「ルート (/) のミラー化に関する特殊な考慮事項」	131
	[日本語環境のみ] X Window System 関係の日本語翻訳マニュアルページが古い	131
	Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD に関する注意事項	132
	ナビゲーションファイルに関する注意事項	132
	『Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese』の日本語版マニュアルについて	132
A	Solaris 9 8/03 オペレーティング環境のパッチについて	135
	SPARC パッチの一覧	135
	x86 パッチの一覧	164

はじめに

本書『Solaris™ 9 8/03 ご使用にあたって』は、Solaris 9 8/03 をご使用になるにあたって最初に読んでいただくマニュアルです。Solaris 9 8/03 オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報や、既知の問題点について説明します。

『Solaris 9 8/03 ご使用にあたって』は、以下の2つの版が存在します。

- Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD の「Solaris 9 8/03 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの
- <http://docs.sun.com> に掲載されている「Solaris 9 8/03 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの (『Solaris 9 8/03 インストールにあたって』 + 最新情報が記載されている) - 本書

注 - Solaris オペレーティング環境は、SPARC® プラットフォームおよび x86 プラットフォーム上で動作します。また、Solaris オペレーティング環境は、64 ビットおよび 32 ビットのアドレス空間で動作します。本書で説明する情報は、章、節、注、箇条書き、図、表、例、またはコード例において特に明記しない限り、両方のプラットフォーム、および両方のアドレス空間に該当します。

対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 9 8/03 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

内容の紹介

本書は、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境ソフトウェアに関する以下の情報を提供します。

第 1 章では、Solaris 9 8/03 のメディアについて説明しています。

第 2 章では、インストールに関する注意事項とバグについて説明しています。この章の内容を理解してからインストールを開始してください。

第 3 章では、Solaris 9 8/03 実行時の注意事項とバグについて説明しています。

第 4 章では、サポートを終了するソフトウェア機能またはハードウェアについて説明しています。

第 5 章では、Solaris 9 8/03 のマニュアル中の記述に関する、補足事項や訂正事項を説明しています。

付録 A では、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境のパッチについて説明しています。

Solaris のほかに付属のソフトウェアをインストールする場合は、付属ソフトウェアに含まれている最新リリース情報を参照して、そのソフトウェアに関する注意事項とバグ情報を確認してください。

関連マニュアル

Solaris 9 8/03 をインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- *GNOME 2.0 Desktop Collection - Japanese*
- *iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese*
- 『Solaris 9 インストールの手引き』
- 『Solaris 9 インストールガイド』 (Part No: 817-2446)
- 『Solaris 9 8/03 ご使用にあたって』。次のメディアでご利用いただけます。
 - Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の Solaris 9 8/03 Release and Installation Collection - Japanese
 - <http://docs.sun.com> (最新版) (本書)
- *Solaris 9 8/03 System Administrator Collection - Japanese*
- *Solaris 9 User Collection - Japanese*
- *Solaris (x86 Platform Edition) Hardware Compatability List*
- *Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese*

■ 『Solaris 9 8/03 オペレーティング環境の概要』

注 – このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の素材について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した(あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、インストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアのメーカーから提供される『Solaris 9 Sun ハードウェアマニュアル』などのインストール手順の補足資料を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上的コンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をすることがあります。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Solaris 9 8/03 のメディアの概要

Solaris 9 8/03 は、複数言語をサポートするマルチリンガル製品です。この章では、Solaris 9 8/03 に含まれている CD および DVD について説明します。

Solaris 9 8/03 のメディア

Solaris 9 8/03 のメディアについて、概要を説明します。

Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD



この CD には、Solaris Web Start 3.0 インストールプログラムが含まれています。Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris ソフトウェアおよび同梱の CD に含まれているその他のソフトウェアをインストールする場合に使用します。

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 8/03 オペレーティング環境 (「コアシステムサポート」と一部の「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループ用のソフトウェア)
- 従来の suninstall インストールプログラム

注 - GUI (Motif) 版の suninstall は削除されました。CUI 版はアジア言語でもローカライズされました。

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 2 of 2 CD



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 8/03 オペレーティング環境 (「エンドユーザーシステムサポート」の残り
と、それ以上のソフトウェアグループ用のソフトウェア)

- ExtraValue ソフトウェア

ExtraValue ソフトウェアには、サポート対象である CoBundled ソフトウェア (SunScreen 3.2、 Web Start Wizards SDK 3.0.1) と評価用のアーリーアクセス・ソフトウェア (Bonus_Languages) が含まれています。Bonus_Languages (SPARC 版のみ) には、Solaris 8 用のカタロニア語、ポーランド語、ロシア語の CDE の翻訳メッセージが含まれています。

Solaris 9 8/03 LANGUAGES CD



この CD には、Solaris オペレーティング環境で英語以外の言語を使用する際に必要なソフトウェアが含まれています。

注 - Solaris 9 8/03 でサポートされているすべてのロケールの基本機能 (言語の入力、出力、印刷、データ処理) をサポートするソフトウェア (部分ロケールと呼ぶ) は、SOFTWARE CD に含まれています。LANGUAGES CD には、各言語用のユーザーインターフェースの翻訳および追加ソフトウェアが含まれています。

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD



この CD には、英語およびヨーロッパ言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD



この CD には、日本語およびその他のアジア言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。また、英語のオンライン文書コレクションも一部含まれています。

Solaris 9 8/03 Operating Environment DVD



この DVD には、前述のすべての CD の内容が含まれています。

Solaris Software Companion CD



この CD には、Solaris 9 オペレーティング環境向けの Linux アプリケーションと、そのほかのオープンソースフリーソフトウェアのコレクションが収録されています。

注 - これらのソフトウェアについては、サポートもいかなる保証も提供されません。上記ソフトウェアの一部には、その使用条件を規定するサードパーティから通知またはライセンス (あるいはその両方) が提供されています。Sun ではこれらのソフトウェアに対するサポートも支援も行なっていません。サポートに関しては、ニュースグループや Web サイトなどを参照してください。

第 2 章

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境のインストールに関連した問題を説明します。

この章には、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 8/03 ご使用にあたって』の発行後に見つかった、以下のインストール時のバグに関する説明が追記されています。

- 39 ページの「x86: 3Com 3C905C ネットワークカードを使用すると、PXP ブートが失敗する (バグ ID: 4847803)」

日本語環境をインストールする前に 知っておく必要がある情報

必要なディスク容量

Solaris 9 8/03 の日本語環境と DOCUMENTATION CD をインストールする場合に必要なディスク容量について説明します。

Solaris 9 8/03 CD のソフトウェア容量

次の表に、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 2 of 2 CD、Solaris 9 8/03 LANGUAGES CD に含まれている日本語ロケール (ja、ja_JP.PCK、ja_JP.UTF-8) のパッケージをインストールするために必要なディスク容量を示します。Solaris 9 より、ファイルシステムの自動配置でデフォルトとして

選択される領域は、ルート (/) とスワップ (swap) だけになりました。記載されている値は、このデフォルトのファイルシステムでインストールする場合に必要なルートファイルシステムの推奨値 (括弧内は最小値) で、スワップ領域に必要な容量は含まれていません。

なお、Solaris suninstall プログラムで「ソフトウェアの選択」画面に実際に表示される各ソフトウェアグループの値は、スワップ領域を含んだ値です。この値は、インストールするシステムのディスクやメモリーのサイズによって異なります。

表 2-1 Solaris 9 8/03 (SPARC 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
全体ディストリビューション と OEM サポート	2097 (1783)
全体ディストリビューション	2057 (1749)
開発者システムサポート	1723 (1464)
エンドユーザーシステムサポート	1192 (1013)

注 - この表に記載されている値は、sun4u アーキテクチャのシステムにソフトウェアをデフォルトでインストールする場合に必要な容量で、64 ビット (sparc v9) サポートパッケージの容量を含んでいます。64 ビットパッケージをインストールしない場合や、sun4u 以外のアーキテクチャにインストールする場合には、この表の値よりも推奨値で 100M ~ 180M バイト、最小値で 90M ~ 150M バイトほど少ない容量で済みます。

表 2-2 Solaris 9 8/03 (x86 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
全体ディストリビューション と OEM サポート	1654 (1406)
全体ディストリビューション	1654 (1406)
開発者システムサポート	1450 (1233)
エンドユーザーシステムサポート	994 (845)

Solaris DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量

次の表に、アジア言語版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている、英語および日本語のドキュメントパッケージとその容量を示します (その他のアジア言語のパッケージは省略)。これらのパッケージのうち * 印がついているパッケージは、デフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-3 Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWadm *	Solaris 9 8/03 System Administrator Collection (HTML 版)	29
SUNWdev *	Solaris 9 8/03 Software Developer Collection (HTML 版)	20
SUNWids *	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) (HTML 版)	8
SUNWdocs *	Documentation Navigation for Solaris 9	1
SUNWjaadm *	Solaris 9 8/03 System Administrator Collection - Japanese (HTML 版)	28
SUNWjabe *	Solaris 9 User Collection - Japanese (HTML 版)	15
SUNWjaman *	Solaris 9 8/03 Reference Manual Collection - Japanese (HTML 版) ¹	15
SUNWjdad *	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (HTML 版)	9
SUNWjdev *	Solaris 9 8/03 Software Developer Collection - Japanese (HTML 版) ¹	14
SUNWjids*	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (HTML 版)	8
SUNWjinab *	Solaris 9 8/03 Release and Installation Collection - Japanese (HTML 版)	4
SUNWwnabj *	Solaris 9 8/03 About What's New Collection - Japanese (HTML 版)	1
SUNWjasdc *	Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (HTML 版) ¹	3
SUNWjqdoc *	Sun ONE Message Queue 3.0.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (HTML 版)	3
SUNWjgndoc *	GNOME 2.0 Desktop Collection - Japanese (HTML 版)	4
SUNWpaadm	Solaris 9 8/03 System Administrator Collection (PDF 版)	26
SUNWpdev	Solaris 9 8/03 Software Developer Collection (PDF 版)	20
SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) (PDF 版)	8

表 2-3 Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト) (続き)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWpjaadm	Solaris 9 8/03 System Administrator Collection - Japanese (PDF 版)	29
SUNWpjabe	Solaris 9 User Collection - Japanese (PDF 版)	15
SUNWpjaman	Solaris 9 8/03 Reference Manual Collection - Japanese (PDF 版) ¹	16
SUNWpjdad	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (PDF 版)	10
SUNWpjdev	Solaris 9 8/03 Software Developer Collection - Japanese (PDF 版) ¹	18
SUNWpjids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (PDF 版)	12
SUNWpjinaab	Solaris 9 8/03 Release and Installation Collection - Japanese (PDF 版)	5
SUNWpwnabj	Solaris 9 8/03 About What's New Collection - Japanese (PDF 版)	2
SUNWpjqdoc	Sun ONE Message Queue 3.0.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (PDF 版)	5
SUNWpjasd	Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (PDF 版) ¹	4
SUNWpjgndoc	GNOME 2.0 Desktop Collection - Japanese (PDF 版)	5

注 1: 一部のみの翻訳となりますので、全情報を参照する場合は、対応する英語のコレクションをご覧ください。

注 - * 印のついていない PDF 版のパッケージはデフォルトではインストールされません。これらのパッケージをインストールする場合には次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 2 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、パッケージを選択し、インストールを実行する。

次の表は、英語 + ヨーロッパ言語版の DOCUMENTATION 1 of 2 CD にのみ含まれており、日本語に翻訳されていないマニュアルを含む英語のドキュメントパッケージです。

それらのマニュアルをインストールする場合には、次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 1 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、該当するパッケージを選択し、インストールを実行する。

パッケージはデフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-4 Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
[英語]		
SUNWaman	Solaris 9 8/03 Reference Manual Collection (HTML 版)	54
SUNWpaman	Solaris 9 8/03 Reference Manual Collection (PDF 版)	29
SUNWakcs	KCMS Collection (HTML 版)	3
SUNWpakcs	KCMS Collection (PDF 版)	4
SUNWadoc	Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) (HTML 版)	14
SUNWpadoc	Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) (PDF 版)	20
SUNWaref	Sun ONE Application Server 7 Reference Manual Collection (HTML 版)	2
SUNWparef	Sun ONE Application Server 7 Reference Manual Collection (PDF 版)	1
SUNWgndoc	GNOME 2.0 Desktop Collection (HTML 版)	4
SUNWpgndoc	GNOME 2.0 Desktop Collection (PDF 版)	4

日本語環境の選択

Solaris 9 8/03 のインストール中に行うことができる、日本語環境の選択について説明します。日本語環境の選択では、「デフォルトロケール」と「インストールするロケール」の2つを選択します。インストール手順の詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris 9 8/03 は、次に示すように3種類の文字エンコーディングに対応した4つの日本語ロケールをサポートしています。

- EUC をサポートする ja および ja_JP.eucJP ロケール

- PCK (PC 漢字コード) をサポートする ja_JP.PCK ロケール (シフト JIS と同等)
- Unicode の UTF-8 をサポートする ja_JP.UTF-8 ロケール

デフォルトロケールの選択

インストール後のシステムのデフォルトロケールを選択します (具体的には、`/etc/default/init` ファイル内に LANG 環境変数が定義されます)。

日本語環境をインストールする場合に、システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールを選択しなければならないわけではありませんが、日本語ロケールを選択することをお勧めします。システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていると、たとえば、システムログイン時の LANG の設定を、ユーザーごとに環境設定ファイルで定義しなくても済むようになります。また、`dtlogin` の言語設定で、デフォルトで日本語ロケールが設定されます。

- Solaris Web Start 3.0 (CD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。システムのデフォルトロケールは、「ja」に設定されます。

- Solaris suninstall プログラムまたは Solaris Web Start 3.0 (DVD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。次に、日本語ロケールとして「Japanese EUC (ja)」、「Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)」、「Japanese UTF-8 (ja_JP.UTF-8)」のいずれかを選択してください。ここで選択したロケールが、システムのデフォルトロケールとして設定されます。

Solaris Web Start 3.0 インストールでは、次の手順を実行することでデフォルトロケールを選択し直すことができます。

(例) ja_JP.PCK ロケールをデフォルトロケールにする場合

1. 「インストールの形式の選択」画面で、「カスタムインストール」を選択する。
2. 「ソフトウェアのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールのチェックボックスを ON にする (ここでチェックされていないロケールは、次の選択画面で表示されません。)
3. 「システムのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールを選択する。

注 - いずれのインストール方法を選択した場合でも、ja_JP.eucJP ロケールをデフォルトロケールとして選択することはできません。

- システムのデフォルトロケールを、インストール後に設定または変更する場合には、`/etc/default/init` ファイルでの LANG 環境変数の設定を次のようにしてから、システムを再起動します。

ja ロケールに設定	LANG=ja
ja_JP.eucJP ロケールに設定	LANG=ja_JP.eucJP
ja_JP.PCK ロケールに設定	LANG=ja_JP.PCK
ja_JP.UTF-8 ロケールに設定	LANG=ja_JP.UTF-8
c ロケールに設定	LANG= の行を削除、または LANG=C

インストール前に、このデフォルトロケールをあらかじめ設定しておくことも可能です。この事前設定をしておく、GUI インストール時にもロケール設定画面が表示されません。この設定は、カスタム JumpStart による自動インストールの場合など、意図的にロケール設定画面を表示させたくない場合に有効です。¹

インストールするロケールの選択

インストールしたいロケールを選択すると、ロケールに依存するソフトウェアパッケージがインストールされます。日本語環境をインストールするには、必ず日本語パッケージをインストールする必要があります。

注 – Solaris 9 から、インストールするロケールとして、日本語ロケールを 1 つだけ選択した場合でも、すべての日本語ロケールがインストールされるようになりました。たとえば、ja ロケールのみを選択した場合でも、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK、および ja_JP.UTF-8 ロケールがインストールされます。

- DOCUMENTATION 2 of 2 CD を Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD からインストールする場合

後述のバグ情報にあるバグ ID: 4859494 のため、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD を使用して、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールする場合には、インストールするロケールの項で、対象言語の EUC ロケールが選択されている必要があります。Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD の「カスタムインストール」を選択した後、「ソフトウェアのロケール選択」画面で EUC のロケール (日本語環境の場合は ja ロケール) を選択し、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールするように設定してください。
- Solaris suninstall プログラムの場合

「地域の選択」画面で、インストールするロケールを選択します。この画面では、あらかじめ選択したシステムのデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、この画面では ja ロケールのみが選択されますが、実際にはすべての日本語ロケールがインストールされます。
- Solaris Web Start 3.0 インストールの場合

¹ デフォルトロケールの事前設定を行う方法には、「ネームサービスに事前に定義しておく方法」と「sysidcfg ファイルを使用する方法」の 2 通りがあります。詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

「インストール形式の選択」画面にて、「デフォルトインストール」を選択した場合、システムのデフォルトロケールのみが自動的に選択され、ロケールを選択するための画面は表示されません。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールのみがインストールされます。他の言語のロケールをインストールする場合は「カスタムインストール」を選択して、「ソフトウェアのロケール選択」画面で、追加したいロケールを選択してください。

- カスタム JumpStart インストールの場合

カスタム JumpStart インストールが参照するプロファイルに locale キーワードを追加します。²

日本語ロケール環境をインストールする場合には、locale キーワードの値に ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK または ja_JP.UTF-8 のいずれかを指定します。

なお、プロファイル中で locale キーワードを明示的に定義しない場合でも、デフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていれば、すべての日本語ロケール環境が自動的にインストールされます。

Solaris 9 8/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要がある注意事項

x86: Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD のパーティションに関する問題

Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD の Solaris™ Web Start 3.0 プログラムがシステムで Solaris の fdisk パーティションを検出できない場合は、root ディスクに fdisk パーティションを作成する必要があります。



注意 - 現行の fdisk パーティションサイズを変更すると、パーティション内のデータはすべて自動的に削除されます。Solaris の fdisk パーティションを作成する前に、データをバックアップしてください。

Solaris Web Start 3.0 プログラムでインストールを実行するためには、次の 2 つの fdisk パーティションが必要になります。

² locale キーワードは、日本語パッケージのインストールに影響しますが、システムのデフォルトロケールを決定するものではありません。

- Solaris の fdisk パーティション
標準的な Solaris の fdisk パーティションです。
- x86 ブート fdisk パーティション
10M バイトの fdisk パーティションです。x86 ベースのシステムで新しく作成されたスワップスライスからミニルートを起動できるようにします。そのスワップスライスは Solaris の fdisk パーティション上に置かれます。

注 - Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD に同梱されているインストールプログラムは、x86 ブートパーティションを作成し、Solaris の fdisk パーティションを 10M バイトだけ削除します。この削除により、既存の fdisk パーティションが変更されることはありません。

このパーティションは手動で作成しないでください。

また、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD を使用して Solaris 2.6 または 7 リリースから Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードすることはできません。詳細については、44 ページの「アップグレードに関する注意事項」を参照してください。

x86: 起動ディスクのデフォルトパーティションレイアウトの変更

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境では、起動ディスクに対するデフォルトのパーティションレイアウト方式が変更されました。Solaris Web Start および suninstall プログラムを使用して Sun LX50 システムをインストールする際にこの新しい方式を使用すると、既存の Service パーティションが保持されます。

新しいデフォルトの設定には次のパーティションが含まれています。

- 第 1 パーティション - Service パーティション (既存の Service パーティション)
- 第 2 パーティション - x86 ブートパーティション (約 11M バイト)
- 第 3 パーティション - Solaris パーティション (起動ディスクの残りの容量)

デフォルトのレイアウトを使用するには、Solaris Web Start または suninstall プログラムから起動ディスクのレイアウト選択を要求されたときに「デフォルト」を選択します。

注 – Service パーティションが作成されていないシステムに Solaris 9 8/03 オペレーティング環境 (x86 版) をインストールすると、Solaris Web Start および suninstall プログラムはデフォルトでは新しい Service パーティションを作成しません。システムに Service パーティションを作成するには、33 ページの「x86: Service パーティションがないシステムでは、デフォルトで Service パーティションが作成されない」を参照してください。

また、fdisk コマンドユーティリティを使用して、手動でディスクパーティションレイアウトを作成することもできます。次の場合、起動ディスクのパーティションを手動で編集します。

- 既存の Sun Linux パーティションを保持する場合
- Solaris パーティションを作成する必要があるが、既存のパーティションをディスクに残す場合

注 – システム上にアップグレード対象の Solaris オペレーティング環境がすでにインストールされているが x86 ブートパーティションがない場合、Solaris INSTALLATION CD によるアップグレードは実行できません。x86 ブートパーティションが作成されていないシステムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードするには、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD に同梱されている suninstall プログラムを使用してください。

SPARC: デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある

Solaris 9 8/03 メディアのデフォルトの Solaris JumpStart™ プロファイルを使用して、ディスク容量の小さいシステムに複数のロケールをインストールすると、インストールが失敗することがあります。この問題は、次の状況で発生する可能性があります。

- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、2.1 G バイトディスクのシステムに C ロケール以外のロケールをインストールする
- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、4 G バイトディスクのシステムに 2 つ以上のロケールをインストールする

x86: Service パーティションがないシステムでは、デフォルトで Service パーティションが作成されない

Service パーティションが存在しないシステムに Solaris 9 8/03 オペレーティング環境をインストールすると、インストールプログラムはデフォルトでは Service パーティションを作成しません。Service パーティションを Solaris パーティションと同じディスクに作成するには、Service パーティションを作成しなおしてから、オペレーティング環境をインストールする必要があります。

Solaris 8 2/02 オペレーティング環境を Sun LX50 システムにインストールする場合、インストールプログラムが Service パーティションを保存しない可能性があります。fdisk ブートパーティションのレイアウトを手動で編集して Service パーティションを保存しないと、インストールプログラムはインストール時に Service パーティションを削除します。

注 - Solaris 8 2/02 オペレーティング環境をインストールしたときに Service パーティションを明示的に保存しないと、Service パーティションを作成しなおして、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードできません。その場合、ソフトウェアを最初からインストールしなおす必要があります。

回避方法: Solaris パーティションを含むディスク上に Service パーティションがある場合は、次のいずれかを実行してください。

- Solaris Web Start インストールプログラムを使用し、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD からインストールするには、次の手順を実行します。

1. ディスクの内容を削除します。
2. インストールを開始する前に、Sun LX50 Diagnostics CD を使用して Service パーティションを作成します。

Service パーティション作成の詳細については、<http://www.sun.com> で『Sun LX50 Server User's Manual (英語版)』および Sun LX50 Knowledge Base (英語版) を参照してください。

3. Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
4. Solaris 9 8/03 オペレーティング環境のインストールを開始します。

インストールプログラムが Service パーティションを検出すると、次のメッセージが表示されます。

デフォルトでは、ブートディスクの空いている領域に、x86 Boot パーティションと Solaris パーティションが配置されます。サービス fdisk パーティションが存在する場合は、デフォルトで保持されます。

継続するには次のいずれかを選択してください:

- 1) デフォルトのディスク配置を使用する

- 2) fdisk を実行し、ディスクを手動で編集する
- 3) 終了する

選択してください: []

5. 1 を入力して、デフォルトレイアウトを選択します。
インストールプログラムにより Service パーティションが保存された後、x86 ブートパーティションと Solaris パーティションが作成されます。

注 - Solaris Web Start インストールプログラムは、Solaris の fdisk パーティションを 10M バイトだけ削除して x86 ブートパーティションを作成します。このユーティリティは、既存の fdisk パーティションが変更されないようにします。このパーティションを手動で作成しないでください。

6. インストールを完了します。
- ネットワーク上のインストールイメージを使用するか、Solaris 9 8/03 DVD を使用してネットワーク上でインストールするには、次の手順を実行します。
 1. ディスクの内容を削除します。
 2. インストールを開始する前に、Sun LX50 Diagnostics CD を使用して Service パーティションを作成します。
Service パーティション作成の詳細については、<http://www.sun.com> で『Sun LX50 Server User's Manual (英語版)』および Sun LX50 Knowledge Base (英語版) を参照してください。
 3. ネットワーク上でシステムを起動します。
「fdisk パーティションのカスタマイズ」画面が表示されます。
 4. 「デフォルト」をクリックし、デフォルトのブートディスクパーティションレイアウトを読み込みます。
インストールプログラムにより Service パーティションが保存された後、x86 ブートパーティションと Solaris パーティションが作成されます。
ネットワーク上でシステムをブートする詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。
 - suninstall プログラムを使用し、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD またはブートサーバー上のネットワークインストールイメージでオペレーティング環境をインストールするには、次の手順を実行します。
 1. ディスクの内容を削除します。
 2. インストールを開始する前に、Sun LX50 Diagnostics CD を使用して Service パーティションを作成します。
Service パーティション作成の詳細については、<http://www.sun.com> で『Sun LX50 Server User's Manual (英語版)』および Sun LX50 Knowledge Base (英語版) を参照してください。
 3. システムを起動します。

インストールプログラムで、Solaris パーティションの作成方法の選択を促すプロンプトが表示されます。

4. 「残りのディスクを使用して Solaris パーティションを配置します」を選択します。

インストールプログラムにより Service パーティションが保存された後、Solaris パーティションが作成されます。

5. インストールを完了します。

ネットワーク上でシステムをブートする詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

x86: Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) ブート用フロッピーディスクが使用できない

Solaris 9 8/03 リリースでは、Solaris 9 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) はブート用フロッピーディスクとして配布されていません。Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) をブートするには、次のいずれかの方法を選択してください。

- システムの BIOS が CD からのブートをサポートしている場合は、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD (x86 版)、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD (x86 版)、または Solaris 9 8/03 SOFTWARE DVD (x86 版) からブートします。
- システムが CD からのブートをサポートしていない場合は、ブート用ディスクのイメージをフロッピーディスクにコピーできます。ブート用ディスクのイメージは、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 2 of 2 CD (x86 版) にあります。
- システムが PXE (Preboot Execution Environment) によるブートをサポートしており、インストールイメージがネットワーク上で使用できる場合は、ネットワークからブートします。

システムの BIOS 設定ツールまたはネットワークアダプタの設定ツールを使用して、PXE の使用を有効にします。

詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

x86: Solaris 9 オペレーティング環境へアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS を最新のものに更新する必要がある

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境には、サイズの大きいパーティションをインストールするための新しい機能が追加されています。DPT PM2144UW コントローラの BIOS は、LBA (論理ブロックアドレス指定、Logical Block Addressing) をサポートしていなければなりません。最新の BIOS は、LBA アクセスを完全にサポートしています。LBA をサポートするために、ほかの DPT コントローラモデルも更新しなくてはならない場合があります。

回避方法: Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS が最新のバージョンであることを確認してください。

システムに DPT コントローラがインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

1. **prtconf -D** コマンドを実行します。
2. 名前 **dpt** が表示されたら、カードの構成ユーティリティを起動して、機種や BIOS のバージョンに関する情報を取得します。
3. BIOS をフラッシュするか、最新の **BIOS EPROM** をインストールして、**DPT PM2144UW** コントローラをアップグレードします。すべての **DPT** コントローラの最新の BIOS イメージについては、<http://www.dpt.com> を参照してください。

これで、システムをアップグレードできます。

x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境には、サイズが大きいパーティションをインストールできる新しい機能が含まれています。システム BIOS は Logical Block Addressing (LBA) をサポートしている必要がありますが、BIOS バージョン GG.06.13 は LBA アクセスをサポートしていません。このような衝突を Solaris ブートプログラムは処理できません。このことは他の HP Vectra システムにも影響します。

このシステムをアップグレードすると、HP システムはブートしなくなります。暗い画面上に点滅する下線が表示されるだけです。

回避方法: 最新の BIOS バージョン GG.06.13 の HP Vectra XU シリーズシステムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードしないでください。Solaris 9 8/03 オペレーティング環境では、これらのシステムはサポートされていません。

ブートフロッピーディスクまたはブート CD を使用すれば、ブートにハードディスクコードを使用しないので、システムをブートすることができます。ブート可能デバイスとして、ネットワークまたは CD-ROM ドライブではなくハードディスクを選択してください。

Solaris 9 8/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ

Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)

システムに、ファームウェアリビジョン 1007 の Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブが含まれていると、Solaris 9 8/03 DVD からのブートが失敗します。

回避方法: パッチ 111649-03 以降を適用して Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブのファームウェアを更新します。パッチ 111649-03 は、Solaris 9 8/03 Supplement CD の次のディレクトリにあります。

DVD_Firmware/Patches

パッチのインストール方法については、上記のディレクトリにある README ファイルを参照してください。パッチをインストールする前に、README ファイルに記載されている注意事項や警告内容のすべてに目を通して、その内容に従って作業してください。

Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 8/03 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)

Solaris 2.6 オペレーティング環境または Solaris 7 オペレーティング環境を実行しているシステムでは、Solaris 9 8/03 DVD がボリューム管理によって正しくマウントされません。そのため、インストールサーバーを設定したり、Live Upgrade を実行したり、メディア上のデータにアクセスしたりできません。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- システムに対応したパッチを適用する。

表 2-5 Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境用の DVD パッチ

リリース	パッチ ID
Solaris 2.6 オペレーティング環境 (SPARC 版)	107618-03
Solaris 7 オペレーティング環境 (SPARC 版)	107259-03
Solaris 2.6 オペレーティング環境 (x86 版)	107619-03
Solaris 7 オペレーティング環境 (x86 版)	107260-03

- Solaris 9 8/03 DVD をマウントする。
ただし、ボリューム管理を使用しないでください。次の手順に従って、手動で DVD をマウントします。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. ボリューム管理を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```
 3. 手動で DVD をマウントします。

```
# mkdir /mnt1
# mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /mnt1
```
 4. DVD がマウントされていて、DVD 上のデータにアクセスできることを確認します。

```
# cd /mnt1
# ls
```

DVD が正しくマウントされている場合は、システムから次の情報が返されます。

```
Copyright Solaris_9
```

Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報

Solaris Web Start 3.0 を使用したインストールに関する情報と問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris suninstall プログラムを使用するときには発生しません。

Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 8/03 ドキュメントをインストールする方法

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD (英語版 + ヨーロッパ言語版) には、英語のドキュメントがすべて含まれています。アジア版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD には、一部のアジア言語にだけ翻訳されている、またはまったく翻訳されていない、以下の英語ドキュメントが含まれています。

Solaris 9 8/03 Software Developer Collection

Solaris 9 8/03 System Administrator Collection

iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition)

DOCUMENTATION 2 of 2 CD に付属のインストーラでは、これらのドキュメントの HTML 版が、デフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からインストールする必要があります。

Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD から Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris オペレーティング環境をインストールする場合、上記の英語版 HTML ドキュメントは DOCUMENTATION 2 of 2 CD からデフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、Solaris Web Start 3.0 の「製品の選択」画面で「Solaris 9 Documentation European」を選択して、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からドキュメントをインストールしてください。

インストール全般に関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 8/03 のインストール全般に関する注意事項とバグ情報を説明します。

x86: 3Com 3C905C ネットワークカードを使用すると、PXP ブートが失敗する (バグ ID: 4847803)

3Com 3C905C ネットワークカードを使用して Solaris オペレーティング環境をインストールする場合に Preboot Execution Environment (PXE) を使用すると、システムがハングアップしてブートが失敗する可能性があります。

回避方法: 3Com 3C905C ネットワークカードといっしょに 3Com Managed Boot Agent (MBA) バージョン 4.11 を使用するか、または別の種類のネットワークカードを使用してください。

SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)

複数のネットワークインタフェースを持つシステムに Solaris 9 8/03 オペレーティング環境をインストールまたはアップグレードした場合、システムはすべてのシステムインタフェースが使用可能であると認識します。つまり、ネットワークにプラグインされていない、あるいは使用する予定のないインタフェースが `ifconfig -a` コマンドの出力に表示されます。さらに、同じイーサネットアドレスを持つインタフェースに同じ IP アドレスが割り当てられることがあります。その場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ifconfig: setifflags: SIOCSLIFFLAGS: qfe3: Cannot assign requested address
```

この問題は、`local-mac-address` PROM 変数が `false` に設定されているシステム上でも発生します。この問題が発生するのは、すべてのインタフェースが同じ IP アドレスで構成されるためです。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 構成されたインタフェースだけを使用するには、初期ブート後にシステムをリブートする。
- 各ネットワークインタフェースに異なる IP アドレスを割り当てるには、次のいずれかの方法で `local-mac-address` PROM 変数を `true` に設定する。
 - `ok` プロンプトで、次のコマンドを入力する。

```
ok setenv local-mac-address? true
```
 - スーパーユーザーとして、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
# eeprom local-mac-address?=true
```

スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)

同梱されている CD を、その CD に含まれている Solaris Web Start 2.x (installer) を使用して日本語ロケール (日本語表示) でインストールしているときに、スワップ容量の不足のためインストールが失敗することがあります。この場合、コンソールにエラーメッセージが表示されますが、エラーメッセージは次のように文字化けしています。

RunCmd Error:java.io.IOException: ??????????????????????

回避方法:同梱されている CD に含まれている Solaris Web Start 2.x は、実行時におよそ 50M バイトのメモリーを消費します。Solaris Web Start 2.x を使用してインストールする場合は、`swap -s` コマンドなどで空きスワップ容量を確認し、不足している場合は、メモリーの消費量が多いアプリケーションを終了するか、スワップファイルを作成してスワップ領域を追加してください。詳細は、`swap (1M)` のマニュアルページを参照してください。

[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される

選択したデフォルトロケールに関係なく、`install_log`、`upgrade_log` などの Solaris のインストールログファイルは、EUC (ja ロケール) テキストとして生成されます。

回避方法:コードコンバータで変換して参照するか、テキストエディタなどの GUI ツールを ja ロケールで起動して参照してください。

[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力

日本語タイプ 5 キーボードは OpenBoot PROM のバージョンによっては、モニターレベルでタイプ 4 キーボードとして動作します。そのため、モニターレベルでは、キーボード上の印字と実際の入力が一部異なります。次の表を参照してください。その他の注意事項は、U.S. タイプ 5 キーボードと同じです。『Sun タイプ 5 キーボードプロダクトノート』を参照してください。

表 2-6 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字

日本語タイプ 5 キーボード上の印字	実際の入力文字
“	@
&	^
'	&
(*
)	(
Shift-0)
=	-

表 2-6 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字 (続き)

日本語タイプ 5 キーボード上の印字	実際の入力文字
~	+
^	=
¥	\
@	[
'	{
[]
{	}
+	:
:	'
*	"
]	'
}	~
-	LF
\	LF

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD からインストールする場合の注意事項と問題について説明します。

ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)

インストール中、ファイルシステムの作成時に、次のどちらかの警告メッセージが出力される可能性があります。

```
Warning: inode blocks/cyl group (87) >= data blocks (63) in last
cylinder group. This implies 1008 sector(s) cannot be allocated.
```

または

```
Warning: 1 sector(s) in last cylinder unallocated
```

この警告メッセージは、作成中のファイルシステムのサイズと使用しているディスク上の容量が等しくない場合に表示されます。この場合、ディスク上に、作成中のファイルシステムには取り込まれない未使用の領域ができます。この未使用のディスク領域は、他のファイルシステムに割り当ててはできません。

回避方法: 警告メッセージは無視してください。警告メッセージが表示されても問題は発生しません。

[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項

CD からのインストールにおいて、ソフトウェアグループとして「コアシステムサポート」を選択した場合、インストールするロケールとして日本語ロケールを選択しても、LANGUAGES CD に含まれる日本語パッケージはインストールされません。これは、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールが完了し、システムがリブートした後、コアシステムの環境で LANGUAGES CD のインストールを起動できないためです。

回避方法: インストール終了後、次のように pkgadd (1M) コマンドを使用して LANGUAGES CD に含まれる必要な日本語パッケージをインストールしてください。

```
# cd /cdrom/sol_9_803_lang_sparc/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjfpref SUNWjfpue SUNWjos SUNWjws2
```

LANGUAGES CD のイメージを含むインストールサーバーを使用して Solaris suninstall プログラムによるインストールを行う場合や、Solaris Web Start 3.0 でインストールする場合は、この問題は起こりません。

インストール時またアップグレード時に発生するバグ情報

Solaris WBEM プロバイダパッケージ SUNWwbpro をインストールすると、無効なエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4824518)

Solaris 8/03 オペレーティング環境をインストールする場合、次のエラーメッセージが `/var/sadm/system/logs/install_log` ファイルに記録されます。

```
/tmp/Solaris_Application.mof: No such file or directory
```

Solaris 8/03 オペレーティング環境をアップグレードする場合、同じエラーメッセージが `/var/sadm/system/logs/upgrade_log` ファイルに記録されます。

このメッセージは、Solaris WBEM プロバイダパッケージ (SUNWwbpro) のインストール時に表示されます。

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。パッケージのインストールに影響はありません。このエラーメッセージは、インストールプログラムが、存在しない一時ファイルを削除しようとするために記録されます。

アップグレードに関する注意事項

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない

使用している Solaris 8 システムが、Storage Area Network (SAN) に接続されている場合、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードする前にサポートエンジニアに確認してください。SUNWsan がインストールされている Solaris 8 システムを、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードするには特別な手順が必要ながあります。システムに SUNWsan パッケージがインストールされているかどうかを確認するには、端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
# pkginfo SUNWsan
```

SUNWsan パッケージがインストールされていると、次の情報が表示されます。

```
system          SUNWsan          SAN Foundation Kit
```

Solaris suninstallプログラムによるアップグレードでのロケール選択

Solaris 8 から、インストールするロケールを選択する機構が変更されました。このため、Solaris suninstallプログラムを使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 9 8/03 へアップグレードすると、既存システムのインストール時に明示的にインストールしなかったロケールが「地域の選択」画面で自動的に選択されます。これは、既存システムのインストール時に明示的に指定していないロケールのソフトウェアが、暗黙のうちにインストールされていたためです。

既存システムのインストール時にインストールするロケールとして明示的に指定しなかったロケールが含まれている地域を、「地域の選択」画面で選択解除することができます。余分なロケールをそのまま選択解除せずにアップグレードを行っても問題はありません。アップグレードしたシステムには、アップグレード前と同じレベルのロケール環境がサポートされます。ただし、既存のシステムに明示的にインストールしたロケールは、「地域の選択」画面で削除することはできません。

x86: Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD (x86 版) を使用して x86 システムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードできない

x86 ブートパーティションに関する制限事項のために、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD (x86 版) を使用して、Solaris 2.6 または Solaris 7 の x86 システムを Solaris 9 へアップグレードすることはできません。x86 システムでは、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD (x86 版) を使用して、Solaris 2.6 または Solaris 7 から Solaris 9 8/03 へのアップグレードを行なってください。

旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない

Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアは、旧バージョンの Solaris Management Console 1.0、1.0.1、1.0.2 ソフトウェアと互換性がありません。Solaris Management Console™ 1.0、1.0.1、1.0.2 のいずれかのソフトウェアがインス

トールされた状態で Solaris 9 8/03 オペレーティング環境およびその互換バージョンにアップグレードしたい場合は、Solaris Management Console ソフトウェアをアンインストールする必要があります。システムに SEAS 2.0、SEAS 3.0、Solaris 8 Admin Pack のいずれかがインストールされていると、Solaris Management Console ソフトウェアが終了することがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アップグレードする前に /usr/bin/prodreg コマンドを実行して、Solaris Management Console ソフトウェアのフルアンインストールを行います。
- アップグレード前に Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 をアンインストールしていなかった場合は、Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 のすべてのパッケージを削除する必要があります。パッケージの削除には prodreg コマンドではなく、pkgrm コマンドを使用します。必ず、手順に記載された順番どおりに削除してください。以下の手順に従います。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを実行します。

```
# pkginfo |grep "Solaris Management Console"  
# pkginfo |grep "Solaris Management Applications"  
# pkginfo |grep "Solaris Diskless Client Management Application"
```

上記の出力結果で、パッケージ名の説明文の先頭に「Solaris Management Console 2.1」という文字列がない場合、そのパッケージは Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアのパッケージです。

3. pkgrm を使用して、Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 - 説明文に「Solaris Management Console 2.1」という文字列が含まれているパッケージは削除しないでください。たとえば、SUNWmc.2 は Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアのパッケージです。

pkginfo の出力に、複数のバージョンの Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージが含まれている場合は、pkgrm を使用して、すべてのバージョンを削除してください。このとき、パッケージ名の末尾に番号が付いていないものを先に削除します。その後で、末尾に番号が付いているものを削除してください。たとえば、pkginfo の出力に SUNWmcman と SUNWmcman.2 が含まれている場合、最初に SUNWmcman を削除して、次に SUNWmcman.2 を削除します。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWmcman  
# pkgrm SUNWmcapp  
# pkgrm SUNWmcsvr  
# pkgrm SUNWmcsvu  
# pkgrm SUNWmc  
# pkgrm SUNWmcc  
# pkgrm SUNWmcsws
```

4. 端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# rm -rf /var/sadm/pkg/SUNWmcapp
```

これで Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。将来 Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアの保守を行う際は、または、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアが正しく機能しない場合は、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアをいったん削除します。次の手順で再インストールしてください。

1. pkgrm を使用して、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 - SUNWmc と SUNWmc.2 のように、ある Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアパッケージに対して複数のインスタンスがシステム上に存在する場合は、最初に SUNWmc を削除して、次に SUNWmc.2 を削除してください。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWjadcl
# pkgrm SUNWjrmui
# pkgrm SUNWjlvmg
# pkgrm SUNWjmga
# pkgrm SUNWjsmc
# pkgrm SUNWpmgr
# pkgrm SUNWrmui
# pkgrm SUNWlvmg
# pkgrm SUNWlvma
# pkgrm SUNWlvmr
# pkgrm SUNWdclnt
# pkgrm SUNWmga
# pkgrm SUNWmgapp
# pkgrm SUNWmcdev
# pkgrm SUNWmcex
# pkgrm SUNWwbmc
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmccom
```

2. Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_803_sparc/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmgapp
```

3. CD を取り出して、Solaris 9 8/03 SOFTWARE 2 of 2 CD を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_803_sparc_2/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmccom SUNWmcc SUNWmc SUNWwbmc SUNWmcex SUNWmcdev SUNWmga SUNWdclnt
```

4. CD を取り出して、Solaris 9 8/03 LANGUAGES CD を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_803_lang_sparc/s0/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjsmc SUNWjmga SUMWjadcl SUNWjlvmg SUNWjrmui
```

これによって、すべての旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアが削除され、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。

アップグレード時に発生するバグ情報

Solaris フラッシュ差分アーカイブをインストールするときに luupgrade コマンドを使用すると問題が発生する (バグ ID: 4890708)

Solaris Live Upgrade を使用して新しいブート環境を作成した場合、luupgrade コマンドを使用して新しいブート環境に Solaris フラッシュ差分アーカイブをインストールすることはできません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
/usr/sbin/luupgrade[607]: ludo: not found
```

Solaris フラッシュ差分アーカイブは、Solaris フラッシュアーカイブを使用してアップグレードされたブート環境での、オペレーティング環境に対するマイナーな更新を集めたものです。

回避方法: luupgrade コマンドを使用して差分アーカイブをインストールするには、`/etc/default/lu` ファイルを編集します。既存の `PATH` 変数の設定を書き換えて、`/etc/lib/lu` がパスの要素の先頭になるようにします。

下記のパス設定のままでは使用できません。

```
PATH=/etc:/sbin:/usr/bin:/usr/sbin:$PATH
```

パスを次のように書き換えます。

```
PATH=/etc/lib/lu:/etc:/sbin:/usr/bin:/usr/sbin:$PATH
```

詳しくは、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

アップグレード時に、SUNWceudt パッケージをインストールできない (バグ ID: 4826785)

Solaris 9、Solaris 9 9/02、Solaris 9 12/02、または Solaris 9 4/03 オペレーティング環境から Solaris 9 8/03 リリースにアップグレードする場合、pkgchk コマンドに `-n` オプションを使用すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/datatypes.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/develop.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/dtfile.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/dtmail.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/dtpad.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/print.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/uxstd.dt
pathname does not exist
```

回避方法: Solaris 9 8/03 DVD または Solaris 9 8/03 Software 1 of 2 CD を使用して、SUNWceudt パッケージを追加し直します。次の手順に従います。

1. スーパーユーザーになります。
2. SUNWceudt パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWceudt
```

3. 製品ディレクトリに移動します。

```
# cd path_to_Solaris_9/Product
```

4. SUNWceudt パッケージを追加し直します。

```
# pkgadd -d `pwd` SUNWceudt
```

Solaris Live Upgrade の使用時にインストールプログラムが表示するテキストに関する問題 (バグ ID: 4736488)

Solaris Live Upgrade で `luupgrade (1M)` コマンドに `-i` オプションを指定して、アクティブでないブート環境をアップグレードした場合、言語によってはインストールプログラムが表示するテキストが判読不能になります。これは、現在のブート環境にはあるが古いリリースには存在しないフォントを、インストールプログラムが要求した場合に発生します。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- SOFTWARE 1 of 2 CD、2 of 2 CD、および LANGUAGES CD を統合したネットワークインストールイメージを使用してインストールします。
- システムの環境変数を設定し、C ロケールを有効にします。
 - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. C ロケールを設定します。


```
# LANG=C; export LANG
```
 2. インストールを開始します。
 - C シェルを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. 次のコマンドを入力します。


```
# csh
```
 2. C ロケールを設定します。


```
# setenv LANG C
```
 3. インストールを開始します。

SPARC: アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (バグ ID: 4525236)

Solaris 8 オペレーティング環境から Solaris 9 またはそれ以降のオペレーティング環境へのアップグレードの際、SUNWjxcft パッケージが削除されるときに、次のようなエラーメッセージが `upgrade_log` ファイルに記録されます。

```
Removing package SUNWjxcft:
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias
```

```
Removal of <SUNWjxcft> was successful
```

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。アップグレード後の環境で問題は発生しません。

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)

/etc/init.d/sshd デーモンから他社の Secure Shell (OpenSSH など) を実行しているシステムの場合、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードすると、既存の Secure Shell デーモンが使用できなくなります。アップグレード時に、Solaris 9 8/03 のアップグレードソフトウェアが、Solaris 9 8/03 の sshd で /etc/init.d/sshd の内容を上書きし、既存の sshd が失われます。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムが不要な場合は、アップグレード時に SUNWsshdr パッケージと SUNWsshdu パッケージをインストールしない。
- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムもクライアントプログラムもどちらも不要な場合は、アップグレード時に Secure Shell Cluster (SUNWCssh) をインストールしない。

/export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)

/export ディレクトリの空き容量がゼロに近い状態で、システムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードしようとする、/export ディレクトリ容量の必要条件の計算に誤りが発生し、アップグレードに失敗します。この問題は、ディスククライアントがインストールされているか、/export ディレクトリに他社製のソフトウェアがインストールされている場合によく発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: Insufficient space for the upgrade.
```

回避方法: アップグレードの前に、次のいずれかを実行してください。

- アップグレードが完了するまで、一時的に /export ディレクトリの名前を変更する
- アップグレードが完了するまで、/etc/vfstab ファイル内の /export の行を一時的にコメントアウトする
- /export が別のファイルシステムである場合は、アップグレードを実行する前に /export のマウントを解除する

ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)

現在のシステムが、Solstice AdminSuite™ 2.3 の Diskless Client ツールによってインストールされたディスクレスクライアントをサポートしている場合、2つの手順を実行する必要があります。まず、既存のディスクレスクライアントのうち、サーバーと同じ Solaris バージョンで同じアーキテクチャのものをすべて削除します。そのあとで、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境をインストールするか、または Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードします。具体的な手順については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

ディスクレスクライアントを削除せずに Solaris 9 8/03 をインストールしようとする、次のようなエラーメッセージが表示されます。

スライス <xxxxxxx> 上の Solaris のバージョン (*version-number*) がアップグレードできません。ディスク上にインストールされたソフトウェア構成に未知の問題があります。

このエラーメッセージの *version-number* は、現在、システムで稼働している Solaris のバージョンを表します。<xxxxxxx> は、このバージョンの Solaris オペレーティング環境を実行しているスライスです。

アップグレード後に発生するバグ情報

SPARC: アップグレード後にパッチを削除すると WBEM リポジトリが破壊されることがある (バグ ID: 4820614)

次のような手順で操作した場合、WBEM リポジトリの CIM データベースが破壊される可能性があります。

- Solaris 9 オペレーティング環境を実行しているシステムに Solaris 9 リリースのパッチ 112945 のリビジョンを適用します。
- 上の手順で適用したパッチを削除します。

WBEM リポジトリが破壊された場合、Solaris 管理コンソールのログビューアに次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_FAILED:
/usr/sadm/lib/wbem/../../../../var/sadm/wbem/logr/
preReg/PATCH113829install/Solaris_Application.mof,18,ERR_SEM,
ERR_EXC_SET_CLASS,CIM_ERR_FAILED:Other Exception:
```

```
java.io.StreamCorruptedException: invalid stream header
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

■ WBEM リポジトリの破壊を防ぐには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. パッチを適用する前に、WBEM リポジトリのバックアップを作成します。

```
# cp -r /var/sadm/wbem/logr path/logr
```

path には、バックアップ用 WBEM リポジトリのパスを指定します。

3. パッチのバックアウト後、WBEM リポジトリが破壊されたら、WBEM サーバーを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

4. バックアップ用 WBEM リポジトリを復元します。

```
# cp -rf path/logr /var/sadm/wbem/logr
```

5. WBEM サーバーを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

■ 次の手順で、新しい WBEM リポジトリを作成します。

注 – この方法では、すでに破壊された WBEM リポジトリのデータを回復することはできません。インストール時にリポジトリに追加されたデータはすべて失われます。

1. スーパーユーザーになります。
2. WBEM サーバーを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

3. /logr ディレクトリからファイルを削除します。

```
# rm /var/sadm/wbem/logr/*
```

4. /notFirstTime ディレクトリを削除します。

```
# rmdir notFirstTime
```

5. WBEM サーバーを起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

6. 独自の Managed Object Format (MOF) ファイルを手動でコンパイルします。

```
# /usr/sadm/bin/mofcomp MOF-filename
```

アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)

Solaris 9 8/03 へのアップグレードを行うと、アップグレード時に設定したデフォルトロケールがシステムのデフォルトロケールに正しく設定されない場合があります。

Solaris 9 8/03 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用したアップグレードの場合、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールの終了後、自動ブートしたシステムが英語環境で起動し、SOFTWARE 2 of 2 CD および LANGUAGES CD のインストール画面が英語で表示されることがあります。

回避方法: アップグレード終了後、システムのデフォルトロケールを /etc/default/init ファイルの LANG 環境変数に設定してください。

日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4677463)

Solaris 8 および Solaris 8 アップデトリリリースから Solaris 9 8/03 へアップグレードを行うと、古いフォント設定ファイル (ファイル末尾に :8 が付く) が残ります。

回避方法: 古いフォント設定ファイルは削除してください。

```
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias:8
```

64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報

64 ビット Solaris をインストールする場合の、注意事項とバグ情報について説明します。

SPARC: 一部の Sun UltraSPARC システム (sun4u) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある

注 - システムがすでに 64 ビット対応のファームウェアを実行している場合、Flash PROM のアップデートは不要です。

UltraSPARC® システム上で 64 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合、Flash PROM ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。Solaris 9 8/03 インストールプログラムには、64 ビットサポートを追加する選択肢があります。UltraSPARC システムにインストールする場合は、この 64 ビットサポートがデフォルトで選択されます。64 ビットシステムは、200MHz 以上の CPU 速度を持つ場合のみ、デフォルトで 64 ビットでブートします。

注 - Sun システムまたは UltraSPARC システムで 32 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合は、Flash PROM のアップデートは不要です。

次の表に、UltraSPARC (sun4u™) システムと必要な最小限のファームウェアバージョンを示します。システムタイプは、`uname -i` コマンドを実行して確認できます。実行中のファームウェアバージョンは、`prtconf -v` コマンドを実行して確認できます。

表 2-7 UltraSPARC システム上で 64 ビット Solaris を実行するために必要なファームウェアバージョン

システムタイプ (<code>uname -i</code> で出力される)	必要最小限のファームウェアバージョン (<code>prtconf -v</code> で出力される)
SUNW,Ultra-1-Engine	3.10.0
SUNW,Ultra-1	3.11.1
SUNW,Ultra-2	3.11.2
SUNW,Ultra-4	3.7.107
SUNW,Ultra-Enterprise	3.2.16

注 - この表に記載されていないシステムでは、Flash PROM をアップデートする必要はありません。

Solaris CD を使用して Flash PROM をアップデートする方法については、「*Solaris 9 on Sun Hardware Collection*」のマニュアルをご覧ください。このコレクション中のマニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照することができます。

DOCUMENTATION CD に関する注意事項

Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前のドキュメントパッケージをインストールできない

翻訳された PDF 形式の文書コレクションの中には、パッケージ名が 9 文字を超えるものがあります。Solaris 7 または 8 オペレーティング環境が稼働しているサーバーに、このような PDF コレクションをインストールする場合は、先にパッチを 2 つインストールしておく必要があります。

注 - このリリースの時点では、Solaris 2.6 サーバー用のパッチはありません。

回避方法: 各パッチのインストール手順については、DOCUMENTATION CD の最上位ディレクトリ (DVD の場合は最上位ディレクトリにある 1of2_Doc_CD/ ディレクトリまたは 2of2_Doc_CD/ ディレクトリ) にある index.html ファイルの「システムにドキュメントパッケージをインストールする」を参照してください。

DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)

Solaris 9 Product Registry から立ち上げる Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の uninstaller で「全体」を選択した場合、uninstaller はデフォルトでインストールされるマニュアルパッケージしか削除しません。

回避方法: uninstaller のアンインストール形式の選択で「部分」を選択して、アンインストールしたいパッケージを選択します。

特定のロケールで Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD が Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールしない (バグ ID: 4859494)

特定のロケールでは Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD を使用する場合、インストールプログラムは Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD からパッケージをインストールするかどうかをたずねません。この問題は、EUC 以外の次のロケール選択で発生します。EUC ロケール (日本語環境なら ja ロケール) を選択することで問題は回避できます。

- ja_JP.PCK
- ja_JP.UTF-8
- ko.UTF-8
- zh.GBK
- zh.UTF-8
- zh_CN.18030
- zh_HK.BIG5HK
- zh_HK.UTF-8
- zh_TW.BIG5
- zh_TW.UTF-8

回避方法: 次のいずれかの回避方法を選択してください。

- Solaris 9 8/03 ソフトウェアをインストールするときに、デフォルトのインストールロケールとして、EUC ロケール (ja、ko、zh、または zh_TW) の 1 つを選択する。

- Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD から、直接 installer ユーティリティを実行する。

コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)

-nodisplay オプションを指定して Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用すると、確認画面が正しく表示されないことがあります。

回避方法: Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用するときに、-nodisplay オプションを指定しないでください。Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD をインストールするときには、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) モードを使用してください。

インストール時のローカライズに関する注意事項

選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある

Solaris 9 8/03 では、インストールするロケールを選択した場合、関連するほかのロケールもインストールされることがあります。これは、すべての完全ロケール (メッセージが翻訳されている) とアジアおよび日本語の部分ロケールが、言語単位でパッケージ化し直されたためです。ほかの部分ロケールは従来通りに地理上の分類 (中央ヨーロッパなど) に基づいて、パッケージ化されてインストールされます。

インストール時のローカライズに関する バグ情報

Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォント パッケージが Solaris 9 8/03 オペレーティング環境 にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)

簡体字中国語または繁体字中国語のロケールを含んだ Solaris 9 Beta Refresh オペレーティング環境を実行しているシステムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードする場合、簡体字中国語と繁体字中国語の CDE フォント各国語対応パッケージ (SUNWcdft または SUNWhdft) が適切な Solaris 9 8/03 パッケージにアップグレードされないため、アップグレードは正常に完了しません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Removing package SUNWcdft:
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
  /a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.EUC: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
  /a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.GBK: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
  /a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.UTF-8: does not exist
pkgrm: ERROR: postremove script did not complete successfully
```

回避方法: Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris 9 Beta Refresh の postremove ファイルを適宜削除します。

```
# rm /var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove
# rm /var/sadm/pkg/SUNWhdft/install/postremove
```

タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語 を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング 環境を実行しているシステムをアップグレードす ると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)

Solaris 8 Language Supplement CD がインストールされている Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているシステムを Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードする場合、いくつかの無効なパッケージがあります。タイ語、ロシア

語、ポーランド語、およびカタロニア語のロケールパッケージがシステムに残ります。これらのロケールパッケージでは ARCH=sparca11 が設定されているので、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境へのアップグレード時に削除されません。

回避方法: Solaris 9 8/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris Product Registry アプリケーションを使用して Solaris 8 Languages Supplement CD パッケージを削除してください。

第 3 章

実行時の注意事項とバグ情報

この章では、問題として認識されている実行時の問題について説明します。

この章には、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 8/03 ご使用にあたって』の発行後に見つかった、実行時の以下のバグに関する説明が追記されています。

- 103 ページの「UFS で mount コマンドに noatime オプションと logging オプションの両方を使用すると、ファイルシステムが破壊されることがある (バグ ID: 4884138)」
- 63 ページの「x86: qmon アプリケーションを実行すると、判読不能な文字が表示される (バグ ID: 4649547)」
- 78 ページの「x86: e1000g インタフェースで IPv6 を使用すると障害が発生することがある (バグ ID: 4874857)」
- 68 ページの「x86: Sun4U ディスクレスクライアントを確立できない (バグ ID: 4878696)」

スマートカードのバグ情報

スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094)

ocfserv が終了し、ディスプレイがロックされている場合は、スマートカードを挿入しても取り出しても、システムはロックされたままになります。

回避方法: 次の手順を実行してシステムのロックを解除してください。

1. ocfserv プロセスが終了したマシンにリモートログインして接続します。

2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで次のように入力して、`dtsession` プロセスを終了させます。

```
% pkill dtsession
```

`ocfserv` プロセスが再起動し、スマートカードのログインおよびその他の機能が復元されます。

スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632)

スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目を使用して、`/etc/smartcard/opencard.properties` にあるスマートカードの構成ファイルを編集することができません。メニュー項目を選択すると、テクニカルサポートを受けないと編集を継続できないことを示す警告メッセージが表示されます。

回避方法: スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目は使用しないでください。スマートカードの設定に関する情報は、『Solaris スマートカードの管理』を参照してください。

共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項とバグ情報

Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項

Solaris 9 では、文字集合 JIS X 0212:1990 に対するフォントが、「HeiseiMin-W3H」から、「HG-GothicB-Sun」と「HG-MinchoL-Sun」に変更になりました (今までの平成明朝体も引き続きインストールされますが、利用するにはシステム側の変更が必要となります)。

また、文字集合 JIS X 0213:2000 に関しては UTF-8 ロケール上で利用可能ですが、UNICODE3.1 で定義された文字集合が対象となります (ただし、Java および DPS からの利用はできません)。

x86: qmon アプリケーションを実行すると、判読不能な文字が表示される (バグ ID: 4649547)

qmon アプリケーションの実行中、画面に判読不能な文字が表示される可能性があります。

回避方法: パッチ 114602-03 をダウンロードしてインストールしてください。このパッチは、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。

CDE のリムーバブルメディア自動実行機能が削除されている (バグ ID: 4634260)

CDE デスクトップ環境のリムーバブルメディア自動実行機能は、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境から一時的に削除されています。

回避方法: CD-ROM などのリムーバブルメディアの自動実行機能を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- リムーバブルメディアのファイルシステムに移動し、最上位のディレクトリで `volstart` プログラムを実行します。
- CD に記載されている指示に従って、CDE 以外の環境からリムーバブルメディアにアクセスします。

SPARC: FontList オプションが指定されている場合、コマンド行から起動した dtmail がクラッシュする (バグ ID: 4677329)

dtmail をコマンド行から起動した場合、FontList オプションが指定されていると、IMAP サーバーに接続した後で dtmail がクラッシュします。次の例を参照してください。

```
/usr/dt/bin/dtmail -xrm "Dtmail*FontList: -*-r-normal-*:"
```

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Segmentation Fault
```

この問題は、C および ja ロケールの両方で発生します。

回避方法: dtmail をコマンド行から起動するときは、FontList オプションを指定しないでください。

行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793)

Solaris 9 8/03 Unicode または UTF-8 ロケールで、行数の多い電子メールメッセージを読むと、CDE Mailer (dtmail) がハングアップしたようになり、メッセージがすぐには表示されません。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- 132 桁が表示されるように、dtmail メールボックスウィンドウを拡大する。
- 次の手順で、Complex Text Layout 機能を使用不可にする。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 使用システムのロケールディレクトリに切り替えます。

```
# cd /usr/lib/locale/locale-name
```

上の例では、*locale-name* はシステムの Solaris 9 8/03 Unicode ロケール名または UTF-8 ロケール名です。

3. ロケールレイアウトエンジンのカテゴリ名を変更します。

```
# mv LO_LTYPE LO_LTYPE-
```

注 - パッチを適用する場合は、ロケールレイアウトエンジンのカテゴリ名を元の名前 (LO_LTYPE) に戻してから、ロケールレイアウトエンジンにパッチを適用してください。

Solaris PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435)

デスクトップから最後のエントリを削除した後に、PDA デバイスに対して同期処理を実行すると、最後のエントリが PDA デバイスからデスクトップに復元されてしまいます。たとえば、カレンダーの最後のアポイントメントやアドレス帳の最後のアドレスが、削除した後に復元されてしまいます。

回避方法: 同期処理を実行する前に、PDA デバイスから最後のエントリを手動で削除してください。

Solaris PDA Sync のロケールとはコードセットが異なる PDA デバイスとデータを交換する場合の注意事項

Solaris PDA Sync で日本語などの複数バイト文字を扱えるようになりましたが、PDA デバイスではコードセット Shift_JIS、Solaris 環境では ja または ja_JPeucJP ロケール (コードセット eucJP) のように、PDA デバイスと Solaris 環境で異なるコードセットを利用する環境でデータを交換すると、両方の環境において、交換した複数バイト文字データが壊れる可能性があります。

回避方法: PDA Sync を実行する前に必ず、PDA デバイスに付属しているバックアップ機能やバックアップユーティリティを使用して、PC などにデータの完全なバックアップをとってください。間違ってデータ交換をしてしまった場合には、バックアップデータからデータを復旧させてください。

dtmail で不在返信メッセージを作成すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110)

不在返信メッセージを作成する場合、dtmail はその内容を (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングではなく、dtmail を起動したエンコーディングで保存します。このため、不在返信メールを受信した際に、メールの内容が文字化けすることがあります。

回避方法: 不在返信メッセージが保存されている .vacation.msg ファイルを、次のように入力して (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングに変更し、保存し直します。

```
% /usr/bin/iconv -f org_locale -t ISO-2022-JP $HOME/.vacation.msg \  
> $HOME/.vacation.msg_tmp  
% /usr/bin/cp $HOME/.vacation.msg_tmp $HOME/.vacation.msg
```

上記の *org_locale* には、iconv で使用されるコードセット (dtmail で作成した .vacation.msg ファイルのエンコーディングに対応) を指定します。日本語環境では、次の3つのいずれかです。

eucJP (ja ロケールの場合)
PCK (ja_JP.PCK ロケールの場合)
UTF-8 (ja_JP.UTF-8 ロケールの場合)

[日本語環境のみ] ja_JP.UTF-8 ロケールで日本語テキストファイルが添付されたメールを正しく転送できない(バグ ID: 4862205)

ja_JP.UTF-8 ロケールの環境で dtmail を利用する場合に、内容に日本語を含むテキストファイルが添付されたメールを転送すると、その添付されたテキストファイルは空のファイルとして受信されます。

回避方法: この問題を解決するためには、SPARC では 112810-05、x86 では 113870-04 のパッチを適用してください。

[日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項

- ボリュームマネージャのメッセージを表示するためのダイアログウィンドウは XView™ アプリケーションなので、ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールでは英語表示で起動されます。
- ja ロケールで登録したカレンダーは、ja_JP.PCK ロケール および ja_JP.UTF-8 ロケールで起動されたカレンダー・マネージャで見ることができません (ja_JP.PCK ロケールまたは ja_JP.UTF-8 ロケールで作成した場合も同様です)。

[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565)

Solaris CDE 1.2 より前のメールプログラムで、オプションメニューの「移動メニューの設定」で登録したメールボックス名に日本語文字列が含まれている場合、Solaris CDE 1.2 以降のメールプログラムではそれらのメールボックス名が文字化けすることがあります。

回避方法: Solaris CDE 1.2 あるいは Solaris CDE 1.3 のメールプログラムで、再度登録してください。

GNOME 2.0 に関する注意事項とバグ情報

GNOME 2.0 のマニュアル

GNOME 2.0 デスクトップに関するリリースノートおよび問題の解決に関する情報は、<http://docs.sun.com> で次のマニュアルを参照してください。

- 『GNOME 2.0 ご使用にあたって (Solaris 版)』
- 『GNOME 2.0 問題の解決方法 (Solaris 版)』

システム管理に関するバグ情報

Solaris システムのシステム管理作業を実行する際に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587)

Solaris 7 のディスクレスクライアントを構成する場合、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 106978-10 および 107456-01 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと、ディスクレスクライアント追加時に設定したクライアントのパスワードが、正しく反映されない場合があります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)

Solaris 8、Solaris 8 6/00、Solaris 8 10/00 のディスクレスクライアントを日本語環境で構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 110416-02 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと日本語入力システム ATOK12 が正しく動作せず、CDE 上でアプリケーションが正しく起動できないなどの問題が発生することがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U ディスクレスクライアントを構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 105654-03 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと Sun4U ディスクレスクライアントがブート中にハングアップすることがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

[日本語環境のみ] Solaris 管理コンソールのヘルプなど JavaHelp を使用したヘルプの索引で日本語文字列を検索するとフリーズする (バグ ID: 4869742)

Solaris 管理コンソールのヘルプの索引で日本語文字列を使用して検索を実行するとフリーズします。索引ではなく文中からの検索に日本語文字列を使用する場合は問題がありません。

この問題は Solaris 管理コンソールに限らず、実装に JavaHelp を使用している一般のアプリケーションでも発生します。

回避方法: ありません。

x86: Sun4U ディスクレスクライアントを確立できない (バグ ID: 4878696)

x86 サーバーに Sun4U™ ディスクレスサービスを追加しようとする、次のエラーが表示されます。

```
Jun 12 17:02:48 s12-9 WBEM_Logging_Service[1810]: Failed to create clone area
/export/root/clone/Solaris_9/sun4u.
Failed to create clone area /export/root/clone/Solaris_9/sun4u.
```

The wbem_log had the following error:

```
strings /var/sadm/wbem/log/wbem_log | grep SUNWidecr
Solaris_OsService@#0@#0@#0@#root@#s12-9@#s12-9@#1054856467079@#System
command return value.@#System command, /usr/sbin/pkgadd -S -n -R
/export/root/clone/Solaris_9/sun4u -a /tmp/admin.Qwayvg -d
/export/root/templates/Solaris_9/SUNWidecr_4.1, REV=2001.03.02.13.55_sparc.sun4u
all, returned value of:
/export/root/clone/Solaris_9/sun4u/var/sadm/pkg/SUNWidecr/install/postinstall:
test: argument expected
Installation of SUNWidecr failed.
```

注 - SPARC サーバーに Sun4U™ ディスクレスクライアントを追加することは可能です。

回避方法: ありません。

/etc/named.conf ファイルが存在する場合、Solaris 管理コンソールからユーザーアカウントまたはグループツールで処理を実行しようとするとき失敗する (バグ ID: 4777931)

DNS (Domain Name Service) サーバーとして機能するシステム上のユーザーアカウントまたはグループツールで Solaris 管理コンソールから処理を実行するとき、この DNS システム上に /etc/named.conf ファイルが存在していると、エラーが発生します。

具体的には、GUI または Solaris 管理コンソールのコマンド行インタフェース `smuser` および `smgroup` の使用時に次のエラーが発生します。

ユーザーアカウントツールの場合は、Solaris 管理コンソールの新しいダイアログボックスが開くか、次のエラーメッセージとともに `smuser` コマンドが終了します。

```
"ユーザーまたは役割を表示しようとしたが、予期しないエラーのために失敗しました。
```

```
原因となったエラー: CIM_ERR_FAILED"
```

グループツールの場合は、Solaris 管理コンソールの新しいダイアログボックスが開くか、次のエラーメッセージとともに `smgroup` コマンドが終了します。

```
"グループ名を読み取ろうとしたが、予期しない CIM エラーによって失敗しました: CIM_ERR_FAILED"
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従って DNS サーバーを再起動します。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. たとえば次のようにして、`named.conf` ファイルを別のディレクトリに移動します。

```
# mv /etc/named.conf /var/named/named.conf
```

3. DNS サーバーを再起動します。

```
# pkill -9 in.named
```

```
# /usr/sbin/in.named /var/named/named.conf
```

- 次の手順に従って WBEM サーバーを再起動します。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. テキストエディタで
`/usr/sadm/lib/wbem/WbemUtilityServices.properties` ファイルを開いて編集します。
文字列 `/etc/named.conf` を `/tmp/new-filename` に変更します。

注 - すでにシステム上に存在するファイル名以外を使用してください。

3. WBEM サーバーを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

4. WBEM サーバーを起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

詳細は、`smuser(1M)` および `smgroup(1M)` のマニュアルページを参照してください。

x86: BIOS のブート時に F4 キーを押すと Service パーティションのブートに失敗する (バグ ID: 4782757)

これは、Solaris 9 8/03 (x86 版) オペレーティング環境がインストールされた、Service パーティションを保持する Sun LX50 のブート時に発生します。F4 ファンクションキーを押すことで Service パーティションのブートを選択できますが、F4 を押すと画面が空白になり、Service パーティションのブートに失敗します。

回避方法: BIOS ブート画面の表示時に、F4 キーを押さないでください。タイムアウト後に「Current Disk Partition Information」画面が表示されます。type=DIAGNOSTIC に対応する「Part#」列の番号を選択して、Return キーを押します。Service パーティションがブートします。

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境で、 UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403)

UltraSPARC II ベースのシステム上で動作する Solaris 9 8/03 オペレーティング環境では、いくつかの訂正不可能なメモリーエラーメッセージを伴う CP イベントメッセージが、常に作成されるわけではありません。このようなシステムの例には、次のものがあります。

- Sun Enterprise™ 10000
- Sun Enterprise 6500
- Sun Enterprise 6000
- Sun Enterprise 5500
- Sun Enterprise 5000
- Sun Enterprise 4500
- Sun Enterprise 4000
- Sun Enterprise 3500
- Sun Enterprise 3000

つまり、障害のあった CPU を識別するのに必要な情報が常に得られるわけではありません。

回避方法: この問題に関する最新の情報については、SunSolveSM の Web サイト <http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェース プロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは、com.sun.wbem.provider インタフェースまたは com.sun.wbem.provider20 インタフェースに書き込まれたプロバイダを検出できません。これらのインタフェースに書き込まれたプロバイダ用に Solaris_ProviderPath インスタンスを作成した場合でも、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンはプロバイダを検出しません。

回避方法: デーモンがこのようなプロバイダを検出できるようにするには、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンをいったん停止してから再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop  
  
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 – javax API を使用してプロバイダを作成した場合は、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンを停止してから再起動する必要はありません。Solaris WBEM Services 2.5 デーモンが javax プロバイダを動的に認識します。

XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID: 4497393、4497399、4497406、4497411)

javax アプリケーションプログラミングインタフェースではなく、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースを使用して WBEM ソフトウェアを開発する場合、全面的にサポートされるのは、CIM リモートメソッド呼び出し (RMI) だけです。XML/HTTP など、他のプロトコルについては、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースで完全に機能するという保証はありません。

次の表に、RMI では正常に実行され、XML/HTTP では失敗する呼び出しの例を示します。

メソッド呼び出し	エラーメッセージ
<code>CIMClient.close()</code>	<code>NullPointerException</code>
<code>CIMClient.execQuery()</code>	<code>CIM_ERR_QUERY_LANGUAGE_NOT_SUPPORTED</code>
<code>CIMClient.getInstance()</code>	<code>CIM_ERR_FAILED</code>
<code>CIMClient.invokeMethod()</code>	<code>XMLERROR: ClassCastException</code>

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでは、ルート (/)、/usr、/var などのシステムに必須なファイルシステム上のマウントオプションを変更できません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- `mount` コマンドとともに `remount` オプションを使用する。

```
# mount -F file-system-type -o remount,additional-mount-options device-to-mount mount-point
```

注 - `--remount` オプションを指定した `mount` コマンドで行なったマウント属性の変更は、一時的なものです。また、上記のコマンドの `additional-mount-options` の部分で指定しなかったマウントオプションのすべてがシステムによって指定されたデフォルト値を継承するわけではありません。詳細は、マニュアルページの `mount_ufs(1M)` を参照してください。

- `/etc/vfstab` ファイル内の適切なエントリを編集することによって、ファイルシステムのマウントプロパティを変更し、システムを再起動する。

WBEM でデータを追加しようとする CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)

使用可能なメモリー容量が十分でない時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY
```

Common Information Model (CIM) オブジェクトのメモリー容量が十分でない場合、エントリを追加することができません。CIM オブジェクトマネージャ (Object Manager) のリポジトリをリセットする必要があります。

回避方法: 次のようにして CIM オブジェクトマネージャのリポジトリをリセットしてください。

1. スーパーユーザーになります。
2. CIM オブジェクトマネージャを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```
3. JavaSpaces™ ログディレクトリを削除します。

```
# /bin/rm -rf /var/sadm/wbem/log
```
4. CIM オブジェクトマネージャを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 - CIM オブジェクトマネージャのリポジトリをリセットすると、データストアに格納されている独自の定義は失われます。定義が含まれている MOF ファイルを `mofcomp` コマンドを使用して再コンパイルする必要があります。次に例を示します。

```
# /usr/sadm/bin/mofcomp -u root -p root_password your_mof_file
```

[日本語環境のみ] Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の Sun ONE Console で GUI 上のレイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)

Sun ONE Console の「証明書の管理」ダイアログ等でボタンが重なって表示されたり、欠けて表示されたりという問題が発生する場合があります。

回避方法: ウィンドウの幅を広げることでこの問題を回避できます。

admintool を使用してユーザーを作成する場合の注意事項

admintool 上でログインシェルを sh または ksh に指定してユーザーを作成した場合、ホームディレクトリに自動生成される .profile には以下の 1 行が記述されています。

```
stty istrip
```

この行は、入力文字を 7 ビットにストリップすることを意味していますので、このままの設定ではそのユーザーが端末上で日本語入力を行うと、文字が化けてしまいます。

回避方法: 上記の 1 行をコメントにするか、もしくは削除してください。

Solaris ボリュームマネージャの問題

Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある

シリンダ 0 から始まっていないルート (/) ファイルシステムをミラー化する場合には、接続されるすべてのサブミラーにシリンダ 0 から始まるものを含めることはできません。

シリンダ 0 から始まるサブミラーを元のサブミラーにあるミラーに接続しようとする、シリンダ 0 から始まるサブミラーは使用できず、次のエラーメッセージが表示されます。

can't attach labeled submirror to an unlabeled mirror

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まるようにする。
- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まらないようにする。

注 - JumpStart インストールのデフォルトでは、swap パーティションがシリンダ 0 から始まっていて、ルートファイルシステム / はディスク上の他の場所から始まっています。システム管理者は通常、スライス 0 をシリンダ 0 から始めようとしています。デフォルトの JumpStart インストールにおいてスライス 0 上にあり、シリンダ 0 から始まってないルートパーティションを、別のディスクのシリンダ 0 から始まるスライス 0 にミラー化しようとする問題が発生する場合があります。その結果、ミラーを追加しようとする際に、エラーメッセージが出力されます。Solaris インストールプログラムのデフォルト動作の詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報

障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの `metahs -e` コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)

次の場合に、`metahs -e` コマンドが失敗することがあります。

1. ホットスペアデバイスに障害が発生した場合。たとえば、`metaverify` テストユーティリティを使用したときに、エラーが発生した場合など。
2. メタデバイスにエラーが発生して、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアがホットスペアを起動しようとしたが、このホットスペアが「broken」とマークされている。
3. システムが停止して、障害が発生したホットスペアを含むディスクが同じ配置で新しいディスクに交換された。
4. システムが起動しても、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアが新しいホットスペアを認識しない。

5. 新しいディスクのホットスペアを有効にするために、`metahs -e` コマンドが使用された。

次のメッセージが表示されます。

```
WARNING: md: d0: open error of hotspare (Unavailable)
```

Solaris ボリュームマネージャソフトウェアは、物理的に同じ場所に交換された新しいホットスペアディスクを認識しないため、この問題が起こります。Solaris ボリュームマネージャソフトウェアはすでにシステムに存在しないディスクのデバイス ID を表示し続けます。

注 - ディスクが交換されるとデバイス番号が変わる Photon などのストレージ格納装置では、この問題が発生するかどうかは判明していません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従い、Solaris ボリュームマネージャの状態データベースでホットスペアディスクのデバイス ID を更新する。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアディスクのデバイス ID を更新します。

```
# metadevadm -u logical-device-name
```
 3. 次のコマンドを入力して、新しいホットスペアディスクを利用できるようにします。

```
# metareplace -e logical-device-name
```
- 次の手順に従い、システムのホットスペアとホットスペアプールを管理する。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアスライス用のエントリを削除します。

```
# metahs -d hsphot-spare-pool-number logical-device-name
```
 3. 次のコマンドを入力して、正しいデバイス ID を持つ、同じ場所にあるホットスペアスライス用の新しいエントリを作成します。

```
# metahs -a hsphot-spare-pool-number logical-device-name
```

論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの `metadevadm` コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)

障害が発生したドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアで構成されたドライブに交換できません。交換するドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアにとって新しいドライブである必要があります。Photon 上のあるスロットから別のスロットにディスクを物理的に移動した場合、`metadevadm` コマンドが失敗することがあります。この問題が発生するのは、スライスの論理デバイス名がすでに存在しないのに、ディスクのデバイス ID がメタデバイス複製に存在しているためです。次のメッセージが表示されます。

```
Unnamed device detected. Please run 'devfsadm && metadevadm -r to resolve.
```

注 - このとき、新しい場所にあるディスクにはアクセスできますが、スライスにアクセスするためには、古い論理デバイス名を使用する必要があります。

回避方法: ドライブを物理的に元のスロットに戻してください。

Solaris ボリュームマネージャの `metarecover` コマンドが `metadb` 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)

システムからディスクを物理的に取り外して交換して、`metarecover -p -d` コマンドを使用して適切なソフトパーティションの特定の情報をディスクに書き込むと、オープンエラーが発生します。このコマンドはメタデバイスデータベースの名前空間を更新せず、ディスクデバイス識別情報の変更を反映しません。この状態になると、ディスクの一番上に構築された各ソフトパーティションでオープンエラーが発生し、次のエラーメッセージが表示されます。

Open Error

回避方法: `metarecover` コマンドを実行してソフトパーティションを回復するのではなく、新しいディスクにソフトパーティションを作成してください。

注 - ソフトパーティションがミラーまたは RAID5 の一部である場合、次の `metareplace` コマンドを `-e` オプションをつけずに使用して、古いソフトパーティションを新しいソフトパーティションに交換します。

```
# metareplace dx mirror または RAID5 old_soft_partition new_soft_partition
```

ネットワーク接続に関するバグ情報

x86: e1000g インタフェースで IPv6 を使用すると障害が発生することがある (バグ ID: 4874857)

e1000g インタフェースに IPv6 が構成されたシステムは、リモートマシンからの “Neighbor Solicitation” というメッセージに応答しない可能性があります。その結果、リモートマシンは IPv6 を使用してターゲットシステムと通信することができなくなる可能性があります。

回避方法: 次の手順に従って、IPv6 インタフェースを停止し、再起動してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. IPv6 インタフェースをシャットダウンします。

```
# ifconfig e1000g0 inet6 down
```

3. IPv6 インタフェースを再起動します。

```
# ifconfig e1000g0 inet6 up
```

リモートシステムから IPv6 インタフェースを使用してターゲットシステムと通信できるようになります。

ifconfig コマンドは IPv6 インタフェースをシャットダウンおよび再起動します。上記のコマンドをシステムのレベル 3 ブートスクリプトに追加すると、上記の手順を自動的に行うことができます。

フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)

2 つの IP ノード間に複数の IP トンネルを設定し、ip_strict_dst_multihoming または他の IP フィルタを有効にした場合、パケットが失われることがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- まず、2 つの IP ノード間に IP トンネルを 1 つだけ設定する。それから、-addif オプションを指定した ifconfig コマンドによって、トンネルにアドレスを追加する。
- 2 つの IP ノード間のトンネルでは ip_strict_dst_multihoming を有効にしない。

セキュリティに関するバグ情報

CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)

CDE セッションのロックを解除すると、キャッシュされている Kerberos Version 5 (krb5) の資格がすべて削除されることがあります。その結果、さまざまなシステムユーティリティにアクセスできなくなることがあります。この問題は次の場合に起こります。

- /etc/pam.conf ファイルにおいて、当該システム用の dtsession サービスがデフォルトで krb5 モジュールを使用するように構成されている。
- CDE セッションをロックした後、そのセッションのロックを解除しようとした。

この問題が発生した場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
lock screen: PAM-KRB5 (auth): Error verifying TGT with host/host-name:
Permission denied in replay cache code
```

回避方法: 次の pam_krb5 dtsession のエントリを /etc/pam.conf ファイルに追加してください。

```
dtsession auth requisite pam_authtok_get.so.1
```

```
dtsession auth required pam_unix_auth.so.1
```

上記エントリが /etc/pam.conf ファイルに存在すると、pam_krb5 モジュールはデフォルトで実行されません。

cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431)

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境において、ロックされたアカウントは期限切れのアカウントまたは存在しないアカウントと同様に処理されます。したがって、ロックされたアカウントに対して、cron、at、および batch ユーティリティでジョブをスケジュールすることはできません。

回避方法: ロックされたアカウントが cron、at、または batch ジョブを受け付けるようにするには、ロックされたアカウントのパスワードフィールド (*LK*) を NP (パスワードなしの意味) という文字列に置き換えます。

ソフトウェアに関するその他のバグ情報

SPARC: Solaris 9 8/03 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャを使用してさまざまな作業を実行しようとする場合、`vxddladm addjob` または `vxddladm addsupport` ユーティリティでコアダンプが発生する場合があります。

回避方法: 次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザーになります。
2. `/var/ld/ld.config` ファイルと `/usr/bin/crle` ユーティリティがシステムに存在することを確認します。
3. 次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
# /usr/bin/cp /var/ld/ld.config /var/ld/ld.config.save
# /usr/bin/crle -E LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib
# appropriate-vxddladm-command
# /usr/bin/mv /var/ld/ld.config.save /var/ld/ld.config
```

DOCUMENTATION CD に関する注意事項

iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない

iPlanet™ Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese において、「DocHome」というタイトルのリンクと異なるブック間のリンクが機能しません。これらのリンクを選択した場合、Not Found エラーがブラウザに表示されます。

回避方法: 当該システム上で iPlanet Directory Server 5.1 のドキュメント間を移動するには、<http://docs.sun.com> で iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese ページに移動します。そこから表示したい文書へのリンクをクリックします。

他のドキュメントパッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要

SUNWsdocs パッケージが削除されている場合、他のドキュメントパッケージを削除しようとしても失敗します。この状況が発生するのは、SUNWsdocs が他のコレクションとともにインストールされ、ブラウザのエントリポイントを提供しているためです。

回避方法: SUNWsdocs パッケージを削除している場合は、ドキュメントメディアから SUNWsdocs パッケージをもう一度インストールし、そのあとで他のドキュメントパッケージを削除してください。

DOCUMENTATION CD に関するバグ情報

ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムにおいて、次のヨーロッパロケールでは、Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD 1 of 2 の PDF 文書の表示ができません。

- de (ドイツ語)
- es (スペイン語)
- fr (フランス語)
- it (イタリア語)
- sv (スウェーデン語)

この問題が発生するのは、Adobe Acrobat Reader の制限のためです。この問題の詳細については、<http://www.adobe.com:80/support/techdocs/294de.htm> にある Adobe Technote サイトを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Solaris 9 8/03 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムでは、環境変数 LC_ALL を c に設定する。たとえば、C シェルでは、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
% env LC_ALL=C acroread
```

- Adobe Acrobat Reader 5.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードする。

Solaris 9 8/03 ドキュメントパッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 8/03 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)

次の場合、いくつかの Solaris 9 8/03 文書コレクションが予期せずシステムから削除されます。

1. Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 を両方ともシステムにインストールした。
2. 1 の後、prodreg ユーティリティまたは Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用して、あるドキュメントパッケージを削除した。

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 には共通のコレクションが 3 つあります。このようなコレクションが含まれるパッケージを Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 のどちらかのインストールから削除すると、このパッケージはシステムから削除されます。

次の表に、予期せず削除されることがあるパッケージの一覧を示します。

表 3-1 両方の Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD に含まれる Solaris 9 8/03 ドキュメントパッケージ

HTML パッケージ名	PDF パッケージ名	コレクション名
SUNWaadm	SUNWpaadm	Solaris 9 8/03 System Administrator Collection
SUNWdev	SUNWpdev	Solaris 9 8/03 Software Developer Collection
SUNWids	SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition)

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アンインストールプロセスによって上記ドキュメントパッケージが予期せず削除されたが、これらのパッケージをシステムに置いておきたい場合、これらのパッケージを Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 からインストールし直す。

- この問題を回避するには、prodreg ユーティリティを使用せず、pkgrm ユーティリティを使用して、削除したいパッケージをシステムから削除する。

ローカライズに関する注意事項

ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項

Solaris 8 では、ja_JP.eucJP ロケールは ja ロケールと同等のロケールとして定義されていましたが、Solaris 9 からは「UI-OSF 日本語環境実装規約 Version 1.1」を基準に定義されています。よって、ja ロケールは従来の Solaris の ja ロケールと同じ動作が必要な場合、ja_JP.eucJP ロケールは他の UNIX ベンダーと同じ動作が必要な場合に使用するのが適しています。詳細は「日本語環境ユーザズガイド」を参照してください。

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境では、エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードのハードウェアがサポートされない

このリリース用に、エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードの 3 つのソフトウェアサポートが追加されました。

エストニア、カナダ、およびポーランドのユーザーは、必要に応じて標準 U.S. キーボード配列を変更できます。このため、柔軟性の高いキーボード入力が可能になります。

現時点では、この 3 つのキーボードタイプに適合するハードウェアは入手できません。

回避方法: この新しいキーボードソフトウェアを有効利用するには、次のいずれかの方法で `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイルを編集します。

- エストニア語タイプ 6 キーボードの場合:
 1. `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイル内の `US6.kt` エントリを `Estonia6.kt` に変更します。たとえば、次のように変更します。

6 0 Estonia6.kt

2. /usr/openwin/lib/locale/iso8859-15/Compose ファイルに次のエン
トリーを追加します。

```
<scaron>          : "/xa8"          scaron
<scaron>          : "/xa6"          scaron
<scaron>          : "/270"         scaron
<scaron>          : "/264"         scaron
```

3. システムを再起動すると、変更内容が有効になります。

■ フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボードの場合:

1. /usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の
US6.kt エントリーを Canada6.kt に変更します。たとえば、次のように変更しま
す。

6 0 Canada6.kt

2. システムを再起動すると、変更内容が有効になります。

■ 通常のポーランド語タイプ 5 キーボードを使用している場合:

1. /usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の
Poland5.kt エントリーを Poland5_pr.kt に変更します。たとえば、次のように変
更します。

4 52 Poland5_pr.kt

注 - ディップスイッチの付いたキーボードを使用している場合は、システムを
リブートする前に、スイッチがポーランド語のキーテーブルエントリーとして正
しいバイナリ値 (バイナリ 52) に設定されていることを確認してください。

2. U.S. タイプ 5 キーボードを使用している場合は、
/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の
US5.kt エントリーを Poland5_pr.kt に変更します。たとえば、次のように変更し
ます。

4 33 Poland5_pr.kt

3. システムを再起動すると、変更内容が有効になります。

ローカライズに関するバグ情報

SPARC: アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879)

アラビア語のロケールで分音符号を生成するには、アラビア文字を入力してから Shift-U を入力してください。

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールでソートを行うと、予期しない結果が発生します。

回避方法: フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語の UTF-8 ロケールでソートを行う前に、LC_COLLATE 変数とその言語の ISO8859-1 ロケールに設定してください。

```
# echo $LC_COLLATE
es_ES.UTF-8
# setenv LC_COLLATE es_ES.IS08859-1
```

上記のように LC_COLLATE 変数を設定後、ソートを行なってください。

Netscape Communicator 4.78 (日本語版)に関するバグ情報

Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関する注意事項とバグ情報について説明します。

[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)

Netscape Communicator 4.78 を ja_JP.PCK ロケールまたは ja_JP.UTF-8 ロケールで使用する場合、ページ情報ダイアログ内の日本語の一部が文字化けしたり、ダイアログのタイトルが表示されないことがあります。ja ロケールで使用している場合は、この問題は起こりません。

[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428)

キーボードの Copy キー、Paste キー、編集メニューの「コピー」、「ペースト」を使用して、端末エミュレータやテキストエディタなどの CDE アプリケーションから Netscape Communicator に日本語文字列をコピー&ペーストできません。

回避方法: マウスの左ボタンでコピーしたい文字をハイライト表示し、マウスの中ボタン (2 ボタンマウスの場合は右ボタン) を使って、Netscape Communicator 上にペーストしてください。

注 - マウスボタンのマッピングを左利き用に設定している場合は、左ボタンと右ボタンの機能が逆になります。

Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)

Netscape Communicator 4.78 を最初に起動した際に、使用許諾契約書を表示するダイアログが表示されますが、契約書の内容が途中で切れています。

回避方法: 以下の場所にある license ファイルを直接参照してください。

```
/usr/dt/appconfig/netscape/lib/locale/<locale>/netscape/license
```

Netscape 7.0 に関する注意事項

Solaris 版の Netscape 7.0 は、使用中のデスクトップのロケールに対応する言語環境が自動的に選択されて起動します。たとえば、ja ロケールでデスクトップを使用している場合、Netscape は常に日本語環境で起動します。したがって、Netscape 7.0 の「表示」メニューの「言語 / エリアを設定」メニューから言語を切り替えたり、「設定」ダイアログの「コンテンツパック」から言語またはエリアを切り替えたりしても、その操作は無効です。

また、「設定」ダイアログの「さらにダウンロード」および「表示」メニューの「追加ダウンロード」も機能しません。

Sun ONE Application Server のバグ

デフォルトのブラウザが Sun ONE Application Server 7 と互換性がない (バグ ID: 4741123)

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境のデフォルトブラウザで、Sun ONE Application Server 管理インタフェースを使用しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Unsupported Browser: Netscape 4.78
```

```
It is recommended that you upgrade your browser to Netscape 4.79 or Netscape 6.2 (or later) to run the Sun One Application Server Administrative UI. Those who choose to continue and not upgrade may notice degraded performance or unexpected behavior.
```

注 - Solaris 9 8/03 オペレーティング環境に含まれているバージョンの Sun ONE Application Server 管理インタフェースを実行している場合は、Netscape 4.79 または Netscape 7.0 を使用する必要があります。

回避方法: /usr/dt/bin/netscape の代わりに
/usr/dt/appconfig/SUNWns/netscape を使用してください。

SPARC: Netscape Navigator の一部のバージョンでアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされていない (バグ ID: 4750616)

Netscape Navigator™ の一部のバージョンでは、Sun ONE Application Server のアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされていません。Netscape Navigator バージョン 6.x または バージョン 7.x で ACL のエントリを編集すると、次の症状が断続的に現れることがあります。

例:

- ブラウザのウィンドウが消える
- ACL 編集画面が起動しても表示されない

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ACL 編集をサポートしている Netscape Navigator Version 4.79 または Microsoft Internet Explorer Version 6.0 を使用します。
- ACL ファイルを手動で編集します。ACL ファイルの書式の詳細については、『Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド』を参照してください。

Oracle 9.2 クライアントで Oracle 9.1 データベースにアクセスすると、データが破壊される場合がある (バグ ID: 4707531)

Oracle® 9.2 クライアントを使用して Oracle 9.1 データベースにアクセスする際、タイムスタンプ列の次に番号列が存在するとデータが破壊される場合があります。

この問題は、Oracle 9.1 データベースでは `ojdbc14.jar` ファイルが使用されることが原因と考えられます。パッチを適用することで、Solaris 32 ビットマシンで Oracle 9.1 データベースを実行しているときに発生するこの問題に対処できる場合があります。このとき JDBC™ ドライバは JDK™ 1.4 を使用する Oracle 用のドライバです。

回避方法: Oracle 社が Oracle Web サイトで提供するバグ ID: 2199718 用のパッチを手して、サーバーに適用してください。

SPARC: コマンド行で作成した持続マネージャファクトリのリソースを表示すると、管理インタフェースはベリファイエラーを表示する (バグ ID: 4733109)

コマンド行インタフェースで作成した持続マネージャファクトリのリソースに対してベリファイエラーが表示されます。Sun™ ONE Application Server 管理インタフェースでリソースを表示すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ArgChecker Failure: Validation failed for jndiName: object must be non-null
```

回避方法: 次の手順を実行して、新しい持続マネージャファクトリのリソースを作成してください。

1. データソース情報付きの JDBC 接続プールを作成して、データベースに接続する。
2. JDBC リソースを作成して、Java Naming and Directory Interface™ (J.N.D.I.) 参照を介して接続プールを使用できるようにする。
3. 手順 2. で作成した JDBC リソースを備えた持続マネージャファクトリのリソースを作成する。

SPARC: server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性は、any 値をサポートしない (バグ ID: 4743366)

server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性に指定する any 値は、システムで利用可能なインタフェースをすべて待機することを許可します。IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースもその対象になります。ただし、Sun ONE Application Server をデフォルトに設定すると、サーバーの iiop-listener 要素のアドレス値は 0.0.0.0 に設定されます。このデフォルト設定では IPv6 インタフェースが待機されません。システム上に配置されたすべての IPv4 インタフェースだけが待機されます。

回避方法: server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性に :: を指定すると、システム上の IPv4 と IPv6 を待機します。

SPARC: SSL 対応環境への移行時にアプリケーションサーバーが再起動に失敗する (バグ ID: 4723776)

証明書をインストールしてセキュリティを有効にした後で Sun ONE Application Server の再起動を試みると、再起動が失敗します。メッセージには、サーバーがパスワードを受信できなかったというメッセージが表示されます。

SSL (Secure Socket Layer) が有効でない場合、パスワードはキャッシュされないため再起動に失敗します。restart コマンドは、非 SSL モードから SSL 対応モードへの移行をサポートしません。

注 - この問題は、サーバーの初回再起動時にのみ発生します。以降の再起動は正常に実行されます。

回避方法: 次のいずれかの回避方法を実行してください。

- この問題に遭遇したら、「起動」ボタンをクリックします。
- この問題を避けるには、「再起動」ボタンをクリックする代わりに次の手順を実行します。
 1. 「停止」ボタンをクリックします。
 2. 「起動」ボタンをクリックします。

SPARC: 動的再ロードの実行中にアプリケーションサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4750461)

アプリケーションが多数の Enterprise JavaBeans™ コンポーネントを保持する場合、アプリケーションの動的再ロード時にサーバーがクラッシュする場合があります。動的再ロード機能は、アプリケーションの小規模な変更をすばやくテストするために開発環境で使用します。クラッシュは、利用可能な限度を超えてファイル記述子を使用しようとした場合に発生します。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. /etc/system ファイルに次の形式の行を追加して、ファイル記述子の制限値を増やします。
 - set rlim_fd_max=8192
 - set rlim_fd_cur=2048アプリケーションのサイズに応じて、値を大きくすることも小さくすることも可能です。
2. システムをリブートします。

システムのデフォルトエンコーディングが UTF-8 ではない場合、コンソール出力が適切に表示されない (バグ ID: 4757859)

システムのデフォルトエンコーディングが UTF-8 ではない場合、アプリケーションサーバーの出力で複数バイト文字が正しく表示されません。

回避方法: ブラウザで `server.log` ファイルを開きます。

外部証明書のニックネームが、管理インタフェースのニックネームリストに表示されない (バグ ID: 4725473)

Sun ONE Application の管理インタフェースを使用して外部証明書をインストールする場合、外部暗号化モジュールにインストールされた証明書を使用して HTTP リスナーの SSL を有効にしようとする問題が発生します。証明書のインストールは成功しますが、証明書のニックネームが管理インタフェースに表示されません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. Sun ONE Application Server ソフトウェアがインストールされたシステムに、管理ユーザーとしてログインします。
2. `asadmin` コマンドを使用して、外部暗号化モジュールにインストールする証明書に HTTP リスナーをリンクします。`asadmin` コマンドの詳細は、`asadmin(1AS)` のマニュアルページを参照してください。

```
# asadmin create-ssl --user admin user --password password --host host name \  
--port port --type http-listener --certname nobody@apprealm:Server-Cert \  
--instance instance --ssl3enabled=true \  
--ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5 http-listener-1
```

このコマンドにより、証明書とサーバーインスタンス間のリンクが確立されます。このコマンドは、証明書をインストールしません。証明書は、管理インタフェースによりインストールされます。

注 - 証明書は HTTP リスナーとリンクされますが、HTTP リスナーは非 SSL モードで待機します。

3. HTTP リスナーが SSL モードで待機するように設定します。次のコマンドを実行してください。

```
# asadmin set --user admin user --password password --host host name \  
--port port server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true
```

このコマンドにより、サーバーインスタンスの待機状態が非 SSL から SSL に切り替わります。上述の手順の実行後に、証明書が管理インタフェースに表示されます。

これで、必要に応じて、管理インタフェースを使用して HTTP リスナーを編集できます。

SPARC: flexanlg コマンドを使用すると、オープンエラーが表示される (バグ ID: 4742993)

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境で Sun ONE Application Server ソフトウェアを実行し、`/usr/appserver/bin` の `flexanlg` コマンドを実行すると、ファイルオープンエラーが表示されます。

```
ld.so.1: /usr/appserver/bin/flexanlg: fatal: libplc4.so:open failed:  
No such file or directory  
killed
```

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. 次のエントリを `LD_LIBRARY_PATH` ファイルに追加します。
`/usr/lib/mps`
2. `flexanlg` コマンドを実行します。
`% /usr/appserver/bin/flexanlg`

IPv6 のみに対応したクライアントからアプリケーションサーバーに接続できない (バグ ID: 4742559)

注 - ネットワークで IPv6 を使用していない場合、この問題は関係ありません。

デフォルトでは、Sun ONE Application Server 7 のインスタンスおよび管理サーバーのインスタンスは IPv4 を使用します。IPv4 は、Sun ONE Application Server を実行可能なすべてのオペレーティング環境でサポートされます。IPv6 をサポートするオペレーティング環境では、Sun ONE Application Server の構成を変更して IPv6 に適合させる必要があります。

注 - 構成を変更する場合、システムが確実に IPv6 をサポートしていることを確認してください。IPv6 に合わせた構成を IPv4 のみをサポートするシステムに適用すると、アプリケーションサーバーのインスタンスが起動しなくなる可能性があります。

回避方法: 次の手順で構成を変更します。

1. 管理サーバーを起動します。
2. ブラウザで、管理サーバーの HTTP ホストまたはポートに接続して、管理コンソールを起動します。
3. IPv6 用に構成するサーバーインスタンスを選択します (たとえば、`server1`)。
4. ツリービューで、HTTP リスナーノードを展開します。

5. IPv6 用に構成する HTTP リスナーを選択します (たとえば、http-listener1)。
6. 「一般」セクションの「IP アドレス」フィールドの値を「**ANY**」に変更します。
7. 「詳細」セクションの「ファミリー」フィールドの値を「**INET6**」に変更します。
「ファミリー」フィールドを「INET6」に変更しても、IPv6 用の IP アドレスを選択するまで IPv4 の機能は無効になりません。IP アドレスとして選択した「ANY」は、任意の IPv4 または IPv6 アドレスに一致します。
8. 「保存」をクリックします。
9. 左の区画からサーバーインスタンスを選択します。
10. 「変更を適用」をクリックします。
11. 「停止」をクリックします。
12. 「起動」をクリックします。
サーバーが再起動して、変更が実装されます。

変更したサンプルが、再配置するまで更新されない (バグ ID: 4726161)

小さな変更を加えてアプリケーションを再パッケージした後で、ユーザーがサンプルを複数回配置しようとするすると、次のエラーメッセージが表示されます。

Already Deployed

大半のサンプルが `deploy` ターゲットを保持する Ant ユーティリティおよび `common.xml` ファイルを使用しているため、この問題の影響を受けます。これらを組み合わせて使用することで、アプリケーションの配置とリソースの登録が混在します。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- 大半の、Ant ユーティリティ `build.xml` (`common.xml` ファイルを含む) を使用するサンプルアプリケーションの場合、次のコマンドを入力します。

```
% asant deploy_common
```

- 他のサンプルアプリケーションの場合、次のコマンドを入力します。

```
% asant undeploy
```

```
% asant deploy
```

SPARC: トランザクションの設定に 0 以外の値を指定すると、ローカルトランザクションが遅くなる (バグ ID: 4700241)

Local Transaction Manager は、タイムアウト値を指定したトランザクションをサポートしていません。トランザクションサービス要素のタイムアウト属性に 0 より大きな数値を秒単位で指定すると、ローカルトランザクションはすべてグローバルトランザクションとして処理されます。タイムアウト値 0 を指定すると、データソースからの応答がない場合、トランザクションマネージャは永久的に待機します。

注 - データソースのドライバがグローバルトランザクションをサポートしていない場合、ローカルトランザクションは失敗します。

回避方法: タイムアウト値をデフォルト値 (0) にリセットします。

Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない (バグ ID: 4732684)

CMP (Container-Managed Persistence) Bean を使用して Oracle JDBC 最適化を利用するには、`server.xml` ファイルの `classpath-suffix` 属性で `classes12.zip` を指定する必要があります。他社製ライブラリ用のデフォルトディレクトリである `instance/lib/` に、`classes12.zip` を配置しないでください。

回避方法: `classes12.zip` ファイルを `server.xml` の `classpath-suffix` 属性に追加してください。

IPv6 アドレスに対する DNS アドレス参照が失敗すると、RMI-IIOP クライアントが IPv6 アドレスに対して動作しない (バグ ID: 4743419)

IPv6 アドレスに対する DNS 参照が失敗すると、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) クライアントが IPv6 アドレスに対して動作しません。

回避方法: IPv6 アドレスを参照するには、DNS を配置サイトで設定する必要があります。

アプリケーションまたはシステムが UTF-8 エンコーディングを使用していない場合、「表示するエントリタイプ」フィールドに指定した値はイベントログ中で文字化けする (バグ ID: 4763655)

ユーザーが「表示するエントリタイプ」フィールドに複数バイト文字を入力してイベントログを検索すると、検索結果は「表示するエントリタイプ」フィールド内の値が文字化けして表示されます。この問題は、メッセージフォーマットが UTF-16 から UTF-8 に変換されたことが原因です。

回避方法: ありません。

デフォルトの管理コンソールの GUI が (ローカライズ版で) 英語で表示される (バグ ID: 4761017)

Admin GUI と asadmin CLI の管理サーバーのインスタンスには言語エントリがないため、ローカライズ版を最初からインストールする場合の GUI、または新しく作成したドメインのインスタンスは英語で表示されます。

回避方法 : server.xml ファイルのロケールエントリを手動で設定します。

asadmin ヘルプから翻訳されたマニュアルページが呼び出せない (バグ ID: 4758671)

ローカライズ版の Application Server 7 をインストールしても、Application Server 7 バイナリには翻訳されたマニュアルページが同梱されていません。

回避方法 :

- C ロケールに変更して英語版のマニュアルページを表示します。
- オンラインヘルプまたは asadmin ユーティリティマニュアルページの「Admin Guide」を使用します。

Sun ONE Application Server のセキュリティ関連のバグ

アプリケーションサーバーがすべてのインスタンスを root として開始するため、root 以外のユーザーにも root アクセス権が許可される (バグ ID: 4780076)

Sun ONE Application Server を Solaris インストールの一部としてインストールした場合、アプリケーションサーバーの起動時に次の問題が考えられます。

- Solaris システムの起動時に、アプリケーションサーバーのインスタンスおよび管理サーバーのインスタンスがすべて自動的に開始されます。多くの環境では、Solaris システムの起動時にすべてのインスタンスを自動的に開始することは期待されていません。定義されたインスタンスをすべて開始すると、システムで使用可能なメモリーに悪影響を及ぼす場合があります。
- アプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスを自動的に開始すると、各インスタンスの起動スクリプトが root で実行されます。root 以外のユーザー所有のインスタンス起動スクリプトを実行する際、インスタンスレベルの起動スクリプトを変更することで、root 以外のユーザーによる root ユーザーへのアクセスを可能にできます。

Sun ONE Application Server のインストール時に /etc/init.d/appserv スクリプトおよび /etc/rc*.d/ ディレクトリ内の S84appserv および K05appserv スクリプトへのシンボリックリンクがインストールされます。これらのスクリプトにより、アプリケーションサーバーインストールの一部として定義されたアプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスすべてが、Solaris システムの起動および停止時に自動的に開始および停止されます。

/etc/init.d/appserv スクリプトには、次のコードが含まれます。

```
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-appserv
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-appserv
    ;;
```

asadmin start-appserv コマンドを実行すると、すべての管理ドメインで定義された管理サーバーインスタンスおよびアプリケーションサーバーインスタンスが、Solaris システムの起動時に開始されます。システムの起動スクリプトおよび停止スクリプトは root で実行されるため、各アプリケーションサーバーインスタンスおよび

管理サーバーインスタンスの起動スクリプトも root で実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトの名前は startserv で、instance-dir/bin/startserv に存在します。root 以外のユーザーがインスタンスを所有可能であるため、コマンドを root ユーザーで実行するように、root 以外のユーザーが startserv スクリプトを変更できます。

インスタンスで特権設定されたネットワークポートが使用される場合、インスタンスの startserv スクリプトを root で実行する必要があります。ただし、一般的には、root ユーザーによるインスタンスの初回起動後に、指定されたユーザーでインスタンスが実行されるように、インスタンスの構成内で run as user (実行するユーザー) を設定します。

回避方法: 環境に応じて、次のいずれかを実行します。

- すべてのアプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスを root で開始する必要がない環境では、/etc/init.d/appserv スクリプトの asadmin start-appserv コマンドおよび asadmin stop-appserv コマンドの実行をコメントにします。
- 特定の管理ドメイン、または1つ以上の管理ドメイン内の特定のインスタンスを開始する必要のある環境では、スクリプトを変更または作成してこの処理を自動化できます。ここで言う「特定の管理ドメイン」には、各ドメイン内の管理サーバーインスタンスおよびすべてのアプリケーションサーバーインスタンスが含まれます。次の手順のいずれかを実行します。

- 該当するドメインまたはインスタンスを開始するように /etc/init.d/appserv スクリプトを変更します。
- 使用する環境の要件を満たす /etc/rc*.d/ スクリプトを新しく定義します。

起動時の考慮事項: 指定したアプリケーションサーバー管理ドメインまたはアプリケーションサーバーインスタンスが自動的に開始されるように、Solaris オペレーティング環境の起動スクリプトを変更する場合、以下を考慮してください。

- 特定のドメインを開始する – 管理サーバーインスタンスおよび特定の管理ドメインのすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを root ユーザーで開始するには、/etc/rc*.d/ スクリプトを次のように変更します。

```
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-domain --domain production-domain
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-domain --domain production-domain
    ;;
```

- 特定のアプリケーションサーバーインスタンスを root 以外のユーザーで開始する – -c オプションを指定して su コマンドを実行するように /etc/rc*.d/ スクリプトを変更します。

```
case "$1" in
'start')
    su - usera -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain
instance-a"
```

```
su - userb -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain
instance-b"
;;
'stop')
su - usera -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain
instance-a"
su - userb -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain
instance-b"
;;
```

asadmin コマンド行インタフェースで使用可能な startup コマンドおよび shutdown コマンドの詳細は、『Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド』を参照してください。

Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の問題

設定の問題

インストール時、識別名 (DN、Distinguished Name) を入力するときには UTF-8 文字セットエンコーディングを使用します。ほかのエンコーディングはサポートされていません。インストール操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。データをインポートするために使用される LDIF (Lightweight Directory Interchange Format) ファイルも UTF-8 文字セットエンコーディングを使用する必要があります。インポート操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。

スキーマの問題

Sun Open Net Environment (Sun ONE) Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) 5.1 が提供するスキーマは、RFC 2256 において groupOfNames オブジェクトクラスと groupOfUniqueNames オブジェクトクラスに指定されているスキーマとは異なります。Sun ONE Directory Server 5.1 が提供するスキーマでは、member 属性タイプと uniquemember 属性タイプはオプションで選択します。RFC 2256 では、これらのタイプにはオブジェクトクラスごとに少なくとも 1 つの値が存在する必要があると指定されています。

aci 属性は操作属性です。明示的に要求しない限り、検索結果は返されません。

レプリケーションの問題

現在、広域ネットワーク (WAN、Wide Area Network) 上のマルチマスターレプリケーションはサポートされません。

サーバープラグインの問題

Sun ONE Directory Server 5.1 はユーザー ID 番号 (UID) 一意性検査 (Uniqueness) プラグインを提供します。デフォルトでは、このプラグインは起動されません。特定の属性について属性の一意性を確実にするには、属性ごとに属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの新しいインスタンスを作成します。属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの詳細については、<http://docs.sun.com> の『*iPlanet Directory Server 5.1 管理者ガイド*』を参照してください。

現在、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインはデフォルトでオフです。衝突解決ループを回避するために、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインは、マルチマスターレプリケーション環境でも1つのマスターレプリカだけで有効にする必要があります。連鎖要求を発行するサーバーで参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインを有効にする前に、パフォーマンス資源、時間、および完全性のニーズを解析します。完全性チェックはメモリー資源と CPU 資源を大量に消費する可能性があります。

サービスのロールとクラスの問題

nsRoleDN 属性はロールを定義するのに使用します。この属性は、ユーザーのエントリにおけるロールメンバーシップを評価するには使用しないでください。ロールメンバーシップを評価するときには、nsrole 属性を調べます。

インデックスの問題

複数のデータベースを持つ場合、仮想リストビュー (VLV、Virtual List View) インデックスは正しく機能しません。

Sun ONE Directory Server に関するバグ情報

Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)

Sun ONE Directory Server 5.1 Console を起動し、新しいユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成した場合、新たに作成したユーザーまたはロールがアクティブになります。Console を使用した場合、ユーザーとロールは「アクティブでない」として作成できません。

回避方法: ユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成するには、次の手順に従います。

1. 新しいユーザーまたはロールを作成します。
2. 新たに作成したユーザーまたはロールをダブルクリックするか、あるいは新たに作成したユーザーまたはロールを選択します。「オブジェクト」メニューから「プロパティ」項目をクリックします。
3. 「アカウント」タブをクリックします。
4. 「無効」ボタンをクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

新たに作成したユーザーまたはロールが無効になります。

ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)

Sun ONE Directory Server 5.1 構成時にユーザーが空白文字が含まれるベース DN を指定した場合 (たとえば、「`o=U.S. Government,C=US`」)、結果として DN は切り詰められます (たとえば、「`Government,C=US`」)。構成時に DN を指定するときには、空白文字を使用せずに入力する必要があります (たとえば、「`o=U.S.%20Government,C=US`」)。

回避方法: ベース DN エントリを修正するには、次の手順に従います。

1. Console の「サーバとアプリケーション」タブの左側にあるナビゲーション区画において、一番上のディレクトリエントリを選択します。
2. User ディレクトリサブツリーフィールドにおいて、接尾辞を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)

マスター以外のディレクトリサーバーでパスワードポリシー情報を更新した場合、この情報はほかのすべてのサーバーに複製されません。これはアカウントロックアウトの原因にもなります。

回避方法: 各サーバーでパスワードポリシー情報を手動で管理します。

ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが有効なまま残る (バグ ID: 4527623)

アカウントロックアウトが有効である場合、ユーザーパスワードを変更しても、アカウントロックアウトは有効なまま残ります。

回避方法: ロックアウト属性 `accountUnlockTime`、`passwordRetryCount`、および `retryCountResetTime` をリセットして、アカウントのロックを解除します。

インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)

Sun ONE Directory Server 5.1 をインストールして、コンソールを起動し、ディレクトリを LDIF ファイルで初期化し、サーバーをバックアップした場合、Console はバックアップが成功したと報告しますが、実際にはバックアップは失敗しています。

回避方法: データベースを初期化した後、Console から次の作業を行います。

1. サーバーを停止します。
2. サーバーを起動し直します。
3. バックアップを実行します。

DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)

LDAP ネーミングサービスを使用して、大文字小文字の区別以外は同じである自動マウントパス名を複数作成することはできません。大文字と小文字の区別以外は同じ名前前のエントリがすでに存在する場合、ネーミング属性が大文字と小文字を区別する構文で定義されるエントリは作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。

注 - /home/foo と /home/Foo の両方のパスを作成することはできません。

たとえば、エントリ `attr=foo,dc=mycompany,dc=com` が存在する場合、エントリ `attr=Foo,dc=mycompany,dc=com` は作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。つまり、LDAP ネーミングサービスを使用する場合、自動マウントパス名は大文字と小文字の区別に関わらず一意である必要があります。

回避方法: ありません。

Export、Backup、Restore の実行中または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)

Export、Backup、Restore の実行中、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュします。

回避方法: 上記操作中にはサーバーを停止しないでください。

レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)

ユーザーが証明書ベースの認証による SSL レプリケーションを構成しようとするとき、次のいずれかの場合、レプリケーションは機能しません。

- サプライヤの証明書が自己署名である場合
- サプライヤの証明書が SSL ハンドシェイク時にクライアントのロールを果たせず、SSL サーバー証明書としてのロールしか果たせない場合

回避方法: ありません。

UFS ファイルシステムに関する注意事項

SPARC: サイズが 2T バイトを超える UFS ファイルシステムは VxVM ボリューム上に作成できない

サイズが 2T バイトまたはそれを超える UFS ファイルシステムを Veritas ボリュームマネージャ (VxVM) のボリューム上に作成しようとすると、エラーになります。その結果、作成されるファイルシステムのサイズは、VxVM ボリュームのサイズを 2T バイトで割った余りです。たとえば、サイズが 8.4T バイトの VxVM ボリューム上には、0.4T バイトのファイルシステムが作成されます。

警告メッセージは表示されません。

回避方法: ありません。

UFS ファイルシステムに関するバグ情報

UFS で mount コマンドに noatime オプションと logging オプションの両方を使用すると、ファイルシステムが破壊されることがある (バグ ID: 4884138)

UFS で mount コマンドに noatime オプションと logging オプションを同時に使用すると、inode が書き込まれないためにファイルシステムが破壊される可能性があります。この場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
/mnt: unexpected allocated inode 1783, run fsck(1M)...\n/zoot: unexpected free inode 5674, run fsck(1M)...
```

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. mount コマンドに noatime オプションおよび logging オプションを使用しているファイルシステムを判別します。

```
% mount | grep noatime | grep logging
```

2. /etc/vfstab を編集して、logging オプションを使用しているすべてのファイルシステムから noatime オプションを削除します。

3. logging オプションと noatime オプションを使用してマウントされたすべてのファイルシステムをマウント解除して、それぞれに fsck コマンドを実行します。
4. logging オプションと noatime オプションを使用して以前にマウントされていたけれども、現在はマウント解除されているすべてのファイルシステムに対して fsck コマンドを実行します。

fsck コマンドを実行すると、下記のようなメッセージが表示されます。

```
8016 DUP I=646
EXCESSIVE DUP BLKS I=7404
INCORRECT BLOCK COUNT I=7407
DUP/BAD I=646 OWNER=root MODE=100644
ZERO LENGTH DIRECTORY I=3807
BAD/DUP FILE I=575 OWNER=root MODE=100644
BAD/DUP DIRECTORY I=3807 OWNER=root MODE=40755
LINK COUNT DIR I=3806 OWNER=root MODE=40755
LINK COUNT FILE I=25084 OWNER=host1 MODE=100644
FREE BLK COUNT(S) WRONG IN SUPERBLK
```

SPARC: マルチテラバイトの UFS ファイルシステムで fssnap を使用しても動作しない (バグ ID: 4836824)

Solaris 9 8/03 リリースでは、fssnap コマンドを使って、サイズが 1T バイトを超える UFS ファイルシステムのスナップショットを作成することはできません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
fssnap: Fatal: File system /dir/snapshot0 support large files.
```

回避方法: ありません。

その他

バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない

いくつかのフリーウェアのソフトウェアが Solaris SOFTWARE CD にバンドルされていますが、多くのものは国際化および各国語対応されていません。

第 4 章

サポート中止に関する情報

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

この章には、Solaris 9 8/03 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 8/03 ご使用にあたって』の発行後に見つかった、以下のサポート中止に関する説明が追記されています。

- 120 ページの「Netscape 4.7x」
- 120 ページの「Netscape 6.2x および Netscape 7.0」
- 113 ページの「`asystem()` インタフェースおよび `systemem()` インタフェース」
- 120 ページの「Solaris Maintenance Update」
- 112 ページの「`add_drv` システムコマンドの `device_driver` へのパス名指定サポート」

Solaris 9 でサポートを中止した製品

この節では、Solaris 9 オペレーティング環境に適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

adb マップ修飾子とウォッチポイント構文

adb ユーティリティは、Solaris 9 オペレーティング環境のこのリリースにおいて、新しい mdb ユーティリティへのリンクとして実装されています。

mdb(1) のマニュアルページでは、adb との互換モードなど、新しいデバッガ機能について説明されています。この互換モードにおいても、adb と mdb の間には、次のような違いがあります。

- mdb では、一部のサブコマンドのテキスト出力形式が異なります。マクロファイルの形式は adb と同じ規則に従っていますが、他のサブコマンドの出力に依存するスクリプトは、変更しなければならない場合があります。
- ウォッチポイントの長さを指定する構文が、mdb と adb とで異なります。adb のウォッチポイントコマンド `:w`、`:a`、`:p` では、整数の長さをバイト単位で指定してコロンとコマンド文字の間に挿入することができます。mdb (1) では、繰り返し回数として、数値を初期アドレスの後に指定する必要があります。
 - adb コマンドの場合
123:456w
 - mdb コマンドの場合
123,456:w
- mdb では、`/m`、`/*m`、`?m`、`?*m` 書式指示子はサポートされていないため認識されません。

AnswerBook2 文書サーバー

AnswerBook2™ 文書サーバーは、このリリースには含まれていません。従来の AnswerBook2 文書サーバーは Solaris 9 オペレーティング環境で使用できます。Solaris のマニュアルは Solaris DOCUMENTATION CD によってオンライン形式でご利用いただけます。また、<http://docs.sun.com> で、Solaris の全マニュアルをいつでもご利用いただけます。

aspppd ユーティリティ

aspppd ユーティリティは、このリリースではサポートがされません。Solaris 9 オペレーティング環境に含まれている Solaris PPP 4.0 のpppd (1M) を使用してください。

ATOK8 日本語入力方式

ATOK8 日本語入力方式は、このリリースでサポートが中止されました。Solaris 9 オペレーティング環境に組み込まれている ATOK12 日本語入力方式によって、いくつかの拡張機能とともに、ATOK8 と同様の機能が得られます。

crash ユーティリティ

crash ユーティリティは、このリリースではサポートされません。Solaris 9 オペレーティング環境では、crash ユーティリティに近い機能が mdb (1) ユーティリティで提供されます。mdb ユーティリティもシステムがクラッシュしたときのダンプファイルを調べます。crash ユーティリティのインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の実装に関係のない細部の実装 (スロットなど) の周辺に構成されてきました。

crash から mdb への移行については、『Solaris モジューラデバッガ』の「crash からの移行」で説明されています。

Solaris ipcs コマンドのシステムクラッシュ時の ダンプ用オプション

システムクラッシュ時のダンプに、コマンド行で `-c` オプションと `-N` オプションを指定して `ipcs(1)` コマンドを適用する機能は、このリリースではサポートされません。これと同等の機能は、`mdb(1) :: ipcs` デバッガコマンドで提供されます。

cs00 日本語入力方式

cs00 日本語入力方式は、Solaris 9 オペレーティング環境でのサポートが中止されました。xci インタフェースなどの関連インタフェース、Japanese Feature Package (JFP) の libmle API、および mle コマンドも Solaris 9 オペレーティング環境ではサポートされません。

旧リリースから Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると、従来の公共ユーザー辞書 `/var/mle/ja/cs00/cs00_u.dic` が削除されます。

Solaris 9 オペレーティング環境でサポートされる日本語入力方式は、ATOK12 と Wnn6 の 2 種類です。ATOK12 と Wnn6 の入力方式に関しては、『国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

x86: devconfig コマンド

devconfig コマンドは、このリリースではサポートが中止されました。

x86: デバイスとドライバソフトウェアのサポート

次の表に、このリリースでサポートが中止されたデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 4-1 デバイスとドライバソフトウェアのサポート

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
Mylex/Buslogic FlashPoint Ultra PCI SCSI	flashpt	SCSI HBA

表 4-1 デバイスとドライバソフトウェアのサポート (続き)

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
Madge Token Ring Smart 16/4, Madge Token Ring Smart 16/4 PCI BM Mk2, Madge Token Ring Smart 16/4 PCI BM Mk1, および Madge Token Ring PCI Presto	mtok	ネットワーク
Compaq Integrated NetFlex-3 10/100 T PCI, Compaq NetFlex-3/P, Compaq NetFlex-3 DualPort 10/100 TX PCI, Compaq Netelligent 10 T PCI, および Compaq Netelligent 10/100 TX PCI	cnft	ネットワーク

アーリーアクセス (EA) ディレクトリ

Solaris 9 リリースでは、EA ディレクトリの名前は ExtraValue に変更されました。

ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ

ESDI ドライブ用の MD21 ディスクコントローラは、Solaris 9 オペレーティング環境でサポートが中止されました。

enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタ

enable_mixed_bcp は、このサポートが中止されました。Solaris 9 以前のオペレーティング環境では、/etc/system の変数 enable_mixed_bcp を 0 に設定すると、部分的に静的にリンクされた、SunOS™ 4.0 と互換性のある実行可能ファイルの動的なリンクを無効にすることができます。設定がない場合、システムは、これらの実行可能ファイルに対して動的リンクを使用します。Solaris 9 オペレーティング環境では動的リンクが常に使用され、enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタがシステムから削除されました。この変更による、SunOS 4.0 と互換性のある実行可能ファイルに対する、バイナリ互換性への影響はありません。

x86: Intel 486 システム

Intel 486 システムにおける Solaris オペレーティング環境のサポートは、このリリースで中止されました。

japanese ロケール

Solaris 1.x リリースからの移行のために ja (EUC) ロケールの別名として提供されてきた japanese ロケールは提供されなくなりました。ja または ja_JP.eucJP ロケールを使用してください。ただし、BCP (JLE) アプリケーションは引き続きサポートされます。

Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2

Java™ SDK バージョン 1.2.2 は、Solaris 9 のリリースには組み込まれていません。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE (Java Runtime Environment) の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8

JDK version 1.1.8 および JRE version 1.1.8 は、このリリースでサポートが中止されました。その代わりに、ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition version 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE の新旧を含むすべてのバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

libjapanese.a

日本語専用ライブラリ libjapanese.a およびそれに関連する次のヘッダーファイルは、提供されなくなりました。

- /usr/include/jcode.h
- /usr/include/ibmjcode.h
- /usr/include/jctype.h
- /usr/include/ja/xctype.h
- /usr/include/wstring.h

libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムは、XPG4.2 などの標準関数を使用して書き換えることをお勧めします。

また、Solaris 7 および Solaris 8 で提供していた、libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムのソース互換性を保つための代替関数およびマクロのソースファイル (SUNWjlibj) も、提供されなくなりました。

Kerberos バージョン 4 クライアント

Kerberos バージョン 4 クライアントは Solaris 8 オペレーティング環境から削除されました。このクライアントには、`kdestroy`、`kerbd`、`kinit`、`klist`、`ksrvtgt`、`mount_nfs`、および `share` コマンドの Kerberos バージョン 4 サポートが含まれています。Kerberos バージョン 4 クライアントには `kerberos` (3KRB) ライブラリ、および ONC RPC プログラミング API (`kerberos_rpc` (3KRB)) のサポートも含まれています。

詳細については、`kdestroy(1)`、`kinit(1)`、`klist(1)`、`mount_nfs(1M)`、および `share(1M)` のマニュアルページを参照してください。

OpenWindows 開発ツールキット

OpenWindows™ XView™ および OLIT ツールキットでの開発は、このリリースでサポートが中止されました。開発者は Motif ツールキットへの移行を検討してください。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用して開発されたアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境でも実行できます。

OpenWindows ユーザー環境

OpenWindows 環境は、このリリースでサポートが中止されました。共通デスクトップ環境 (CDE) が Solaris 9 オペレーティング環境のデフォルトのデスクトップ環境です。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用するアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境の CDE でも実行できます。

プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ(priority_paging/cachefree)

`priority_paging` および `cachefree` という調整可能なパラメタは、Solaris 9 リリースではサポートされません。これらのパラメタの代わりに、拡張ファイルシステムキャッシュアーキテクチャがプライオリティページングと同様のページングポリシーを実装します。これは常時、使用可能です。`/etc/system` ファイルにこれらのパラメタを設定しようとすると、ブート時に次のような警告が出力されます。

```
sorry, variable 'priority_paging' is not defined in the 'kernel'  
sorry, variable 'cachefree' is not defined in the 'kernel'
```

Solaris 9 リリースに移行するか、または `pkgadd` で `SUNWcsr` パッケージを追加し、`/etc/system` ファイルに `priority_paging` パラメタまたは `cachefree` パラメタが含まれていた場合、次のように処理されます。

1. `/etc/system` ファイルに `priority_paging` パラメタまたは `cachefree` パラメタが設定されていると、次のメッセージが表示されます。

NOTE: /etc/system は、調整可能パラメタの参照が含まれていたため変更されました。
変更されたファイルを確認してください。

2. /etc/system ファイルの、priority_paging または cachefree を設定する行の前に、コメントが挿入されます。たとえば、priority_paging が 1 に設定されている場合、その行が以下の行に置き換えられます。

- * NOTE: As of Solaris 9, priority paging is unnecessary and has been removed. Since references to priority paging-related tunables will now result in boot-time warnings, the assignment below has been commented out. For more details, see the Solaris 9 Release Notes, or the "Solaris Tunable Parameters Reference Manual".

- * set priority_paging=1

s5fs ファイルシステム

s5fs ファイルシステムは、このリリースでサポートが中止されました。s5fs ファイルシステムは、Interactive UNIX アプリケーションのインストールをサポートするためのものでした。しかし Solaris オペレーティング環境は、Interactive UNIX アプリケーションをサポートしていません。

sdtudc_extract_ps

sdtudc_extract_ps が廃止され、その機能は sdtudc_extract に統合されました。

sendmail ユーティリティ機能

sendmail ユーティリティの一部は、このリリースにサポートされません。サポートが中止される機能は、標準機能に対して Sun が独自に修正を加えた部分です。たとえば、V1/Sun 構成ファイル用の特殊な構文や意味解釈、リモートモード機能、Auto Rebuild Aliases オプション、Sun 固有の 3 つの逆別名機能などがこれに当たります。

これらの機能および移行方法の詳細については、<http://www.sendmail.org/vendor/sun/solaris9.html> を参照してください。

SUNWebnfs パッケージ

SUNWebnfs パッケージは、Solaris オペレーティング環境には含まれません。

ライブラリと関連マニュアルについては、<http://www.sun.com/webnfs> からダウンロードできます。

sun4d ベースのサーバー

sun4d アーキテクチャベースの以下のサーバーは、このリリースでサポートが中止されました。

- SPARCserver™ 1000
- SPARCcenter 2000

sun4d アーキテクチャに依存するハードウェアオプションは、このリリースでサポートが中止されました。

SUNWrdm パッケージ

Solaris SOFTWARE CD に含まれており、Solaris オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報やリリース直前に明らかになった問題点が記載されていましたが、このパッケージはこのリリースでは提供されません。

SUNWrdm に記載されていた情報は、Solaris DOCUMENTATION CD に含まれている『ご使用にあたって』(本書)、印刷マニュアルの『インストールにあたって』(インストールに関する情報のみ)、<http://docs.sun.com> に掲載されている『ご使用にあたって』に記載されていますので、これらを参照してください。

将来のリリースでサポートを中止する予定の製品

この節では、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースに適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

add_drv システムコマンドの *device_driver* へのパス名指定サポート

add_drv コマンドでは、*device_driver* パラメータにパス名を指定できます。この機能は、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

Solaris 9 オペレーティング環境ではパス名を指定すると、次の警告メッセージが STDERR に書き込まれます。

```
Warning: pathname support will be discontinued in future releases of add_drv.
```

パス名を指定したことにより生成される警告メッセージは、インストール実行時に install_log ファイルに書き込まれるようになります。

詳細については、`add_drv(1M)` のマニュアルページを参照してください。

AdminTool コマンド

`swmtool` を含む AdminTool (`admintool`) は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

アジアの短縮 dtlogin 名

次にリストするアジアの短縮ロケール名は、将来のリリースでは `dtlogin` 言語リストに含まれない可能性があります。

- `zh`
- `zh.GBK`
- `zh.UTF-8`
- `ko`
- `ko.UTF-8`
- `zh_TW`

Solaris 8、Solaris 9 および Solaris 9 8/03 リリースでは、下記を含む新しい ISO 標準ロケール名を提供しています。

- `zh_CN.EUC`
- `zh_CN.GBK`
- `zh_CN.UTF-8`
- `ko_KR.EUC`
- `ko_KR.UTF-8`
- `zh_TW.EUC`

`asystem()` インタフェースおよび `system()` インタフェース

`libadm(3lib)` からエクスポートされる `asystem()` インタフェースおよび `system()` インタフェースは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースではサポートが中止される可能性があります。これら 2 つは旧式のインタフェースです。アプリケーション開発者は、代わりに `sysconf(3C)` ライブラリ関数を使用してください。

詳細については、`sysconf(3C)` のマニュアルページを参照してください。

監査デーモンインタフェース

Solaris 監査デーモンが使用する次のインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースではサポートが中止される可能性があります。

- `auditsvc(2)`

- audit_data(4)

基本セキュリティモジュールのデバイス割り当て インタフェース

基本セキュリティモジュールのデバイス割り当てメカニズムに含まれる次のコンポーネントは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースには含まれない可能性があります。

- mkdevalloc(1M)
- mkdevmaps(1M)
- /etc/security/dev

廃止されるデバイスドライバインタフェース (DDI)

Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは、一部のデバイスドライバインタフェース (Device Driver Interfaces、DDI) がサポートされなくなります。

次の表に、将来サポートが中止される可能性がある DDI インタフェースと、好ましい代替 DDI インタフェースを示します。

廃止されるインタフェース	好ましいインタフェース
mmap(9E)	devmap(9E)
identify(9E)	nulldev(9F) を指定する
copyin(9F)	ddi_copyin(9F)
copyout(9F)	ddi_copyout(9F)
ddi_dma_addr_setup(9F)	ddi_dma_addr_bind_handle(9F)
ddi_dma_buf_setup(9F)	ddi_dma_buf_bind_handle(9F)
ddi_dma_curwin(9F)	ddi_dma_getwin(9F)
ddi_dma_free(9F)	ddi_dma_free_handle(9F)
ddi_dma_htoc(9F)	ddi_dma_addr[buf]_bind-handle(9F)
ddi_dma_movwin(9F)	ddi_dma_getwin(9F)
ddi_dma_nextseg(9F)	ddi_dma_nextcookie(9F)
ddi_dma_nextwin(9F)	ddi_dma_nextcookie(9F)
ddi_dma_segtocookie(9F)	ddi_dma_nextcookie(9F)

廃止されるインタフェース	好ましいインタフェース
ddi_dma_setup(9F)	ddi_dma_*_handle(9F)
ddi_dmae_getlim(9F)	ddi_dmae_getattr(9F)
ddi_getimminor(9F)	getminor(9F)
ddi_getlongprop(9F)	ddi_prop_lookup(9F)
ddi_getlongprop_buf(9F)	ddi_prop_lookup(9F)
ddi_getprop(9F)	ddi_prop_get_int(9F)
ddi_getproplen(9F)	ddi_prop_lookup(9F)
ddi_iopb_alloc(9F)	ddi_dma_mem_alloc(9F)
ddi_iopb_free(9F)	ddi_dma_mem_free(9F)
ddi_mem_alloc(9F)	ddi_dma_mem_alloc(9F)
ddi_mem_free(9F)	ddi_dma_mem_free(9F)
ddi_map_regs(9F)	ddi_regs_map_setup(9F)
ddi_mapdev(9F)	devmap_setup(9F)
ddi_mapdev_intercept(9F)	devmap_load(9F)
ddi_mapdev_nointercept(9F)	devmap_unload(9F)
ddi_prop_create(9F)	ddi_prop_update(9F)
ddi_prop_modify(9F)	ddi_prop_update(9F)
ddi_segmap(9F)	devmap(9E) を参照
ddi_segmap_setup(9F)	devmap_setup(9F)
ddi_unmap_regs(9F)	ddi_regs_map_free(9F)
free_pktiopb(9F)	scsi_free_consistent_buf(9F)
get_pktiopb(9F)	scsi_alloc_consistent_buf(9F)
makecom_g0(9F)	scsi_setup_cdb(9F)
makecom_g0_s(9F)	scsi_setup_cdb(9F)
makecom_g1(9F)	scsi_setup_cdb(9F)
makecom_g5(9F)	scsi_setup_cdb(9F)
scsi_dmafree(9F)	scsi_destroy_pkt(9F)
scsi_dmaget(9F)	scsi_init_pkt(9F)
scsi_pktalloc(9F)	scsi_init_pkt(9F)

廃止されるインタフェース	好ましいインタフェース
scsi_pktfree (9F)	scsi_destroy_pkt (9F)
scsi_realloc (9F)	scsi_init_pkt (9F)
scsi_resfree (9F)	scsi_destroy_pkt (9F)
scsi_slave (9F)	scsi_probe (9F)
scsi_unslave (9F)	scsi_unprobe (9F)
ddi_peek{c,s,l,d} (9F)	ddi_peek{8,16,32,64} (9F)
ddi_poke{c,s,l,d} (9F)	ddi_poke{8,16,32,64} (9F)
in{b,w,l} (9F)	ddi_get{8,16,32} (9F)
out{b,w,l} (9F)	ddi_put{8,16,32} (9F)
repins{b,w,l} (9F)	ddi_rep_get{8,16,32} (9F)
repouts{b,w,l} (9F)	ddi_rep_put{8,16,32} (9F)
GLOBAL_DEV	0 を指定
NODEBOUND_DEV	0 を指定
NODESPECIFIC_DEV	0 を指定
ENUMERATED_DEV	0 を指定
DDI_IDENTIFIED	不要
DDI_NOTIDENTIFIED	不要

詳細は、『*man pages section 9: DDI and DKI Driver Entry Points*』(英語版) および『*man pages section 9: DDI and DKI Kernel Functions*』(英語版)を参照してください。

power.conf の Device Management エントリ

power.conf の Device Management エントリは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Automatic Device Power Management エントリによって同様の機能が得られます。

詳細は、power.conf (4) のマニュアルページを参照してください。

デバイスとドライバソフトウェアのサポート

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定のデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 4-2 デバイスとドライバソフトウェア

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
AMI MegaRAID host bus adapter, first generation	mega	SCSI RAID
Compaq 53C8x5 PCI SCSI および Compaq 53C876 PCI SCSI	cpqncr	SCSI HBA
Compaq SMART-2/P Array Controller および Compaq SMART-2SL Array Controller	smartii	SCSI RAID コントローラ

Alt キーおよびメタキーを使用した Euro 文字入力シーケンス

将来のリリースでは、Solaris UTF-8 (Unicode) ロケールの Euro 文字について、次の非標準入力キーシーケンスはサポートが中止される可能性があります。

- Alt-E
- Alt-4
- Alt-5
- Meta-E
- Meta-4
- Meta-5

注 - キーシーケンスを表わす場合、ハイフンはキーを同時に押すことを示します。+ 記号は、キーを連続して押すことを示します。

推奨される標準の入力キーシーケンスは、次のとおりです。

- Alt Graph-E
- Compose+C+=

キーボードに Alt Graph キーまたは Compose キーがない場合は、次のキーシーケンスを使用します。

- Ctrl-Shift-T+C+=

フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド

X/Open XFN 標準に基づくフェデレーテッドネーミングサービス (FNS) は、将来のリリースでサポートを中止する予定です。

fork() 関数

-lpthread ライブラリにリンクされていない場合の `fork()` の動作は Solaris オペレーティング環境の将来のリリースで変更される可能性があります。この動作の変更により、Solaris スレッドは POSIX (Portable Operating System Interface) スレッドに一致します。

`fork()` 関数は、`fork1()` と同じ動作をするように再定義される可能性があります。その結果、`fork()` は子プロセスに呼び出しスレッドだけを複製します。この再定義の結果は、`-lpthread` とリンクした場合の現在の `fork1()` および `fork()` の動作と一致します。

`fork()` の `replicate-all` の動作を必要とするアプリケーションのサポートは、引き続き提供されます。

GMT zoneinfo タイムゾーン

`/usr/share/lib/zoneinfo/GMT[+-]*` タイムゾーンは、将来のリリースでサポートが中止される予定です。これらのタイムゾーンのファイルは、`/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリから削除されます。削除されたファイルの代わりに、対応する `Etc/GMT[-+]*` ファイルを使用してください。

詳細については、`zoneinfo(4)` および `environ(5)` のマニュアルページを参照してください。

SPARC: グラフィックドライバのサポート

以下のグラフィックデバイスのソフトウェアサポートが、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースで提供されなくなる可能性があります。

デバイス	ドライバ
MG1, MG2	bwtwo
CG3	cgthree
SX/ CG14	sx, cgfourteen
TC	cgeight
TCX	tcx

JRE 1.2.2

Java Runtime Environment (JRE) のバージョン 1.2.2 は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

Kodak Color Management System

Kodak Color Management System (KCMS™) は、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

Korean CID フォント

Korean CID フォントは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris オペレーティング環境には、Korean CID フォントに代わるものとして Korean TrueType フォントが組み込まれているので、そちらを使用してください。

libXinput ライブラリ

libXinput.so.0 ライブラリは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。libXinput.so.0 ライブラリには、Solaris 2.1 および Solaris 2.2 の標準 X 入力 API を使用して構築された X11R4 アプリケーションとの下位互換性が提供されています。X11 標準 X 入力拡張ライブラリである libXi は、Solaris 2.3 で統合されました。

libXinput API に依存するすべてのアプリケーションは、将来の互換性および標準化のために、libXi 共有ライブラリを使用して構築する必要があります。

LDAP クライアントライブラリ

LDAP (軽量ディレクトリアクセスプロトコル、Lightweight Directory Access Protocol) クライアントライブラリ libldap.so.3 は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。このライブラリの新しいバージョンである libldap.so.5 は、IETF (Internet Engineering Task Force) の ldap-c-api ドラフトの draft-ietf-ldapext-ldap-c-api-05.txt 版に準拠しています。

廃止される軽量プロセス (LWP) インタフェース

次の軽量プロセス (LWP) インタフェースは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- `_lwp_create`

- `_lwp_detach`
- `_lwp_exit`
- `_lwp_getprivate`
- `_lwp_makecontext`
- `_lwp_setprivate`
- `_lwp_wait`

これらのインタフェースは、デフォルトでマルチスレッドが有効になる一般モデルに含まれていません。これらのインタフェースは、`libthread` をリンクしていないアプリケーション内で使用する場合にかぎり、期待どおり機能していました。

詳細については、`_lwp_create(2)`、`_lwp_detach(2)`、`_lwp_exit(2)`、`_lwp_getprivate(2)`、`_lwp_makecontext(2)`、`_lwp_setprivate(2)`、および `_lwp_wait(2)` のマニュアルページを参照してください。

Solaris Maintenance Update

Solaris Maintenance Update (MU) は、それぞれの Solaris リリースといっしょに提供される個別のパッチをまとめたものですが、将来のリリースではサポートが中止される可能性があります。

匿名インタフェースグループ機能

`ndd /dev/ip ip_enable_group_ifs` で有効になる匿名インタフェースグループ機能は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。同様の働きを持つ、サポート対象の IP ネットワークマルチパス機能を使用してください。IP マルチパスグループは、`ifconfig(1M)` コマンドのグループキーワードを使って作成できません。

詳細は、`ndd(1M)` および `ifconfig(1M)` のマニュアルページを参照してください。

Netscape 4.7x

Netscape™ 4.7x ソフトウェアは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースではサポートされない可能性があります。

Netscape 6.2x および Netscape 7.0

Netscape 6.2x ソフトウェアおよび Netscape 7.0 ソフトウェアは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースではサポートされない可能性があります。

netstat の -k オプション

netstat の -k というサポートされていないオプション (実行中の OS インスタンス上のすべての名前付きカーネル統計情報について報告するオプション) は、将来のリリースで削除される可能性があります。代わりに、サポートされている kstat (1M) コマンド (同じ機能を提供している) を使用してください。kstat コマンドは、Solaris 8 オペレーティング環境で導入されたものです。

詳細は、kstat (1M) のマニュアルページを参照してください。

NIS+ ネームサービスの種類

NIS+ (ネットワーク情報サービスプラス) は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境には、NIS+ から LDAP への移行ツールが用意されています。詳細は、<http://www.sun.com/directory/nisplus/transition.html> を参照してください。

pam_unix モジュール

pam_unix モジュールは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。pam_authok_check、pam_authok_get、pam_authok_store、pam_dhkeys、pam_passwd_auth、pam_unix_account、pam_unix_auth、および pam_unix_session が同様の機能を提供します。

詳細については、pam_unix(5)、pam_authok_check(5)、pam_authok_get(5)、pam_authok_store(5)、pam_dhkeys(5)、pam_passwd_auth(5)、pam_unix_account(5)、pam_unix_auth(5)、および pam_unix_session(5) のマニュアルページを参照してください。

Perl バージョン 5.005_03

将来 Perl バージョン 5.005_03 は、サポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Perl のデフォルトバージョンが前のバージョン (5.005_03) とバイナリ互換でないバージョンに変更されました (ただし、現在はまだ互換可能です)。サイトで独自にインストールしたモジュールは、新しいバージョンに対応させるために、再構築および再インストールする必要があります。バージョン 5.005_03 を使用する必要があるスクリプトは、デフォルトバージョン (/bin/perl、/usr/bin/perl または /usr/perl5/bin/perl) の代わりに、バージョン 5.005_03 のインタプリタ (/usr/perl5/5.005_03/bin/perl) を明示的に使用するように変更してください。

電源管理入出力制御コマンド

次の電源管理入出力制御コマンド (ioctls) は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- PM_DISABLE_AUTOPM
- PM_REENABLE_AUTOPM
- PM_SET_CUR_PWR
- PM_GET_CUR_PWR
- PM_GET_NORM_PWR

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境では、次の ioctls が代わりにサポートされています。

- PM_DIRECT_PM
- PM_RELEASE_DIRECT_PM
- PM_GET_CURRENT_POWER
- PM_SET_CURRENT_POWER
- PM_GET_FULL_POWER

ioctls の詳細については、ioctl(2) マニュアルページを参照してください。

64-bit SPARC: libc の ptrace インタフェース

libc に含まれていた 64 ビット版の ptrace インタフェースは、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。proc インタフェースによってその機能が置き換えられます。

詳細については、proc(4) のマニュアルページを参照してください。

sendmailvars と L sendmail.cf コマンドまたは G sendmail.cf コマンド

nsswitch.conf(4) に含まれている sendmailvars データベースは、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。L sendmail.cf または G sendmail.cf コマンドを使用せずに、この機能を有効にすることはできませんでした。この変更により、Sun バージョンの sendmail は、sendmail.org バージョンにより厳密に準拠するようになります。

SPARC: 64 ビットパッケージ

Solaris オペレーティング環境は現在、32 ビットコンポーネントと 64 ビットコンポーネントで別々のパッケージで配布されています。64 ビットパッケージは Solaris 7 リリースで導入されたもので、Solaris オペレーティング環境の 64 ビットコンポーネントを配布します。一般的に、64 ビットパッケージの名前の末尾は「x」です。たとえば、SUNWcs1 は Solaris コアライブラリの 32 ビットバージョンを、SUNWcs1x は 64 ビットバージョンを配布するものです。

Solaris の将来のリリースでは、32 ビットコンポーネントおよび 64 ビットコンポーネントは単一の基本パッケージでいっしょに配布される可能性があります。両方が同梱されるパッケージの名前は、元の 32 ビットパッケージの名前になり、64 ビットパッケージの名前ではもう配布されません。たとえば /usr/lib/sparcv9/libc.so.1 は、現在 SUNWcs1x として配布されていますが、将来は SUNWcs1 として配布され、SUNWcs1x はもう配布されなくなる予定です。

注 - パッケージによっては、64 ビットコンポーネントだけが配布され、対応する 32 ビットパッケージが存在しないものがあります。このような場合、パッケージの名前が変更され、末尾の「x」が削除されます。たとえば SUNW1394x は SUNW1394 となります。

Solaris 32 ビット Sun4U カーネル

Solaris 7、8、および 9 ソフトウェアの多くのインストールでは、デフォルトの 64 ビットカーネルを使って 32 ビットおよび 64 ビットのアプリケーションをサポートします。UltraSPARC システム上で 32 ビットのカーネルを使用するカスタマは、この注意事項をお読みください。

Solaris 7、8、および 9 オペレーティング環境では、UltraSPARC I および UltraSPARC II プロセッサをベースにしたすべてのシステムにおいて、32 ビットカーネルと 64 ビットカーネルのどちらをブートするかを管理者が選択できます。UltraSPARC III 以降のシステムでは、64 ビットカーネルだけがサポートされます。

Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは、UltraSPARC I および UltraSPARC II システムについても、32 ビットカーネルを利用できなくなる可能性があります。

この変更からもっとも影響を受けるのは、サードパーティの 32 ビットカーネルモジュール (たとえば、ファイアウォール、カーネル常駐ドライバ、置換ファイルシステムなど) に依存しているシステムです。こうしたシステムは、これらのモジュールの 64 ビットバージョンを使用するようにアップデートしなければなりません。

この変更のもう 1 つの影響は、200MHz 以下のクロック周波数の UltraSPARC I プロセッサを搭載した UltraSPARC システムが、将来のリリースではサポートされなくなる可能性があるという点です。

システムのカーネルタイプを識別するには、`isainfo(1)` コマンドを使用します。

```
% isainfo -kv
```

システムのプロセッサクロックレートを識別するには、`psrinfo(1M)` コマンドを使用します。

```
% psrinfo -v | grep MHz
```

Solaris スタティックシステムライブラリ

この告知は、32 ビット版のスタティックシステムライブラリおよび静的にリンクしたユーティリティだけに該当します。64 ビット版のスタティックシステムライブラリとユーティリティは提供されていません。

32 ビット版の Solaris スタティックシステムライブラリおよび静的にリンクしたユーティリティは、将来のリリースではサポートされなくなります。特に、スタティック C ライブラリ (`/usr/lib/libc.a`) は、将来のリリースでサポートされなくなります。

既存のスタティックシステムライブラリにリンクしたアプリケーションは、将来のリリースでは動作しない可能性があります。ABI (Solaris Application Binary Interface) を提供するシステムライブラリに動的にリンクするアプリケーションの互換性だけが将来的に確保されます。

システムトラップの動作に依存するアプリケーションは、将来のリリースでは動作しない可能性があります。また、システムトラップの動作に依存するライブラリ (一般的には、ABI 機能を代替的に提供するライブラリ) にリンクされたアプリケーションも将来のリリースでは動作しない可能性があります。

Solaris ボリュームマネージャのトランザクション ボリューム

Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム (trans メタデバイス) は、Solaris 機能セットの冗長性を軽減するために将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。同等の機能が Solaris 8 オペレーティング環境およびその互換バージョンに含まれる UFS ロギングにより提供されます。

Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents™ は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

SPC ドライバ

SPC ドライバは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

スタンドアロンのルーター検出

IPv4 ICMP ルーター発見プロトコルの `/usr/sbin/in.rdisc` 実装は、Solaris ソフトウェアの将来のリリースではサポートされなくなる可能性があります。このプロトコルとほぼ同等のバージョンが、`/usr/sbin/in.routed` のコンポーネントとして実装されており、拡張された管理インタフェースをサポートしています。
`/usr/sbin/in.routed` コンポーネントは、RIP (経路制御情報プロトコル、Routing Information Protocol) バージョン 2 の実装をサポートします。
`/usr/sbin/in.routed` コンポーネントには、モバイル IP 通知をルーター発見メッセージと区別する機能もあります。

記憶装置インタフェース

デバイスドライバプロパティに使用される次のインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- 高速書き込み (`pln` ドライバプロパティ)
- 優先予約 (`pln` ドライバプロパティ)

次のデバイスドライバは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- `/kernel/drv/pln`
- `/kernel/drv/pln.conf`
- `/kernel/drv/sparcv9/pln`
- `/kernel/drv/soc`
- `/kernel/drv/sparcv9/soc`

次のユーティリティは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- `/usr/sbin/ssaadm`

sun4m ハードウェア

sun4m ハードウェアは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

Sun StorEdge A3000、Sun StorEdge A3500、および Sun StorEdge A3500FC システム

次の記憶装置向けのソフトウェアサポートは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- Sun StorEdge™ A3000 システム

- Sun StorEdge A3500 システム
- Sun StorEdge A3500FC システム

テープデバイス

次のテープデバイスは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- Sun StorEdge™ DLT4700 テープ・オートローダ
- Sun StorEdge L140 テープライブラリ
- Sun StorEdge L280 テープ・オートローダ
- Sun StorEdge L400 テープライブラリ
- Sun StorEdge L1800 テープライブラリ
- Sun StorEdge L3500 テープライブラリ
- Sun StorEdge L11000 テープライブラリ

Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカード

Ultra™ AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカードのサポートは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースで提供されなくなる可能性があります。

32-bit: X11 スタティックライブラリ

/usr/openwin/lib にあるスタティックライブラリは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースではサポートが中止される可能性があります。

/usr/openwin/lib にある 32 ビット版のスタティックライブラリ、およびこれらのライブラリに静的にリンクされるプログラムは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。64 ビット版のスタティックライブラリは、これまで提供されたことはありません。

/usr/openwin/lib にある既存のスタティックライブラリとリンクしているアプリケーションは、将来のリリースで動作しなくなる可能性があります。Solaris Application Binary Interface (ABI) を提供する共有ライブラリと動的にリンクするアプリケーションだけが、将来のリリースと互換性を持つように設計されています。

XIL インタフェース

XIL™ インタフェースは、将来のリリースでサポートが中止される予定です。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

WARNING: XIL OBSOLESCENCE

This application uses the Solaris XIL interface which has been declared obsolete and may not be present in version of Solaris beyond Solaris 9. Please notify your application supplier. The message can be suppressed by setting the environment variable "_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG".

xetops ユーティリティ

xetops ユーティリティは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。xetops ユーティリティは、アジア言語のテキストファイルを PostScript ファイルに変換します。この変換により、アジア文字をその組み込みフォントを持たない PostScript プリンタでも印刷できるようになります。

同様の機能は、mp コマンドで提供されています。ネイティブなアジア言語のすべてのエンコーディングについて、オプションおよび機能が追加され、サポートが拡張されています。

xutops プリントフィルタ

xutops プリントフィルタは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 8/03 オペレーティング環境の mp プリントフィルタで同様の機能が提供されています。

詳細については、mp (1) のマニュアルページを参照してください。

第 5 章

マニュアルに関する情報

この章では、ドキュメントについて知られている問題を説明します。

マニュアルの訂正・補足と注意事項

『Solaris WBEM 開発ガイド』

Solaris CIM スキーマでは、次のクラスおよび属性に `Deprecated` 修飾子のタグが付いています。

- `Solaris_LogRecord` クラス
- `Solaris_LogService` クラス
- `Solaris_LogServiceSetting` クラス
- `Solaris_IPProtocolEndpoint` クラスの `OptionsEnabled` プロパティ

これらの推奨されないクラスおよび属性には、適切な代替クラスおよび属性を使用してください。適切な代替クラスおよび属性かどうかを判別するには、クラスの `Description` 修飾子を参照してください。

『Solaris WBEM 開発ガイド』の「クライアントプログラム」の記述

「クライアントプログラムの記述」では、`javax.wbem.client` API で RMI プロトコルを使用する WBEM クライアントを作成する場合に必要な情報を記載しています。Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーに接続する場合は、クライアントの `CLASSPATH` に `/usr/sadm/lib/wbem/cimapi.jar` ファイルを指定する必要があります。`cimapi.jar` ファイルには、Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーとの通信に必要な `com.sun.wbem` クラスが指定されています。

『Sun ONE Application Server 7, Update 1 開発者ガイド』

注 - このマニュアルはインデックスが付いた配備ディレクトリだけに関係します。

配備済みアプリケーションのディレクトリ名に付加されるインデックス番号は、インデックス作成機構として実装されています。この機構により、開発者は配備済みアプリケーションに関連する JAR ファイルやクラスファイルを修正することが可能です。Windows プラットフォームでは、ロードしたファイルを上書きすると、共有違反が発生するため、この機構は特に重要です。Windows はロードしたファイルをロックします。セッションが開始されると、ファイルはサーバーインスタンスや IDE (統合開発環境、Integrated Development Environment) にロードされます。共有違反が発生した場合は、次の 2 つの回避方法が可能です。

- 更新されたクラスファイル (元は JAR ファイルの一部) をコンパイルし、クラスパスに置くことで、古いクラスファイルより前にロードさせます。次に、再ロードがアクティブであれば、Sun ONE Application Server に対してアプリケーションの再ロードを許可します。
- JAR ファイルを更新し、EAR ファイルを新しく作成して、アプリケーションを再配備します。

注 - Solaris プラットフォームでは、ファイルをロックするという制約がないため、アプリケーションを再配備する必要はありません。

Windows プラットフォーム上で IDE を起動するか、ANT ファイルをコピー、コンパイルなどして、配備済みアプリケーションを変更すると、ほかの箇所にも変更が発生することに注意してください。ファイルロックによる制約を回避するために、ディレクトリ名に増分したインデックス番号が付加されて、新しいディレクトリ名が作成されます。たとえば、Solaris プラットフォームの場合、J2EE アプリケーションの helloworld は、Sun ONE Application Server の次のディレクトリに格納されます。

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-  
apps/helloworld_1
```

ディレクトリ名の変更は、配備済みアプリケーション(例: HelloServlet.java) を構成するサーブレットにも適用されます。Sun ONE Studio IDE を起動し、サーブレットのソースファイルを変更した後、前述のディレクトリを指定して javac でコンパイルします。ソースファイルを適切なロケーションでコンパイルし、アプリケーションで再ロードするファイルがあると、server.xml ファイルの reload フラグが True にセットされます。アプリケーションを再度アセンブルして、再配備しなくても、サーバーインスタンスを実行するだけで変更内容が反映されます。

Windows プラットフォームの場合、ファイルがロックされるため、JAR ファイルとクラスファイルは変更およびアップデートができません。そのため、Windows プラットフォームでの解決には、次の 2 つの方法があります。

- 変更したソースファイルをコンパイルし、クラスパスにクラスファイルまたは JAR ファイルを付加し、ソースファイルの変更内容を有効にします。
- `helloworld` のソースを変更し、アセンブルした後、古い `helloworld` を削除せずに、配備しなおします。

配備済みアプリケーションのディレクトリ名に増分したインデックス番号が付加されるため、2 番目の方法が推奨されています。2 つ目の `helloworld` アプリケーションを配備すると、ディレクトリ構造は次のようになります。

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-  
apps/helloworld_1
```

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-  
apps/helloworld_2
```

2 番目の `helloworld` は `helloworld_2` に格納されます。

『Solaris ボリュームマネージャの管理』の「ルート (/) のミラー化に関する特殊な考慮事項」

「ルート (/) のミラー化に関する特殊な考慮事項」では、ルート (/) をミラー化する場合に必要な代替起動デバイスへのパスを記録する例を記載しています。SPARC 版の例で、一部の新しい Sun ハードウェアでは、`/devices` ディレクトリ名を `sd@` や `dad@` から `disk@` に変更する必要があります。

[日本語環境のみ] X Window System 関係の日本語翻訳マニュアルページが古い

一部の X Window System 関係の日本語翻訳マニュアルページは、内容が最新ではありません。

回避方法: 日本語マニュアルページは参考とし、最新の情報は英語版マニュアルページを参照してください。(例: `% env LANG=C man XtAddCallback`)

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD に関する注意事項

ナビゲーションファイルに関する注意事項

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD には、各言語のコレクションへのリンクなどを集めたナビゲーション用の html ファイル群が用意されています。CD 上からは、これらのナビゲーション用ファイルを参照または使用することができます。

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION CD をインストールした場合には、インストールされた各コレクションへのリンクを持つナビゲーション用の html ファイルが生成されます。生成されるファイル名は、`/var/opt/sun_docs/sundocs.html` です。このファイルから Netscape などのブラウザにより各コレクションをたどることができます。

『Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese』の日本語版 マニュアルについて

Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD には『Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese』が含まれています。ここでは、Solaris 9 8/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD の『Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition)』に含まれる英語版マニュアルのうち一部のみ翻訳されています。日本語版のないマニュアルについては、上記英文コレクションをご覧ください。

<http://docs.sun.com> で参照できる『Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition) - Japanese』には、以下の日本語版マニュアルが含まれています。

- Sun ONE Application Server 7 ご使用の前に
- Sun ONE Application Server 7 製品の概要
- Sun ONE Application Server 7 新機能
- Sun ONE Application Server 7, Update 1 プラットフォーム
- Sun ONE Application Server 7 アーキテクチャの概要
- Sun ONE Application Server 7 入門ガイド
- Sun ONE Application Server 7, Update 1 開発者ガイド
- Sun ONE Application Server 7 管理者用設定ファイルリファレンス
- Sun ONE Application Server 7, Update 1 管理者ガイド¹

注 1: DocCD には含まれていません。

なお、以下のマニュアルについては、日本語版が存在しません。『Sun ONE Application Server 7 Update 1 Collection (Solaris Edition)』をご覧ください。

Sun ONE Application Server 7, Update 1 Administrator's Guide to Security
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Migrating and Redeploying Server Applications Guide
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Performance Tuning Guide
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Developer's Guide to Enterprise Java Beans Technology
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Developer's Guide to J2EE Features and Services
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Developer's Guide to Clients
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Developer's Guide to NSAPI
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Developer's Guide to Web Applications
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Developer's Guide to Web Services
Sun ONE Application Server 7, Update 1 J2EE CA Service Provider Implementation Administrator's Guide
Sun ONE Application Server 7, Update 1 Error Message Reference

付録 A

Solaris 9 8/03 オペレーティング環境の パッチについて

この付録で示すパッチは、次のいずれかの方法で、すでに Solaris 9 8/03 オペレーティング環境に適用されています。

- SolStart

この方法で適用されたパッチは、インストールされたシステムの `/var/sadm/patch` ディレクトリにあります。

- Freshbits テクノロジ

この方法で適用されたパッチは、Solaris 9 8/03 オペレーティング環境が作成されたときに適用されたものです。そのため、`/var/sadm/patch` ディレクトリにはありません。

`showrev -p` コマンドを実行すると、インストールしたシステムに適用されているすべてのパッチの一覧が、その適用方法に関わらず表示されます。Solaris 9 8/03 オペレーティング環境には、既知の検査済みのパッチが含まれています。これらのパッチは Solaris 9 8/03 オペレーティング環境からバックアウトすることはできません。

注 - Solaris 9 8/03 オペレーティング環境には、Solaris アップデトリリースのインストールイメージに特有のタスクを実行するパッチが含まれています。これらのパッチはそれぞれの Solaris オペレーティング環境アップデトリリースに固有であるため、Solaris オペレーティング環境のほかのシステム、またはほかのリリースには適用されません。これらのパッチを Solaris オペレーティング環境のほかのシステムにダウンロードまたはインストールしようとしてはなりません。

SPARC パッチの一覧

- 111703-03 - SunOS 5.9: `/usr/ccs/bin/sccs` and `/usr/ccs/bin/make patch`

4654328 4222874 4514485 4483221 4504348 4631517 4654957

■ 111711-05 – 32-bit Shared library patch for C++

4618537 4619221 4660290 4668167 4679619 4680478 4686364 4709155 4710815 4302954 4698028
4699194 4704604 4708982 4745600 4747931 4749398 4749628 4750936 4756106 4794587 4797953
4806782 4820555 4851358

■ 111712-05 – 64-Bit Shared library patch for C++

4618537 4660290 4668167 4679619 4680478 4686364 4709155 4710815 4302954 4698028 4699194
4704604 4708982 4745600 4747931 4749398 4749628 4750936 4756106 4794587 4797953 4806782
4820555 4851358

■ 111722-04 – SunOS 5.9: Math Library (libm) patch

4652341 4664522 4810765 4817713 4820770

■ 112233-07 – SunOS 5.9: Kernel Patch

4114317 4201022 4254013 4352265 4354427 4357217 4360843 4375052 4382913 4390777 4462509
4466085 4484338 4491038 4496935 4498831 4500536 4504686 4511634 4520669 4521521 4521525
4522402 4525533 4527648 4532512 4533078 4533108 4533270 4533712 4618812 4619870 4623395
4627510 4627620 4629569 4630754 4633008 4633015 4636049 4637031 4638346 4638608 4638981
4640282 4640542 4640982 4642754 4643857 4644123 4644346 4644731 4647361 4648171 4649851
4650210 4651201 4653044 4655634 4659588 4664740 4666799 4669486 4672677 4672730 4674788
4675827 4675868 4676535 4676707 4677620 4678396 4682258 4682918 4686943 4687362 4691127
4691670 4693350 4693574 4694382 4697219 4698325 4698684 4701854 4702559 4704996 4707874
4708822 4709147 4709805 4711013 4711133 4712247 4713110 4713409 4713787 4714062 4714245
4714688 4716320 4717581 4718366 4718565 4719361 4719365 4720790 4721112 4721396 4725524
4726041 4729479 4731198 4735093 4739920 4740766 4740769 4742711 4743053 4744825 4745795
4747714 4748309 4748411 4749934 4756923 4756968 4757023 4757311 4757718 4760434 4761972
4768631 4769411 4770236 4772038 4772938 4775105 4779758 4780672 4780968 4781113 4785492
4785538 4786613 4788230 4790144 4791797 4793178 4793905 4794501 4796430 4804524 4806176
4809516 4816970 4819633 4825042 4826425 4830650 4831983 4832222 4834383 4846488 4849297

■ 112540-14 – SunOS 5.9: Expert3D IFB Graphics Patch

4652111 4645735 4650501 4316968 4515693 4494062 4497748 4649811 4652804 4654897 4659006
4663042 4624812 4663732 4664981 4651919 4697564 4703423 4668373 4655393 4675933 4698167
4691212 4617170 4720843 4731406 4733511 4773758 4744109 4773187 4799602 4819025 4811078
4796686 4800990 4821124 4770590 4829271 4835610 4834943 4841559 4842523 4834826 4849515
4807363 4855275

■ 112565-12 – SunOS 5.9: XVR-1000 GFB Graphics Patch

4636225 4640002 4629777 4638125 4635704 4643375 4587680 4636721 4639155 4643767 4637546
4636748 4641167 4641177 4636866 4636788 4636846 4637796 4652512 4669035 4668381 4670095
4674533 4679353 4685579 4708069 4664996 4671387 4675252 4679830 4699753 4703545 4730199
4717529 4676118 4739840 4734313 4758471 4759742 4745719 4766223 4674551 4772063 4772398
4768264 4775646 4771302 4781933 4783131 4790859 4792390 4772798 4649442 4669039 4805898
4796917 4804999 4772027 4810194 4811518 4805014

■ 112601-07 – SunOS 5.9: PGX32 Graphics

4502887 4633850 4688024 4728662 4740340 4800057 4776309

■ 112617-02 – CDE 1.5: rpc.cmsd patch

4641721 4687131

■ 112620-04 – SunOS 5.9: Elite3D AFB Graphics Patch

4651358 4714683 4747203 4750896 4685879 4790842

■ **112621-06 – SunOS 5.9: Creator and Creator3D: FFB Graphics Patch**

4663332 4651358 4714683 4747203 4750896 4685879 4649465 4790842

■ **112622-09 – SunOS 5.9: M64 Graphics Patch**

4531901 4632595 4668719 4672129 4682681 4452851 4633941 4684877 4692693 4737335 4749353
4769331 4735033 4788379 4809395 4810073 4823882

■ **112625-01 – SunOS 5.9: Dcam1394 patch**

4699746 4827215

■ **112661-05 – SunOS 5.9: IIIM and X Input & Output Method patch**

4803378 4805181 4805730 4823672 4593130 4412147 4726723 4629783 4721656 4721661 4742096
4691874 4650804 4774826 4645171 4643078 4664772 4604634 4617694 4617691 4471922 4691871
4686165 4515546 4772485 4777933 4776987 4770994

■ **112764-06 – SunOS 5.9: Sun Quad FastEthernet qfe driver**

4807151 4790953 4772916 4760845 4681502 4738051 4727494 4704689 4717401 4719739 4451757
4367043 4411205 4664588 4655451 4292608 4645631

■ **112771-13 – Motif 1.2.7 and 2.1.1: Runtime library patch for Solaris 9**

4512887 4663311 4664492 4679034 4615922 4661767 4699202 4741124 4757112 4743372 4712265
4750419 4717502 4787387 4756028 4764309 4782506

■ **112783-01 – X11 6.6.1: xterm patch**

4636452 4657934

■ **112785-20 – X11 6.6.1: Xsun patch**

4649617 4651949 4642632 4644622 4531892 4692623 4700844 4712590 4710958 4710402 4703884
4638864 4729267 4675755 4677235 4729905 4763009 4707069 4709009 4760672 4734353 4762797
4740125 4732113 4676222 4753720 4736505 4780894 4633549 4798375 4742744 4682788 4787692
4809081 4818111 4784311 4809776 4716007 4838617 4828474 4785372 4422011 4805863 4787416
4847054 4868692

■ **112787-01 – X11 6.6.1: twm patch**

4659947

■ **112804-01 – CDE 1.5: sdtname patch**

4666081

■ **112805-01 – CDE 1.5: Help volume patch**

4666089

■ **112806-01 – CDE 1.5: sdtaudiocontrol patch**

4666089

■ **112807-05 – CDE 1.5: dtlogin patch**

4667119 4648724 4750889 4761698 4807292 4720523 4768118

■ **112808-03 – OpenWindows 3.6.3: Tooltalk patch**

4668701 4707187 4713445

- **112809-02 – CDE:1.5 Media Player (sdtjmplay) patch**

4663628 4731319

- **112810-04 – CDE 1.5: dtmail patch**

4712584 4715670 4786715 4714769 4715322

- **112811-01 – OpenWindows 3.7.0: Xview Patch**

4690979

- **112812-01 – CDE 1.5: dtlp patch**

4646929

- **112817-07 – SunOS 5.9: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 driver patch**

4658962 4651090 4648346 4647988 4645885 4637950 4629291 4675241 4640855 4686107 4686121
4686126 4704372 4696480 4703803 4699088 4698533 4687821 4678583 4704413 4703839 4707612
4702980 4690650 4690643 4730696 4728208 4724811 4717637 4717385 4681554 4708816 4678908
4710796 4735212 4708099 4735224 4735240 4746230 4739846 4738499 4753634 4754360 4753629
4763533 4762837 4804568 4798684 4792519 4784093 4779486 4763498 4734902

- **112834-02 – SunOS 5.9: patch scsi**

4628764 4656322 4656416

- **112835-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/clinfo**

4638788

- **112836-02 – SunOS 5.9: patch scsa2usb**

4660516 4756231

- **112837-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/inet/in.dhcpd**

4621740

- **112838-06 – SunOS 5.9: pcicfg Patch**

4407705 4496757 4711639 4716320 4716448 4717617 4787898 4793178

- **112839-04 – SunOS 5.9: patch libthread.so.1**

4254013 4533712 4647410 4647927 4667173 4795308

- **112840-03 – SunOS 5.9: patch platform/SUNW,Sun-Fire-15000/kernel/drv/sparcv9/axq**

4619267 4652995 4756231

- **112841-06 – SunOS 5.9: drmach patch**

4652995 4659588 4664749 4669462 4696700 4769147

- **112854-02 – SunOS 5.9: icmp Patch**

4511634 4647983

- **112868-09 – SunOS 5.9: OS Localization message patch**

4658681 4685336 4706059 4681374 4733193 4734495 4736248 4775204 4767999 4809660 4831626
4804312 4817097 4841909

■ 112874-15 – SunOS 5.9: patch libc

1258570 4192824 4221365 4248430 4254013 4318178 4390053 4444569 4503048 4510326 4518988
4530367 4533712 4635556 4661997 4669963 4683320 4694626 4700602 4704190 4705942 4709984
4749274 4756113 4767215 4770160 4772960

■ 112875-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/netsvc/rwall/rpc.rwalld

4664537

■ 112904-07 – SunOS 5.9: tcp Patch

4396697 4417647 4425786 4479794 4488694 4502640 4511634 4592876 4639079 4644731 4645471
4647361 4648388 4649557 4656795 4658216 4659882 4660167 4662169 4662866 4673676 4682913
4687850 4688392 4688398 4688704 4689309 4691577 4694560 4712511 4715897 4722897 4737656
4745039 4747714 4749268 4763402 4763813 4772712 4784039 4790941 4803645 4820199

■ 112905-02 – SunOS 5.9: ippctl Patch

4644731 4647361 4712511

■ 112906-02 – SunOS 5.9: ipgpc Patch

4644731 4647361 4664957

■ 112907-01 – SunOS 5.9: libgss Patch

4197937 4220042 4642879

■ 112908-08 – SunOS 5.9: gl_kmech_krb5 Patch

4197937 4220042 4521000 4526202 4630574 4642879 4657596 4666887 4671577 4690212 4691352
4727224 4743181 4744280 4830044

■ 112911-04 – SunOS 5.9: ifconfig Patch

4396697 4417647 4425786 4479794 4488694 4592876 4648388 4660167 4661975 4676731 4688392
4688398 4688704 4694560 4775897 4777295

■ 112912-01 – SunOS 5.9: libinetcfg Patch

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388

■ 112913-01 – SunOS 5.9: fruadm Patch

4505850

■ 112915-01 – SunOS 5.9: snoop Patch

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4396697 4417647 4425786 4475921 4479794 4532805
4532808 4532860 4559001 4587434 4592876 4635766 4637330 4637788 4648299 4648388

■ 112916-01 – SunOS 5.9: rtquery Patch

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4648299

■ 112917-01 – SunOS 5.9: ifrt Patch

4645471

■ **112918-01 – SunOS 5.9: route Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4645471 4648299

■ **112919-01 – SunOS 5.9: netstat Patch**

4645471

■ **112920-02 – SunOS 5.9: libipp Patch**

4644731 4647361 4712511

■ **112921-01 – SunOS 5.9: libkadm5 Patch**

4197937 4220042 4642879

■ **112922-02 – SunOS 5.9: krb5 lib Patch**

4197937 4220042 4642879 4668699

■ **112923-02 – SunOS 5.9: krb5 usr/lib Patch**

4197937 4220042 4642879 4703622

■ **112924-01 – SunOS 5.9: kdestroy kinit klist kpasswd Patch**

4197937 4220042 4642879

■ **112925-02 – SunOS 5.9: ktutil kdb5_util kadmin kadmin.local kadmind Patch**

4197937 4220042 4642879 4646370

■ **112926-04 – SunOS 5.9: smartcard Patch**

4366894 4524620 4629775 4635010 4635082 4635106 4636389 4639842 4642726 4646472 4646476
4646497 4647454 4647542 4649161 4655166 4676018 4682730 4683241 4760613

■ **112927-01 – SunOS 5.9: IPQos Header Patch**

4644731 4647361

■ **112928-01 – SunOS 5.9: in.ndpd Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388

■ **112929-01 – SunOS 5.9: RIPv2 Header Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4648299

■ **112941-07 – SunOS 5.9: sysidnet Utility Patch**

4519228 4678406 4683519 4698391 4698500 4704974 4711830 4719195 4759857 4787789 4807079

■ **112943-08 – SunOS 5.9: Volume Management Patch**

4429002 4478237 4508734 4516578 4576802 4632847 4637525 4645142 4648750 4656914 4656931
4660125 4664713 4696741 4704081 4715667 4730706 4739995 4764186 4773530 4791015 4791556

■ **112945-19 – SunOS 5.9: wbem Patch**

4486297 4496120 4626762 4639638 4641801 4641818 4641851 4643267 4644880 4645051 4645080
4645105 4645146 4645315 4645581 4645811 4647508 4648811 4649058 4654765 4655882 4656941
4658145 4674537 4682188 4686244 4696284 4699585 4700539 4701067 4720857 4739720 4742164

4742960 4754758 4759233 4766098 4766971 4768461 4769053 4769612 4769791 4769795 4769860
4769889 4770013 4770017 4770024 4770027 4771207 4771466 4771469 4771476 4773485 4777931
4781761 4782465 4786712 4786891 4792126 4795642 4796483 4796491 4796519 4796556 4807821
4809906 4813116 4834362 4845276 4847816 4848759

■ **112951-05 – SunOS 5.9: patchadd and patchrm Patch**

4421583 4529289 4623249 4625879 4639323 4678605 4706994 4723617 4725419 4728892 4731056
4737767 4744964 4750803 4759158 4767392

■ **112954-04 – SunOS 5.9: uata Driver Patch**

4432931 4506478 4643720 4776171

■ **112955-01 – SunOS 5.9: patch kernel/fs/autofs kernel/fs/sparcv9/autofs**

4471199 4631449

■ **112958-02 – SunOS 5.9: patch pci.so**

4657365 4779758 4695771

■ **112959-01 – SunOS 5.9: patch libfru**

4643255 4661738

■ **112960-06 – SunOS 5.9: patch libsldap ldap_cachemgr**

4357827 4614945 4624458 4630226 4645604 4648140 4648146 4658625 4660019 4677591 4682120
4683522 4720818 4723361 4751386 4776571

■ **112961-01 – SunOS 5.9: patch platform/SUNW,Ultra-Enterprise/kernel/drv/sysctrl**

4638234

■ **112963-07 – SunOS 5.9: linker patch**

4461340 4504895 4526752 4529912 4533195 4546416 4616944 4621479 4622472 4624658 4630224
4633860 4638070 4642829 4651493 4651709 4654406 4655066 4662575 4664855 4668517 4669582
4671493 4696204 4698800 4701749 4706503 4707808 4710814 4714146 4715815 4716929 4728822
4730110 4730433 4731183 4739660 4743413 4744337 4745129 4745932 4746231 4753066 4754751
4755674 4765536 4766815 4770484 4770494 4772927 4774727 4775738 4778247 4778418 4779976
4783869 4787579 4790194 4792461 4793721 4796237 4802194 4804328 4806476 4811951 4816378
4817314

■ **112964-04 – SunOS 5.9: /usr/bin/ksh Patch**

4223444 4702798 4750637 4786817 4790885 4801490

■ **112965-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/drv/sparcv9/eri**

4467555 4467562 4479894 4496082 4518457 4528597 4546894 4599774 4637678

■ **112966-02 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/vold**

4638163 4794712

■ **112967-04 – SunOS 5.9: /kernel/drv/nca Patch**

4487572 4629396 4631903 4650210 4681040

■ **112968-01 – SunOS 5.9: patch /usr/bin/renice**

4502191

■ **112970-04 – SunOS 5.9: patch libresolv.so.2**

4646349 4700305 4708913 4777715 4793327 4796596 4805812 4810893

■ **112971-04 – SunOS 5.9: patch kernel/fs/cacheofs**

4368576 4398885 4493561 4615194

■ **112972-03 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/libssagent.so.1 /usr/lib/libssasmp.so.1**

4395096 4633918 4643121 4691177 4787450

■ **112975-02 – SunOS 5.9: patch /kernel/sys/kaio**

4682197 4802915

■ **112985-03 – SunOS 5.9: Volume Management Localization message patch**

4692900 4775188 4804590

■ **112987-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/tod/sparcv9/todsg**

4618950

■ **112998-03 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/syslogd**

4243984 4424387 4558909 4665297 4670382 4670414 4670468 4674435 4705713 4772471 4787413
4812764

■ **113020-02 – SunOS 5.9: SUNW_LOC changes needed to fix install problems with Euro**

4674651 4683429 4752139

■ **113021-02 – SunOS 5.9: yesstr, nostr nl_langinfo() strings incorrect**

4660271 4752139

■ **113023-01 – SunOS 5.9: Broken preremove scripts in S9 ALC packages**

4707449

■ **113024-06 – SunOS 5.9: wrsm Driver Patch**

4114317 4519289 4619267 4633655 4634907 4636186 4644822 4661403 4661424 4680447 4683307
4684649 4694445 4699257 4703343 4719669 4737372 4738280 4762184 4772117 4791375 4801624
4803265 4812284 4816791 4820881 4823616 4823794 4824314 4828785 4841551 4872902

■ **113026-10 – SunOS 5.9: /kernel/drv/md Patch**

1101554 4352265 4373671 4409244 4462054 4508010 4525396 4615383 4615387 4628758 4631270
4632281 4634737 4640578 4643091 4647352 4648067 4653481 4655532 4662172 4665951 4666299
4668224 4668960 4669927 4678627 4680610 4683907 4690701 4690983 4696312 4698878 4701093
4705486 4705513 4710390 4711136 4711969 4714648 4714923 4715369 4715443 4718706 4720138
4721112 4723547 4725693 4733518 4740375 4742084 4772960 4774716 4780601 4796430 4802281
4808079 4808489 4814438 4816970 4830061 4834259

■ **113027-02 – SunOS 5.9: libfrureg.so.1 Patch**

4687199 4726567

■ **113028-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/ipp/flowacct**

4645622 4658416

- **113029-04 – SunOS 5.9: libaio.so.1 librt.so.1 and abi_libaio.so.1 Patch**

4222093 4491712 4529739 4529831 4529893 4635940 4635945 4636591 4665847 4785625
- **113030-02 – SunOS 5.9: /kernel/sys/doorfs Patch**

4659950 4699850
- **113031-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/edit Patch**

4635504
- **113032-02 – SunOS 5.9: /usr/sbin/init Patch**

4503048 4662013
- **113033-03 – SunOS 5.9: patch /kernel/drv/isp and /kernel/drv/sparcv9/isp**

4521066 4657311 4661696 4672156 4682951 4729861
- **113038-05 – SunOS 5.9: JFP manpages patch**

4808428 4809083 4695070 4742031 4688476 4710452 4717366 4851824 4852478
- **113046-01 – SunOS 5.9: fcp Patch**

4529255
- **113049-01 – SunOS 5.9: luxadm & liba5k.so.2 Patch**

4334693 4622990 4716238 4820044
- **113068-04 – SunOS 5.9: hpc3130 patch**

4672995 4698278 4762081 4799299
- **113070-01 – SunOS 5.9: ftp patch**

4658282
- **113071-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/acctadm**

4696138
- **113072-06 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/format**

4334693 4622990 4670999 4689757 4716238 4726667 4766161 4777332 4781880 4785642 4791416
4826988
- **113073-04 – SunOS 5.9: ufs_log patch**

1101554 4138139 4330959 4409244 4651323 4785875 4794712 4807979 4807983 4815160 4817074
- **113074-04 – SunOS 5.9: ngdr.conf patch**

4654448 4712441
- **113075-01 – SunOS 5.9: pmap patch**

4660871
- **113076-02 – SunOS 5.9: dhcpmgr.jar Patch**

4643257 4673713 4687991 4731988
- **113077-06 – SunOS 5.9: /platform/sun4u/kernal/drv/su Patch**

4397794 4646641 4666211 4707716 4709299 4734045 4747008 4764445 4766657

- **113085-02 – SunOS 5.9: Thai font enhancement**

4688066 4708093 4747781

- **113086-01 – SunOS 5.9: iconv modules between zh_CN.euc and UTF-8 are incompatible**

4672806

- **113087-01 – SunOS 5.9: Cannot use other fonts to display Asian characters in xterm**

4692528

- **113088-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Safe default permission violations**

4671052

- **113089-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Bad postremove script of SUNWkuxft**

4706829

- **113090-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Bad postinstall script of SUNWcdf**

4714477

- **113096-03 – X11 6.6.1: OWconfig patch**

4684184 4682788 4707897

- **113098-04 – X11 6.6.1: X RENDER extension patch**

4684184 4737595 4750162 4749332 4770510

- **113113-01 – SunOS 5.9: Problem with depend file of SUNWhdcl with HK locales in S9**

4670820

- **113125-01 – SunOS 5.9: missing libc_psr.so.1 symlink**

4704023

- **113145-02 – SunOS 5.9: Naturetech /platform links are not exist**

4707235

- **113146-02 – SunOS 5.9: Apache Security Patch**

4705227 4759882 4737442 4768221

- **113167-01 – SunOS 5.9: JFP xhost manpage patch**

4700173

- **113168-02 – SunOS 5.9: JFP Japanese TrueType Font**

4674655 4704720

- **113219-01 – SunOS 5.9: patch /platform/SUNW,Ultra-Enterprise/kernel/drv/fhc**

4114317

- 4114317

 - 113220-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/upa64s
- 4664349 4665239 4697505 4721200 4808786

 - 113221-03 – SunOS 5.9: libprtdiag_psr.so.1 Patch
- 4531662 4658316 4683308 4716413

 - 113222-03 – SunOS 5.9: patch /kernel/misc/nfssrv and /kernel/misc/sparcv9/nfssrv
- 4524236 4704851

 - 113223-02 – SunOS 5.9: idn Patch
- 4633009

 - 113224-01 – SunOS 5.9: efdaemon Patch
- 4649654 4683487

 - 113225-01 – SunOS 5.9: 2002c Timezone Patch
- 4364929 4725575 4789487

 - 113226-02 – SunOS 5.9: hme Driver Patch
- 4664306

 - 113228-01 – SunOS 5.9: 64 bit locale links missing in Solaris 9
- 4701185 4743546 4763733 4788212

 - 113240-05 – CDE 1.5: dtsession patch
- 4743546

 - 113244-01 – CDE 1.5: dtwm patch
- 4708590 4801044

 - 113273-02 – SunOS 5.9: /usr/lib/ssh/sshd Patch
- 4118738

 - 113274-01 – SunOS 5.9: libdhcputil Patch
- 4254013 4533712 4664249

 - 113275-02 – SunOS 5.9: procfs Patch
- 4027074 4313732 4334693 4336105 4358054 4360365 4375499 4412239 4500536 4527668 4622990
4624524 4645691 4651339 4651386 4651679 4654850 4655315 4656322 4656416 4672504 4673243
4716238 4722426 4725656 4728530 4734019 4734033 4739785 4744131 4746064 4756712 4758160
4758953 4759557 4761337 4766742 4770566 4773941 4774943 4804362 4819633

 - 113277-11 – SunOS 5.9: sd and ssd Patch
- 4492876

 - 113278-01 – SunOS 5.9: NFS Daemon Patch
- 4492876

 - 113279-01 – SunOS 5.9: klmmod Patch

4492876

■ **113280-02 – SunOS 5.9: patch /usr/bin/cpio**

4646589 4661824 4674849 4677773 4679533 4679805 4688928 4711504 4738687 4740813 4768749
4771017 4790357 4792482

■ **113281-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/netsvc/yp/ypbind**

4515621

■ **113318-07 – SunOS 5.9: patch /kernel/fs/nfs and /kernel/fs/sparcv9/nfs**

4044295 4407669 4427971 4465488 4658316 4664740 4680195 4725574 4768760 4774462 4816496

■ **113319-11 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/libnsl.so.1**

1226166 4192824 4248430 4390053 4517003 4648085 4668699 4680691 4690775 4691127 4700602
4710928 4727726 4753610 4756113 4767276 4772960 4825334

■ **113320-03 – SunOS 5.9: patch se driver**

4626537 4655495 4730608 4735231 4755417

■ **113321-04 – SunOS 5.9: patch sf and social**

4451550 4492895 4589401 4643768 4657427 4772960

■ **113322-01 – SunOS 5.9: patch uucp**

4686442

■ **113323-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/passmgmt**

4687515

■ **113325-01 – SunOS 5.9: patch powerd**

4678303 4697189 4697205

■ **113326-01 – SunOS 5.9: tar Patch**

4662552

■ **113327-02 – SunOS 5.9: pppd Patch**

4647938 4684948

■ **113328-01 – SunOS 5.9: tmpfs Patch**

4682537

■ **113329-02 – SunOS 5.9: lp Patch**

4640166 4648825 4704812 4704824 4705899 4705911 4714952 4761753

■ **113330-01 – SunOS 5.9: rpcbind Patch**

1226166 4690775

■ **113331-01 – SunOS 5.9: usr/lib/nfs/rquotad Patch**

4683311

■ **113332-04 – SunOS 5.9: libc_psr.so.1 Patch**

4666069

- 113334-02 – SunOS 5.9: udfs Patch

4548887 4651869 4655796 4714259 4762254

- 113335-01 – SunOS 5.9: devinfo Patch

4522638

- 113361-04 – SunOS 5.9: Sun Gigabit Ethernet 3.0 driver patch

4671573 4527681 4759414 4656013 4718277 4650055 4707744 4771770 4782136 4779489 4792353
4852341 4819970 4843595

- 113374-02 – X11 6.6.1: xpr patch

4704388

- 113390-01 – SunOS 5.9 : CTYPE errors in "ar" locale

4728460

- 113391-01 – SunOS 5.9 : S9 : CTYPE errors in "He_IL"/"he" locales

4728469

- 113400-01 – SunOS 5.9: zh_CN.GBK is incomplete for 64 bit

4762909

- 113403-03 – SunOS 5.9: Tamil/Kannada/Gujarati/Bengali support

4769446 4752426 4767689 4767747 4752139 4681931

- 113405-02 – SunOS 5.9: sync with 4751190 for th_TH.UTF-8 locales

4751190

- 113407-03 – SunOS 5.9: Added Five stroke input method support in S9UR

4741018 4783961 4749970 4749975 4837040

- 113409-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Missing locales in SUNW_LOC in s9u3

4780217

- 113424-01 – CDE 1.5: message patch to add IM title in the workspace menu

4731995

- 113432-08 – SunOS 5.9: Introduction Fujitsu SPARC64-V platforms patch

4761257

- 113434-10 – SunOS 5.9: /usr/snadm/lib Library and Differential Flash Patch

4313832 4385866 4391400 4501772 4642585 4654964 4655075 4660835 4707022 4718661 4723051
4724529 4734649 4744624 4750446 4753030 4759768 4760694 4761562 4761681 4763919 4767378
4767678 4768717 4793554 4812304 4826147 4832216 4834885

- 113445-02 – SunOS 5.9: schpc Patch

4640542 4697219 4704996 4779758 4695771

■ **113446-02 – SunOS 5.9: dman Patch**

4640542 4697219 4704996 4707993

■ **113447-01 – SunOS 5.9: libprtdiag_psr Patch**

4640542 4697219 4704996

■ **113449-02 – SunOS 5.9: gld Patch**

4667724 4747714 4772712

■ **113451-03 – SunOS 5.9: IKE Patch**

4508547 4628774 4628901 4653051 4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4741543 4745493
4745709

■ **113453-04 – SunOS 5.9: sockfs patch**

4640282 4640982 4653919 4672604 4672991 4681040 4711013 4799039

■ **113454-08 – SunOS 5.9: ufs Patch**

1101554 4371826 4409244 4490164 4507281 4512855 4640210 4662795 4663287 4714988 4734635
4763047 4764514 4766103 4794712 4815160

■ **113456-01 – SunOS 5.9: adb modules**

1101554 4409244

■ **113457-02 – SunOS 5.9: ufs headers**

1101554 4409244 4794712

■ **113459-02 – SunOS 5.9: udp patch**

4511634 4727825

■ **113464-04 – SunOS 5.9: IPMP Headers Patch**

4373671 4462054 4647352 4661975 4676731 4710160 4714648 4715443 4720138 4830061 4834259

■ **113467-01 – SunOS 5.9: seg_drv & seg_mapdev Patch**

4533078 4533108 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113470-01 – SunOS 5.9: winlock Patch**

4533078 4533108 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113471-02 – SunOS 5.9: truss Patch**

4254013 4533078 4533108 4533712 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113472-01 – SunOS 5.9: madv & mpss lib Patch**

4533078 4533108 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113475-02 – SunOS 5.9: usr/lib/security crypt Patch**

4192824 4248430 4390053 4700602 4715561

■ **113476-05 – Obsoleted by: 113476-06 SunOS 5.9: usr/lib/passwdutil.so.1
pam_ldap Patch**

4192824 4248430 4357827 4390053 4658625 4660019 4670947 4677591 4682120 4683522 4700602
4709300 4743707 4747441 4751394 4754634 4756113

- **113477-02 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: class action replacement scripts**

4712441

- **113480-02 – SunOS 5.9: usr/lib/security/pam_unix.so.1 Patch**

4192824 4248430 4390053 4700602 4756113

- **113482-01 – SunOS 5.9: sbin/sulogin Patch**

4192824 4248430 4390053 4700602

- **113483-02 – SunOS 5.9: usr/lib/netshvc/yp/rpc.yppasswd Patch**

4192824 4248430 4283355 4390053 4700602

- **113484-02 – SunOS 5.9: WBEM SDK Localization message patch**

4733195

- **113485-01 – SunOS 5.9: DHCP Manager Localization message patch**

4733194

- **113488-01 – SunOS 5.9: Field Replacement Unit ID Platform & Access Library Patch**

4703981 4715000

- **113489-04 – SunOS 5.9: sbd & sbdp Patch**

4625392 4641546 4673299 4696700

- **113490-02 – SunOS 5.9: Audio Device Driver Patch**

4660099 4670245 4701098 4714088

- **113492-03 – SunOS 5.9: fsck Patch**

4632750 4693730 4794712

- **113493-01 – SunOS 5.9: libproc.so.1 Patch**

4725696

- **113494-01 – SunOS 5.9: iostat Patch**

4511098 4679590

- **113495-02 – SunOS 5.9: cfgadm Library Patch**

4433415 4665200 4672974

- **113496-01 – SunOS 5.9: inetd Patch**

4383820

- **113503-01 – SunOS 5.9: GigaSwift Ethernet 1.0 special postinstall script patch**

4735162

- **113513-02 – X11 6.6.1: platform support for new hardware**

4731970 4726510

- **113538-05 – SunOS 5.9: ngdr Patch**

4613988 4661605 4669462 4675057 4696700 4746505 4756231 4759384 4779758 4805126

- **113541-02 – X11 6.6.1: XKB patch**

4689365 4633549

- **113571-02 – SunOS 5.9: eFCode & fcgp2 Patch**

4495650 4692542

- **113572-01 – SunOS 5.9: docbook-to-man.ts Patch**

4649171

- **113573-02 – SunOS 5.9: libpsvc Patch**

4487110 4640559 4660073 4661192 4718737

- **113574-03 – SunOS 5.9: SUNW,Sun-Fire-880 libpsvc Patch**

4487110 4636540 4661192 4718737 4721200 4808786

- **113575-04 – SunOS 5.9: sendmail Patch**

4678365 4697068 4704672 4704675 4706596 4706608 4706632 4706660 4720281 4725387 4728227
4737586 4756570 4798135 4808977 4809539 4826809 4835344 4839833

- **113576-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/dd Patch**

4632818

- **113577-01 – SunOS 5.9: /usr/kernel/sched/FX Patch**

4701391

- **113578-01 – SunOS 5.9: inetboot Patch**

4670609

- **113579-01 – SunOS 5.9: ypserv/ypxfrd Patch**

4737417

- **113580-01 – SunOS 5.9: mount Patch**

4715028

- **113581-01 – CDE 1.5: message patch to add to /usr/dt/bin/dtlp**

4646929

- **113584-01 – SunOS 5.9: yesstr, nostr nl_langinfo() strings incorrect in S9**

4745109

- **113713-04 – SunOS 5.9: pkginstall Patch**

4405634 4720211 4786593 4813860 4826609 4848801 4851760

- **113716-01 – SunOS 5.9: sar & sadc Patch**

4627454 4723484

- 4712441
 - **113717-06 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files**
 - 4659277 4705891
 - **113718-02 – SunOS 5.9: usr/lib/utmp_update Patch**
 - 4692542
 - **113720-01 – SunOS 5.9: rootnex Patch**
 - 4704611
 - **113742-01 – SunOS 5.9: smcpreconfig.sh Patch**
 - 4760256
 - **113746-01 – SunOS 5.9: uxlibc Localization message patch**
 - 4748474 4707057 4707069 4721898 4740125
 - **113762-02 – X11 6.6.1: xdm patch**
 - 4716868 4237479 4633549
 - **113764-02 – X11 6.6.1: keyboard patch**
 - 4759425
 - **113789-01 – CDE 1.5: dtexec patch**
 - 4722127 4741187 4744289 4784893
 - **113796-02 – CDE 1.5: Tooltalk patch**
 - 4720526
 - **113798-01 – CDE 1.5: libDtSvc patch**
 - 4762680
 - **113799-01 – SunOS 5.9: solregis Patch**
 - 4752366 4770721
 - **113813-02 – SunOS 5.9: Gnome Integration Patch**
 - 4733239
 - **113831-02 – SunOS 5.9: Estonian decimal point character incorrect**
 - 4729180
 - **113839-01 – CDE 1.5: sdtwsinfo patch**
 - 4729199
 - **113841-01 – CDE 1.5: answerbook patch**
 - 4529402 4532320 4532757 4533706 4535845 4550044 4589224 4615165 4616579 4617085 4617521
 - **113859-02 – SunOS 5.9: Sun ONE Directory Server 5.1 patch**
- 4619976 4622371 4623119 4623199 4623308 4624693 4630124 4639310 4639408 4640724 4643122
 4645544 4645887 4646301 4646392 4649615 4656846 4658787 4658810 4663658 4665564 4665571
 4668480 4672889 4672914 4672960 4674387 4682961 4684519 4687038 4691101 4692956 4697500

4527608 4530466 4530509 4538268 4592931 4614559 4620546 4621920 4627760 4628444 4639560
4640273 4646350 4651972 4652031 4652859 4669879 4675387 4689805 4695152 4704039 4705641
4708296 4711201 4711202 4714196 4715065 4715955 4719564 4722987 4732352 4735062 4735919
4737978 4738221 4742450 4743633 4743796 4748399 4749234 4753087 4754595 4756215 4758387
4761010 4765575 4767182 4773751 4776001 4777358 4778128 4778154 4778334 4780230 4781823
4783910 4786154 4786475 4786504 4787220 4795280 4797685 4802963 4809504 4653016 4656657
4709128 4713256 4714358 4716340 4717121 4723630 4742083 4754469 4759670 4773823 4786547
4791877 4669525 46834764738639 4789601 4704635 4707395 4827569

■ **113861-02 – CDE 1.5: dtksh patch**

4729959 4814825

■ **113863-01 – CDE 1.5: dtconfig patch**

4732757

■ **113868-01 – CDE 1.5: PDASync patch**

4653758 4705576 4642465

■ **113896-03 – SunOS 5.9: en_US.UTF-8 locale patch**

4833698 4843218 4681931 4791073 4647462 4635650 4648210 4739481 4770344 4774817 4778370
4775106 4501634 4778686 4805695 4614828 4668356 4668371 4798658 4762506 4746498 4749928
4633291 4758189 4761039 4753468 4757704 4765728 4765666 4751190 4751699 4767922 4768220

■ **113902-03 – SunOS 5.9: Asian UTF-8 iconv modules enhancement**

4702278 4750690 4772950

■ **113904-03 – SunOS 5.9: 7 indic scripts support in Asian UTF-8 locales**

4768804 4752112 4752144 4790423 4681931

■ **113906-01 – SunOS 5.9: Fixed some functional problems in Chinese locales**

4731208 4677334

■ **113908-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Missing locales in SUNW_LOC for SUNWinttf**

■ **113909-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Broken preremove script in S9U3 Asia BCP pkgs**

4780225

■ **113911-01 – SunOS 5.9: BCP applications hangs with NIS in asian locales**

4784597

■ **113923-02 – X11 6.6.1: security font server patch**

4764193

■ **113964-08 – SunOS 5.9: usr/sbin/6to4relay patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4639729 4648299 4660167 4661975 4673190 4676731 4685978 4688392
4688398 4688704 4690565 4694560 4699047 4701276 4705755 4726444 4728056 4728423 4775897
4777295 4803389 4804064 4804756 4808860 4834142

■ **113973-01 – SunOS 5.9: adb Patch**

4664740

- 113975-01 – SunOS 5.9: ssm Patch

4709170

- 113977-01 – SunOS 5.9: awk/sed pkgscripts Patch

4737594

- 113978-01 – SunOS 5.9: syseventconfd Patch

4737409 4745393

- 113981-02 – SunOS 5.9: devfsadm Patch

4334693 4517655 4622990 4703964 4716238 4734853

- 113984-01 – SunOS 5.9: iosram Patch

4721302

- 113993-04 – SunOS 5.9: mkfs Patch

4708464 4721124 4794712 4839900

- 114003-01 – SunOS 5.9: bbc driver Patch

4706975

- 114004-01 – SunOS 5.9: sed Patch

4727485

- 114006-01 – SunOS 5.9: tftp Patch

4656587

- 114008-01 – SunOS 5.9: cachefsd Patch

1250956 4110712 4230685 4338920 4467621 4507274 4616030 4698882 4698886 4740460

- 114010-02 – SunOS 5.9: m4 Patch

4174383 4837874

- 114014-05 – SunOS 5.9: libxml, libxslt and Freeware man pages Patch

4634845 4665029 4668974 4702333 4708162 4768591 4781721 4787493 4806701 4822718 4833908
4839883 4839885

- 114016-01 – tomcat security patch

4759554

- 114020-02 – 5.9: Synching Euro UTF-8s to include Indic scripts, arabic chars

4773318 4788627

- 114033-01 – SunOS 5.9: Fixing hebrew input method problems

4755447

- 114037-02 – SunOS 5.9: patch for supporting Unicode3.2 & indic script

4774476 4823451

- 4773166
 - 114039-01 – SunOS 5.9: Bug fix for dtpad column in Euro UTF-8 locales
- 4840298 4840300 4840303 4856631
 - 114049-03 – SunOS 5.9: Netscape Portable Runtime(4.1.4)/Network Security System(3.3.4)
- 4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4745493 4745709
 - 114125-01 – SunOS 5.9: IKE should support hardware assist for certs and Oakley
 - 114126-02 – SunOS 5.9: todds1287 patch
- 4692023 4809862
 - 114127-01 – SunOS 5.9: abi_libefi.so.1 Patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114128-01 – SunOS 5.9: sd_lun patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114129-01 – SunOS 5.9: multi-terabyte disk support -libuuid patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114131-01 – SunOS 5.9: multi-terabyte disk support - libadm.so.1 patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114132-01 – SunOS 5.9: fmthard patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114133-01 – SunOS 5.9: mail Patch
- 4705717
 - 114135-01 – SunOS 5.9: at utility Patch
- 4776480
 - 114153-01 – SunOS 5.9: Japanese SunOS 4.x Binary Compatibility(BCP) patch
- 4775198 4775194
 - 114165-01 – CDE 1.5: SUNWsregu Localization message patch
- 4762680
 - 114211-01 – SunOS 5.9: WBEM Localization message patch
- 4786427 4767999
 - 114215-03 – SunOS 5.9: Install/admin Localization message patch
- 4788175 4804609 4818688
 - 114217-03 – SunOS 5.9: Install/admin Localization message patch
- 4788175 4818688 4841337
 - 114219-02 – CDE 1.5: sdtimage patch

- 4746059 4728421
- **114221-02 – SunOS 5.9: UR bug fixes**
- 4791189 4789202
- **114224-01 – SunOS 5.9: csh Patch**
- 4479584
- **114226-01 – SunOS 5.9: zsh driver Patch**
- 4639552
- **114227-01 – SunOS 5.9: yacc Patch**
- 4735960
- **114229-01 – SunOS 5.9: action_filemgr.so.1 Patch**
- 4714071
- **114231-02 – SunOS 5.9: rpcmod Patch**
- 4377827 4662762
- **114233-02 – SunOS 5.9: rsm Patch**
- 4679690 4700142 4728023 4754589 4780149 4781177
- **114235-01 – SunOS 5.9: libsendfile.so.1 Patch**
- 4640982 4711013
- **114244-01 – SunOS 5.9: some characters can't be shown in GBK and GB18030 locales**
- 4771032
- **114249-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH:Broken preremove scripts in some of S9 pkgs**
- 4829407
- **114276-02 – 5.9: Adds extended Arabic support in UTF-8**
- 4820267
- **114282-01 – CDE 1.5: libDtWidget patch**
- 4776648
- **114312-01 – CDE1.5: GNOME/CDE Menu for Solaris 9**
- 4748729
- **114321-02 – SunOS 5.9: Patch Manager Localization message patch**
- 4795479 4826155
- **114325-01 – SunOS 5.9: psvcobj Patch**
- 4658782
- **114326-02 – SunOS 5.9: /usr/lib/dcs Patch**

4683247 4775925

- **114329-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/pax Patch**

4766460

- **114331-01 – SunOS 5.9: power Patch**

4776968 4785495

- **114332-05 – SunOS 5.9: c2audit & *libbsm.so.1 Patch**

4445394 4457028 4473026 4499864 4501255 4592827 4647549 4647683 4647684 4688063 4712958
4715363 4728819 4732828 4735135 4745590 4761401 4778984 4805352 4809341 4818300 4833724
4835739 4842901

- **114335-01 – SunOS 5.9: usr/sbin/rmmount Patch**

4705226

- **114338-01 – SunOS 5.9: todm5819 Patch**

4721451

- **114339-01 – SunOS 5.9: wrsm header files Patch**

4619267 4661424 4694445 4738280

- **114340-01 – SunOS 5.9: SUNW_filesys_rcm.so Patch**

4655205

- **114344-02 – SunOS 5.9: kernel/drv/arp Patch**

4715897 4777791

- **114347-01 – SunOS 5.9: etc/init.d/efcode Patch**

4788809

- **114349-01 – SunOS 5.9: sbin/dhcpagent Patch**

4721209

- **114352-03 – SunOS 5.9: /etc/inet/inetd.conf Patch**

4761190

- **114356-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/ssh Patch**

4685658

- **114359-01 – SunOS 5.9: mc-us3 Patch**

4697555

- **114360-01 – SunOS 5.9: platform/sun4u/cprboot Patch**

4634031

- **114361-01 – SunOS 5.9: /kernel/drv/lofi Patch**

4302817 4331110 4335489 4342447 4348291 4361731 4389001 4446576 4477843 4505225 4526709
4628272 4649233

- **114363-01 – SunOS 5.9: sort Patch**

4725245

- 114369-01 – SunOS 5.9: prtvtoc patch

4334693 4622990 4716238

- 114370-02 – SunOS 5.9: libumem.so.1 patch

4518988 4694626 4709984 4766343

- 114371-01 – SunOS 5.9: UMEM - libumem (mdb components) patch

4518988 4694626 4709984

- 114372-01 – SunOS 5.9: UMEM - llib-lumem patch

4518988 4694626 4709984

- 114373-01 – SunOS 5.9: UMEM - abi_libumem.so.1 patch

4518988 4694626 4709984

- 114374-01 – SunOS 5.9: Perl patch

4675538 4724626 4768924

- 114375-06 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - PICL & FRUID

4490112 4510864 4599397 4679229 4692005 4692053 4710160 4710161 4713409 4726041 4733895
4733898 4760403 4762548 4765183 4775419 4776134 4780968 4781113 4785498 4818004 4819633
4820126 4828270 4840725 4840813 4843701 4864535 4864707

- 114376-03 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - platform links

4713409 4726041 4780672

- 114377-03 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - BSC comms support

4713409 4764078 4781113 4819633

- 114378-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto TOD driver

4713409 4781113 4819633

- 114379-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - libprtdiag support

4713409 4715664 4726041 4780968 4796798 4827612 4827687

- 114380-01 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - rmc_comm/rmcadm/rmclomv/librsc support

4726041

- 114383-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - pca9556 driver

4726041 4781113 4819633

- 114385-03 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - pmugpio pmubus driver

4726041 4781113 4819633 4843000

- 114386-02 – SunOS 5.9: todm5819p_rmc driver patch

4726041 4781113 4819633

- 114387-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - scadm support

4448914 4726041 4733895

- **114388-02 – SunOS 5.9: dmfe driver patch**

4463714 4498135 4643212 4646439 4751357

- **114389-02 – SunOS 5.9: devinfo doesn't work on disks with EFI labels**

4745581 4794712

- **114390-01 – SunOS 5.9: Slot 1 DR - GPTWOCFG patch**

4779758

- **114391-01 – SunOS 5.9: Slot 1 DR - Hotplug Patch**

4659144 4779758

- **114392-01 – SunOS 5.9: Slot 1 DR - Efcodes Patch**

4682824 4779758

- **114393-02 – SunOS 5.9: cpc Patch**

4819633

- **114394-02 – SunOS 5.9: trapstat Patch**

4819633

- **114395-03 – SunOS 5.9:**

4819633

- **114418-03 – SunOS 5.9: cpr patch**

4649104 4807341 4819633

- **114470-04 – SunOS 5.9: XVR-4000 Graphics Patch**

4796037 4797704 4796973 4799777 4792452 4801660 4800526 4812003 4802530 4804995 4808067
4796917 4815925 4761925 4782193 4793942 4793943 4827241 4809512 4841825 4845198

- **114473-03 – SunOS 5.9: Introduction Fujitsu SPARC64-V platforms patch**

- **114482-04 – SunOS 5.9: Product Registry CLI Revision**

4385866 4391400 4655075 4753030 4767378 4767678 4768717 4796532 4801439 4863376

- **114495-01 – CDE 1.5: dtprintinfo patch**

4788209

- **114501-01 – SunOS 5.9: drmproviders.jar Patch**

4712814

- **114503-03 – SunOS 5.9: usr/sadm/lib/usermgr/VUserMgr.jar Patch**

4762502 4803524

- **114507-01 – SunOS 5.9: date problems in he_IL.UTF-8 locale**

4791206

- **114509-01 – SunOS 5.9: cs_CZ Locale not usable**

- 4793388
- 114510-01 – SunOS 5.9: Introduction Fujitsu SPARC64-V platforms patch
 - 114513-03 – SunOS 5.9: patch for Japanese and English X man pages
- 4811454 4797892 4801395 4849095 4852478
- 114516-01 – SunOS 5.9: patch for English sdtudctool man pages for S9UR3
- 4808428
- 114520-06 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For postinstall script
- 4786712 4809906 4834885 4825349
- 114538-03 – SunOS 5.9: Sun XVR-100 Graphics Accelerator Patch
- 4820147 4820254 4821832 4822149 4822443 4823003 4824233 4827346 4827720 4827837 4832885
- 114555-06 – SunOS 5.9: Sun XVR-1200 Graphics Accelerator Patch
- 4807907 4808263 4767906 4819200 4799602 4822159 4822276 4833546 4830544 4744371 4835514
4834943 4837418 4837176 4837510 4847177
- 114561-01 – X11 6.6.1: X splash screen patch
- 4807285
- 114564-01 – SunOS 5.9: /usr/sbin/in.ftpd Patch
- 4714534
- 114566-02 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files
 - 114569-02 – SunOS 5.9: libdbm.so.1 Patch
- 4668699 4825407
- 114571-01 – SunOS 5.9: libc.so.*.9/bcp Patch
- 4668699
- 114586-01 – SunOS 5.9: bzip Patch
- 4634845 4659775
- 114598-01 – 5.9: UTF-8 dtcm chars not appearing
- 4787603
- 114602-02 – X11 6.6.1: libmpg_psr patch
- 4649547 4830251
- 114607-02 – SunOS 5.8: SPECIAL PATCH: pkginfo replacement scripts (S9U3)
 - 114612-01 – SunOS 5.9: ANSI-1251 encodings file errors
- 4812123
- 114614-02 – SUNOS 5.9: Ar, He, es, It fixes unicode3.2
- 4811236 4778180 4796228 4681931 4832943 4832923
- 114633-02 – SunOS 5.9: ja_JP.UTF-8 locale patch

4749205 4868872

- **114636-02 – SunOS 5.9: KCMS security fix**

4661008 4774256

- **114641-02 – SunOS 5.9: Japanese iconv for UTF-8 patch**

4706863 4671351 4671363

- **114654-02 – CDE 1.5: SmartCard patch**

4785011

- **114660-02 – CDE 1.5: PDASync patch**

4783087 4815680

- **114677-01 – SunOS 5.9: International Components for Unicode Patch**

4731597 4757662 4757683 4783065

- **114684-02 – SunOS 5.9: samba Patch**

4768591 4787493 4833908 4839883 4839885

- **114711-02 – SunOS 5.9: usr/sadm/lib/diskmgr/VDiskMgr.jar Patch**

4818306 4825948

- **114713-01 – SunOS 5.9: newtask Patch**

4798119

- **114716-01 – SunOS 5.9: usr/bin/rcp Patch**

1149636

- **114718-01 – SunOS 5.9: usr/kernel/fs/pcfs Patch**

4413261 4782709

- **114721-03 – SunOS 5.9: ufsrestore and ufsdump Patch**

4767281 4769786 4794712

- **114729-01 – SunOS 5.9: usr/sbin/in.telnetd Patch**

4798177

- **114731-02 – SunOS 5.9: kernel/drv/glm Patch**

4696162 4770492

- **114734-01 – SunOS 5.9: /usr/ccs/bin/lorder Patch**

4747253

- **114736-01 – SunOS 5.9: usr/sbin/nisrestore Patch**

4759428

- **114818-02 – GNOME 2.0.0: libpng Patch**

4809087

- 4647938 ■ 114855-01 – SunOS 5.9: /usr/kernel/drv/sppp Patch
- 4803267 ■ 114861-01 – SunOS 5.9: /usr/sbin/wall
- 4524005 ■ 114863-01 – SunOS 5.9: /platform/sun4u/kernel/misc/forthdebug Patch
- 4616050 4661192 ■ 114864-02 – SunOS 5.9: Sun-Fire-480R libpsvcpolicy_psr.so.1 Patch
- 4822718 ■ 114875-01 – SunOS 5.9: XML library source patch
- 4674066 ■ 114923-01 – SunOS 5.9: /usr/kernel/drv/logindmux Patch
- 4777298 ■ 114926-01 – SunOS 5.9: kernel/drv/audiocs Patch
- 4714170 4809341 ■ 114927-01 – SunOS 5.9: usr/sbin/allocate Patch
- 4721200 4808786 ■ 114930-01 – SunOS 5.9: Sun-Fire-480R libprtdiag_psr.so.1 Patch
- 4761257 ■ 114934-01 – SunOS 5.9: usr/platform links patch
- 4817865 4837781 4837785 4837786 4837787 4837788 4837789 ■ 114951-01 – SunOS 5.9: FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 1.0
- 114963-01 – SunOS 5.9: SCRIPT patch
- 114965-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For editable files only
- 4834885 4841998 ■ 114967-01 – SunOS 5.9: FDL patch
- 4796458 ■ 114971-01 – SunOS 5.9: usr/kernel/fs/namefs Patch
- 4711164 ■ 114974-01 – SunOS 5.9: kernel/drv/ifp Patch
- 4779757 ■ 114975-01 – SunOS 5.9: usr/lib/inet/dhcp/svcadm/dhcpcommon.jar Patch
- 4782691

- 4795674
 - 114977-01 – SunOS 5.9: kernel/drv/ipsecah Patch
- 4841231 4841239 4841244 4841248
 - 114994-01 – SunOS 5.9: FUJITSU PCI GigabitEthernet 2.0
- 4354427
 - 115004-01 – SunOS 5.9: /kernel/misc/kbtrans patch
- 4354427
 - 115006-01 – SunOS 5.9: kernel/strmod/kb patch
- 4664957
 - 115008-01 – SunOS 5.9: /usr/sbin/ipqosconf patch
- 4780968
 - 115010-01 – SunOS 5.9: Providing Platform Support for Enchilada Tower Server
- 4780968
 - 115012-01 – SunOS 5.9: Sunfire-V250-Enchilada-Tower librsc patch
- 4780968
 - 115014-01 – SunOS 5.9: /usr/platform/SUNW,Sun-Fire-V250/sbin/scadm patch
- 4775897 4777295
 - 115016-01 – SunOS 5.9: patch ipmp
- 4807983
 - 115018-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/adb/dqblk
- 4794712
 - 115020-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/adb/ml_odunit
- 4794712 4807979 4817074
 - 115022-01 – SunOS 5.9: quota utilities
- 4794712
 - 115024-01 – SunOS 5.9: file system identification utilities
- 4794712
 - 115026-01 – SunOS 5.9: Multiterabyte UFS file system maintenance tools
- 4794712
 - 115028-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/fs/ufs/df
- 4794712
 - 115030-01 – SunOS 5.9: Multiterabyte UFS - patch mount
- 4794712
 - 115107-01 – SunOS 5.9: script patch for FJSVvplu pkginfo files

- 4761257
- **115158-04 – X11 6.6.1: xscreensaver patch**
- 4841343 4838390 4849641
- **115161-01 – CDE 1.5: Addition of IFD card reader support for localization**
- 4852556
- **115165-01 – SunOS 5.9: usr/lib/libnisdb.so.2 Patch**
- 4655472
- **115169-01 – SunOS 5.9: us driver Patch**
- 4837250
- **115172-01 – SunOS 5.9: kernel/drv/le Patch**
- 4105008
- **115173-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/sparcv7/gcore /usr/bin/sparcv9/gcore Patch**
- 4832466
- **115177-01 – SunOS 5.9: SUNWjxmft/SUNWjxcft postinstall patch**
- 4851735
- **115284-02 – SunOS 5.9: script patch for FJSVulsa postinstall files**
- 4846488
- **115296-01 – SunOS 5.9: script patch for NATEvplu.u pkginfo file**
- 4858453
- **115315-02 – SunOS 5.9: dtlogin issues**
- 4854079
- **115322-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files**
 - **115350-01 – SunOS 5.9: ident_udfs.so.1 Patch**
- 4855145
- **115354-01 – SunOS 5.9: slpd Patch**
- 4471576 4767287 4837368
- **115591-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: class action replacement scripts**
- 4874869
- **115607-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: class action replacement scripts**
- 4876436
- **115622-01 – SunOS 5.9: usr/snadm/lib/libspmisoft.so.1 Patch**
- 4801754

x86 パッチの一覧

- **111713-02 – Shared library patch for C++_x86**

4302954 4698028 4699194 4704604 4708982 4745600 4747931 4749398 4749628 4750936 4756106
4794587 4797953 4806782 4820555

- **111728-03 – SunOS 5.9_x86: Math Library (libm) patch**

4810765 4817713 4820770

- **112234-07 – SunOS 5.9_x86: Kernel Patch**

4201022 4254013 4352265 4354427 4357217 4375052 4390777 4491038 4504686 4520669 4533712
4627620 4640282 4640982 4653044 4664740 4675868 4676535 4698684 4708822 4711013 4714062
4714688 4716320 4718565 4721112 4735093 4740766 4740769 4742711 4747714 4748411 4757311
4770236 4786613 4788230 4793178 4794501 4796430 4816970 4857792

- **112662-03 – SunOS 5.9_x86: IIIM and X Input & Output Method patch**

4803378 4805181 4805730 4823672 4593130 4412147 4726723 4629783 4721656 4721661 4742096
4691874 4650804 4774826 4772485 4777933 4776987

- **112786-10 – X11 6.6.1_x86: Xsun patch**

4760672 4734353 4707069 4709009 4762797 4740125 4732113 4676222 4753720 4736505 4780894
4633549 4798375 4742744 4784311 4809776 4818111 4716007 4828474 4785372 4422011 4805863
4787416 4847054 4868692

- **113099-01 – X11 6.6.1_x86: X RENDER extension patch**

4749332 4770510

- **113241-05 – CDE 1.5_x86: dtssession patch**

4701185 4743546 4763733 4788212

- **113245-01 – CDE 1.5_x86: dtwm patch**

4743546

- **113375-01 – X11 6.6.1_x86: xpr patch**

4704388

- **113404-03 – SunOS 5.9_x86: Tamil/Kannada/Gujarati/Bengali support**

4769446 4752426 4767689 4767747 4752139 4681931

- **113406-02 – SunOS 5.9_x86: sync with 4751190 for th_TH.UTF-8 locales**

4751190

- **113408-03 – SunOS 5.9_x86: Added Five stroke input method support in S9UR**

4741018 4783961 4749970 4749975 4837040

- **113542-01 – X11 6.6.1_x86: XKB patch**

4633549

- **113590-03 – SunOS 5.9_x86: JFP manpages patch**
 4808428 4809083 4695070 4742031 4688476 4710452 4717366 4851824 4852478
- **113719-04 – SunOS 5.9_x86: libnsl & rpc.nispasswd Patch**
 4668699 4710928 4727726 4767276
- **113763-02 – X11 6.6.1_x86: xdm patch**
 4748474 4707057 4707069 4721898 4740125
- **113765-02 – X11 6.6.1_x86: keyboard patch**
 4716868 4237479 4633549
- **113790-01 – CDE 1.5_x86: dtexec patch**
 4759425
- **113797-02 – OpenWindows_x86 3.6.3: Tooltalk patch**
 4722127 4741187 4744289 4784893
- **113832-02 – SunOS 5.9_x86: Estonian decimal point character incorrect**
 4733239
- **113838-01 – CDE 1.5_x86: libDtSvc patch**
 4720526
- **113840-01 – CDE 1.5_x86: sdtwsinfo patch**
 4729180 4773801
- **113842-01 – CDE 1.5_x86: answerbook patch**
 4729199
- **113846-01 – CDE 1.5_x86: sdtjmplay patch**
 4731319
- **113862-02 – CDE 1.5_x86: dtksh patch**
 4729959 4814825
- **113864-01 – CDE 1.5_x86: dtconfig patch**
 4732757
- **113867-08 – Motif 1.2.7_x86 and 2.1.1_x86: Runtime library patch for Solaris 9**
 4741124 4757112 4743372 4712265 4750419 4787387 4756028 4764309 4782506
- **113869-01 – CDE 1.5_x86: PDASync patch**
 4653758 4705576 4642465
- **113870-03 – CDE 1.5_x86: dtmail patch**
 4715670 4786715 4714769 4715322
- **113897-03 – SunOS 5.9_x86: en_US.UTF-8 locale patch**

4833698 4843218 4746498 4749928 4633291 4758189 4761039 4753468 4757704 4765728 4765666
4751190 4751699 4767922 4768220 4681931 4791073 4647462 4635650 4648210 4739481 4770344
4774817 4778370 4775106 4501634 4778686 4805695 4798658 4762506 4789856

■ **113903-03 – SunOS 5.9_x86: Asian UTF-8 iconv modules enhancement**

4702278 4750690 4772950

■ **113905-03 – SunOS 5.9_x86: 7 indic scripts support in Asian UTF-8 locales**

4768804 4752112 4752144 4790423 4681931

■ **113907-01 – SunOS 5.9_x86: Fixed some functional problems in Chinese locales**

4731208 4677334

■ **113910-01 – SunOS 5.9_x86: Thai font enhancement**

4747781

■ **113924-02 – X11 6.6.1_x86: security font server patch**

4764193

■ **113966-04 – SunOS 5.9_x86: OS Localization message patch**

4736248 4775204 4767999 4809660 4831626 4804312 4817097 4841909

■ **113968-02 – SunOS 5.9_x86: Volume Management Localization message patch**

4775188 4804590

■ **113969-01 – SunOS 5.9_x86: uxlibc Localization message patch**

4760256

■ **113970-01 – SunOS 5.9_x86: DHCP Manager Localization message patch**

4733194

■ **113974-01 – SunOS 5.9_x86: adb Patch**

4664740

■ **113979-01 – SunOS 5.9_x86: syseventconfd Patch**

4737409 4745393

■ **113986-03 – SunOS 5.9_x86: linker Patch**

4461340 4504895 4698800 4714146 4715815 4728822 4730110 4730433 4731183 4739660 4743413
4744337 4745129 4745932 4746231 4753066 4754751 4755674 4765536 4766815 4770484 4770494
4772927 4774727 4775738 4778247 4778418 4779976 4783869 4787579 4790194 4792461 4793721
4796237 4802194 4804328 4806476 4811951 4816378 4817314

■ **113987-06 – SunOS 5.9_x86: nfs Patch**

4044295 4407669 4465488 4664740 4680195 4725574 4768760 4774462 4816496

■ **113988-04 – SunOS 5.9_x86: libc Patch**

4221365 4254013 4518988 4530367 4533712 4669963 4694626 4709984 4749274 4767215

■ **113990-02 – SunOS 5.9_x86: gl_kmech_krb5 Patch**

4526202 4630574 4727224 4743181 4744280

■ **113991-01 – SunOS 5.9_x86: sar & sadc Patch**

4627454 4723484

■ **113994-09 – SunOS 5.9_x86: md_sp Patch**

4352265 4373671 4462054 4508010 4628758 4631270 4632281 4634737 4647352 4648067 4655532
4666299 4668224 4668960 4669927 4678627 4680610 4690701 4690983 4698878 4701093 4705486
4705513 4710390 4711136 4711969 4714648 4714923 4715369 4715443 4720138 4721112 4723547
4725693 4733518 4740375 4774716 4780601 4796430 4802281 4808079 4808489 4814438 4816970
4830061 4834259

■ **113995-01 – SunOS 5.9_x86: doorfs Patch**

4699850

■ **113996-02 – SunOS 5.9_x86: utmp_update Patch**

4659277 4705891

■ **113998-03 – SunOS 5.9_x86: mkfs Patch**

4721124 4794712 4839900

■ **113999-02 – SunOS 5.9_x86: devfsadm Patch**

4334693 4517655 4622990 4703964 4716238 4734853

■ **114002-01 – SunOS 5.9_x86: awk & sed Patch**

4435976 4737594

■ **114005-01 – SunOS 5.9_x86: sed Patch**

4727485

■ **114007-01 – SunOS 5.9_x86: tftp Patch**

4656587

■ **114009-01 – SunOS 5.9_x86: cachefs Patch**

1250956 4110712 4230685 4338920 4467621 4507274 4616030 4698882 4698886 4740460

■ **114011-02 – SunOS 5.9_x86: m4 Patch**

4174383 4837874

■ **114012-02 – SunOS 5.9_x86: sockfs Patch**

4640282 4672604 4672991 4799039

■ **114015-05 – SunOS 5.9_x86: libxml, libxslt and Freeware man pages Patch**

4634845 4665029 4668974 4702333 4708162 4768591 4781721 4787493 4806701 4822718 4833908
4839883 4839885

■ **114017-01 – SunOS 5.9_x86: tomcat security patch**

4759554

■ **114021-02 – 5.9_x86: Syncing Euro UTF-8s to include Indic scripts, arabic chars**

4773318 4788627

- **114034-02 – SunOS 5.9_x86: Fixing hebrew/arabic dtlogin/input method problems**

4755447 4770382 4791206

- **114038-02 – SunOS 5.9_x86: patch for supporting Unicode3.2 & indic script**

4774476 4823451

- **114040-01 – SunOS 5.9_x86: Bug fix for dtpad column in Euro UTF-8 locales**

4773166

- **114124-05 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files**

4712441 4805954

- **114134-01 – SunOS 5.9_x86: mail Patch**

4705717

- **114136-01 – SunOS 5.9_x86: at utility Patch**

4776480

- **114137-03 – SunOS 5.9_x86: sendmail Patch**

4697068 4706596 4706608 4706632 4706660 4728227 4737586 4756570 4798135 4808977 4809539
4826809 4835344 4839833

- **114145-01 – SunOS 5.9_x86: Apache Security Patch**

4737442 4759882 4768221

- **114166-01 – CDE 1.5_x86: SUNWsregu Localization message patch**

4762680

- **114185-01 – CDE 1.5_x86: rpc.cmsd patch**

4687131

- **114191-03 – SunOS 5.9_x86: sysidnet Utility Patch**

4519228 4678406 4683519 4698391 4698500 4704974 4711830 4719195 4759857 4787789 4807079

- **114192-05 – SunOS 5.9_x86: Volume Management Patch**

4429002 4478237 4508734 4516578 4576802 4632847 4637525 4645142 4648750 4656914 4656931
4660125 4664713 4696741 4704081 4715667 4730706 4739995 4764186 4773530 4791015 4791556

- **114193-12 – SunOS 5.9_x86: wbem Patch**

4486297 4496120 4626762 4639638 4641801 4641818 4641851 4643267 4644880 4645051 4645080
4645105 4645146 4645315 4645581 4645811 4647508 4648811 4649058 4654765 4655882 4656941
4658145 4674537 4682188 4686244 4696284 4699585 4700539 4701067 4720857 4739720 4742164
4742960 4754758 4759233 4766098 4766971 4768461 4769053 4769612 4769791 4769795 4769860
4769889 4770013 4770017 4770024 4770027 4771207 4771466 4771469 4771476 4773485 4777931
4781761 4782465 4786712 4786891 4792126 4795642 4796483 4796491 4796519 4796556 4807821
4809906 4813116 4834362 4845276 4847816 4848759

- **114194-02 – SunOS 5.9_x86: patchadd and patchrm Patch**

4421583 4529289 4623249 4625879 4639323 4678605 4706994 4723617 4725419 4728892 4731056
4737767 4744964 4750803 4759158 4767392

■ **114196-09 – SunOS 5.9_x86: /usr/snadm/lib Library and Differential Flash Patch**

4313832 4385866 4391400 4501772 4642585 4654964 4655075 4660835 4707022 4718661 4723051
4724529 4734649 4744624 4750446 4753030 4759768 4760694 4761562 4761681 4763919 4767378
4767678 4768717 4793554 4812304 4826147 4832216 4834885

■ **114199-01 – SunOS 5.9_x86: smcpreconfig.sh Patch**

4704611

■ **114200-01 – SunOS 5.9_x86: solregis Patch**

4762680

■ **114201-01 – SunOS 5.9_x86: Gnome Integration Patch**

4752366 4770721

■ **114210-04 – CDE 1.5_x86: dtlogin patch**

4750889 4761698 4807292 4720523 4768118

■ **114212-01 – SunOS 5.9_x86: WBEM Localization message patch**

4786427 4767999

■ **114216-03 – SunOS 5.9_x86: Install/admin Localization message patch**

4788175 4804609 4818688

■ **114218-03 – SunOS 5.9_x86: Install/admin Localization message patch**

4788175 4818688 4841337

■ **114220-02 – CDE 1.5_x86: sdtimage patch**

4746059 4728421

■ **114222-02 – SunOS 5.9_x86: UR bug fixes**

4791189 4789202

■ **114225-01 – SunOS 5.9_x86: csh Patch**

4479584

■ **114228-01 – SunOS 5.9_x86: yacc Patch**

4735960

■ **114230-01 – SunOS 5.9_x86: action_filemgr.so.1 Patch**

4714071

■ **114232-02 – SunOS 5.9_x86: rpcmod Patch**

4377827 4662762

■ **114234-02 – SunOS 5.9_x86: rsm Patch**

4679690 4700142 4728023 4754589 4780149 4781177

■ **114236-01 – SunOS 5.9_x86: libsendfile.so.1 Patch**

4640982 4711013

- **114237-02 – SunOS 5.9_x86: libaio Patch**

4636591 4785625

- **114238-01 – SunOS 5.9_x86: dhcprmgr.jar Patch**

4731988

- **114240-01 – SunOS 5.9_x86: cachefs Patch**

4368576

- **114241-02 – SunOS 5.9_x86: libsldap.so.1 Patch**

4624458 4720818 4723361 4776571

- **114242-02 – SunOS 5.9_x86: passwdutil.so.1 & pam_authok Patch**

4743707 4747441 4751394 4754634 4830406

- **114243-03 – SunOS 5.9_x86: st driver Patch**

4027074 4336105 4412239 4728530 4734019 4734033 4756712 4761337 4774943 4804362

- **114245-01 – SunOS 5.9_x86: some characters can't be shown in GBK and GB18030 locale**

4771032

- **114248-01 – SunOS 5.9_x86: Sync with Unicode3.2 for Asia locales**

4752139

- **114250-01 – SunOS 5.9_x86: SPECIAL PATCH:Broken preremove scripts in some S9 pkgs**

4829407

- **114253-01 – SunOS 5.9_x86: SPECIAL PATCH:Broken SUNWcdf postinstall impact x86**

4854523

- **114273-02 – SunOS 5.9_x86: Sun ONE Directory Server 5.1 patch**

4529402 4532320 4532757 4533706 4535845 4550044 4589224 4615165 4616579 4617085 4617521
4619976 4622371 4623119 4623199 4623308 4624693 4630124 4639310 4639408 4640724 4643122
4645544 4645887 4646301 4646392 4649615 4656846 4658787 4658810 4663658 4665564 4665571
4668480 4672889 4672914 4672960 4674387 4682961 4684519 4687038 4691101 4692956 4697500
4527608 4530466 4530509 4538268 4592931 4614559 4620546 4621920 4627760 4628444 4639560
4640273 4646350 4651972 4652031 4652859 4669879 4675387 4689805 4695152 4704039 4705641
4708296 4711201 4711202 4714196 4715065 4715955 4719564 4722987 4732352 4735062 4735919
4737978 4738221 4742450 4743633 4743796 4748399 4749234 4753087 4754595 4756215 4758387
4761010 4765575 4767182 4773751 4776001 4777358 4778128 4778154 4778334 4780230 4781823
4783910 4786154 4786475 4786504 4787220 4795280 4797685 4802963 4809504 4653016 4656657
4709128 4713256 4714358 4716340 4717121 4723630 4742083 4754469 4759670 4773823 4786547
4791877 4669525 46834764738639 4789601 4704635 4707395 4819555 4827569

- **114277-02 – 5.9_x86: Adds extended Arabic support in UTF-8**

4820267

- 4776648
 - 114283-01 – CDE 1.5_x86: libDtWidget patch
- 4748729
 - 114313-01 – CDE1.5_x86: GNOME/CDE Menu for Solaris 9_x86
- 4795479 4826155
 - 114322-02 – SunOS 5.9_x86: Patch Manager Localization message patch
- 4503704 4677371 4761647 4807473
 - 114324-03 – SunOS 5.9_x86: pcplusmp Patch
- 4751386
 - 114328-01 – SunOS 5.9_x86: nss_ldap.so.1 Patch
- 4766460
 - 114330-01 – SunOS 5.9_x86: pax Patch
- 4705226
 - 114336-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sbin/rmmount patch
- 4659882 4660167 4662866 4687850 4688392 4688398 4688704 4689309 4694560 4715897 4722897
4737656 4745039 4747714 4749268 4763402 4763813 4772712 4784039 4790941 4803645 4820199
 - 114337-06 – SunOS 5.9_x86: kernel/drv/tcp patch
- 4655205
 - 114341-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/rcm/modules/SUNW_filesys_rcm.so patch
- 4283355
 - 114342-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/netsvc/yp/rpc.yppasswdd patch
- 4750637 4786817 4790885 4801490
 - 114343-02 – SunOS 5.9_x86: ksh patch
- 4715897 4777791
 - 114345-02 – SunOS 5.9_x86: kernel/drv/arp patch
- 4639729 4673190 4699047 4705755 4726444 4728056 4728423
 - 114348-02 – SunOS 5.9_x86: /usr/sbin/in.routed patch
- 4721209
 - 114350-01 – SunOS 5.9_x86: sbin/dhcpagent patch
- 4761190
 - 114353-03 – SunOS 5.9_x86: /etc/inet/inetd.conf Patch
- 4700305 4777715 4793327 4796596 4805812 4810893
 - 114354-02 – SunOS 5.9_x86: libresolv patch
- 114355-01 – SunOS 5.9_x86: sort patch

4725245

- 114357-01 – SunOS 5.9_x86: usr/bin/ssh patch

4685658

- 114358-02 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/snmp/snmpdx patch

4691177 4787450

- 114362-01 – SunOS 5.9_x86: lofi patch

4302817 4331110 4335489 4342447 4348291 4361731 4389001 4446576 4477843 4505225 4526709
4628272 4649233

- 114419-02 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - abi_libefi.so.1 patch

4334693 4622990 4716238 4809406

- 114420-01 – SunOS 5.9_x86: multi-terabyte disk support - libuuid patch

4334693 4622990 4716238

- 114421-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - libadm.so.1 patch

4334693 4622990 4716238

- 114422-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - fmthard patch

4334693 4622990 4716238

- 114423-05 – SunOS 5.9_x86: format patch

4334693 4622990 4716238 4726667 4766161 4777332 4781880 4785642 4791416 4814438 4826988

- 114424-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - prtvtoc patch

4334693 4622990 4716238

- 114426-03 – SunOS 5.9_x86: header files patch

4373671 4462054 4647352 4714648 4715443 4720138 4830061 4834259

- 114427-02 – SunOS 5.9_x86: Umem - libumem.so.1 patch

4518988 4694626 4709984 4766343

- 114428-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - libumem patch

4518988 4694626 4709984

- 114429-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - llib-lumem patch

4518988 4694626 4709984

- 114430-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - abi-libumeme.so.1

4518988 4694626 4709984

- 114431-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - sd & ssd patch

4334693 4622990 4716238

- 114432-02 – SunOS 5.9_x86: stack overflow - libthread.so.1 patch

4254013 4533712 4795308

- 4254013 4533712

 - 114433-01 – SunOS 5.9_x86: stack overflow - truss patch
- 4254013 4533712

 - 114434-01 – SunOS 5.9_x86: stack overflow - procfs patch
- 4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4745493 4745709

 - 114435-01 – SunOS 5.9_x86: ke hardware - libike patch
- 4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4745493 4745709

 - 114436-01 – SunOS 5.9_x86: ike hardware - config.sample patch
- 4660167 4688392 4688398 4688704 4694560 4804064

 - 114437-02 – SunOS 5.9_x86: 6to4 router - usr/sbin/6to4relay patch
- 4675538 4724626 4768924

 - 114439-01 – SunOS 5.9_x86: Perl patch
- 4745581 4794712

 - 114440-02 – SunOS 5.9_x86: devinfo Patch
- 4659144 4779758

 - 114441-01 – SunOS 5.9_x86: Slot 1 DR - Hotplug
- 4660167 4688392 4688398 4688704 4694560

 - 114442-01 – SunOS 5.9_x86: 6to4 router - ifconfig patch
- 4385866 4391400 4655075 4753030 4767378 4767678 4768717 4796532 4801439 4863376

 - 114483-04 – SunOS 5.9_x86: Product Registry CLI Revision
- 4788209

 - 114496-01 – CDE 1.5_x86: dtprintinfo patch
- 4712814

 - 114502-01 – SunOS 5.9_x86: drmproviders.jar Patch
- 4762502 4803524

 - 114504-03 – SunOS 5.9_x86: usr/sadm/lib/usermgr/VUserMgr.jar Patch
- 4811454 4797892 4801395 4849095 4852478

 - 114514-03 – SunOS 5.9_x86: patch for Japanese and English X man pages
- 4808428

 - 114517-01 – SunOS 5.9_x86: patch for English sdtudctool man pages for S9UR3
- 4786712 4809906 4825349 4841998

 - 114521-06 – SunOS 5.9_x86: SPECIAL PATCH: For postinstall script
- 114562-01 – X11 6.6.1_x86: X splash screen patch

4807285

- **114563-04 – SunOS 5.9_x86: ufs patch**

4371826 4490164 4763047 4794712 4815160

- **114565-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/sbin/in.ftpd Patch**

4714534

- **114567-02 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files**
- **114568-03 – SunOS 5.9_x86: usr/sadm/install/bin/pkginstall Patch**

4405634 4786593 4813860 4826609 4848801 4851760

- **114570-01 – SunOS 5.9_x86: libdbm.so.1 Patch**

4668699

- **114587-01 – SunOS 5.9_x86: bzip Patch**

4634845 4659775

- **114599-01 – 5.9_x86: UTF-8 dtcm chars not appearing**

4787603

- **114613-01 – SunOS 5.9_x86: ANSI-1251 encodings file errors**

4812123

- **114615-02 – SUNOS 5.9_x86: s9ur,He, es, it bugfixes unicode3.2**

4811236 4796228 4681931 4832943

- **114634-02 – SunOS 5.9_x86: ja_JP.UTF-8 locale patch**

4749205 4868872

- **114637-02 – SunOS 5.9_x86: KCMS security fix**

4661008 4774256

- **114642-02 – SunOS 5.9_x86: Japanese iconv for UTF-8 patch**

4706863 4671351 4671363

- **114661-02 – CDE 1.5_x86: PDASync patch**

4783087 4815680

- **114678-01 – SunOS 5.9_x86: International Components for Unicode Patch**

4731597 4757662 4757683 4783065

- **114685-02 – SunOS 5.9_x86: samba Patch**

4768591 4787493 4833908 4839883 4839885

- **114712-02 – SunOS 5.9_x86: usr/sadm/lib/diskmgr/VDiskMgr.jar Patch**

4818306 4825948

- **114714-01 – SunOS 5.9_x86: newtask Patch**

- 4798119
 - 114715-01 – SunOS 5.9_x86: libdb2.so.1 Patch
- 4668699
 - 114717-01 – SunOS 5.9_x86: usr/bin/rcp Patch
- 1149636
 - 114719-01 – SunOS 5.9_x86: usr/kernel/fs/pcfs Patch
- 4413261 4782709
 - 114720-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/misc/mixer Patch
- 4714088
 - 114722-03 – SunOS 5.9_x86: ufsrestore and ufsdump Patch
- 4767281 4769786 4794712
 - 114728-01 – SunOS 5.9_x86: mmu3* Patch
- 4695568 4795329
 - 114730-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/sbin/in.telnetd Patch
- 4798177
 - 114732-01 – SunOS 5.9_x86: sbin/init Patch
- 4662013
 - 114733-02 – SunOS 5.9_x86: kernel/misc/ufs_log Patch
- 4138139 4330959 4785875 4794712 4807979 4807983 4815160 4817074
 - 114735-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/ccs/bin/lorder Patch
- 4747253
 - 114737-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sbin/nisrestore Patch
- 4759428
 - 114819-01 – GNOME 2.0.0_x86: libpng Patch
- 4809087
 - 114856-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/kernel/drv/sppp Patch
- 4647938
 - 114857-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/bin/pppd Patch
- 4647938
 - 114858-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/ssh/sshd Patch
- 4801044
 - 114859-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/drv/udp Patch
- 4727825

- 4802915
 - 114860-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/sys/kaio Patch
- 4803267
 - 114862-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/sbin/wall Patch
- 4822718
 - 114876-01 – SunOS 5.9_x86: XML library source patch
- 4674066
 - 114924-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/kernel/drv/logindmux Patch
- 4685978 4775897 4777295 4803389 4808860 4834142
 - 114925-03 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/inet/in.mpathd Patch
- 4714170
 - 114928-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sbin/allocate Patch
- 4445394 4457028 4473026 4499864 4501255 4647549 4647683 4647684 4688063 4712958 4728819
4732828 4735135 4745590 4761401 4778984 4805352 4809341 4818300 4833724 4835739
 - 114929-03 – SunOS 5.9_x86: etc/security/bsmconv Patch
- 4772471 4787413 4812764
 - 114932-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sbin/syslogd Patch
- 4834885 4841998
 - 114964-01 – SunOS 5.9_x86: SCRIPT patch
 - 114966-01 – SunOS 5.9_x86: SPECIAL PATCH: For editable files only
- 4796458
 - 114968-01 – SunOS 5.9_x86: FDL patch
- 4711164
 - 114972-01 – SunOS 5.9_x86: usr/kernel/fs/namefs Patch
- 4716413
 - 114973-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/misc/nfssrv Patch
- 4782691
 - 114976-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/inet/dhcp/svcdm/dhcpcommon.jar Patch
- 4795674
 - 114978-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/drv/ipsecah Patch
- 4648825 4704812 4704824 4705899 4705911 4714952 4761753
 - 114980-02 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/lp/local/lpstat Patch
- 4354427
 - 115003-01 – SunOS 5.9_x86: kbtrans patch

- 4664957 ■ 115005-01 – SunOS 5.9_x86: ipqosconf patch
- 4664957 ■ 115007-01 – SunOS 5.9_x86: ipgpc patch
- 4747714 4772712 ■ 115009-01 – SunOS 5.9_x86: gld patch
- 4760613 ■ 115011-01 – SunOS 5.9_x86: smartcard Patch
- 4775897 4777295 ■ 115013-01 – SunOS 5.9_x86: patch if_mpadm
- 4775897 4777295 ■ 115015-01 – SunOS 5.9_x86: patch ipmp lib
- 4810364 4829413 ■ 115017-01 – SunOS 5.9_x86: patch boot/solaris/boot.bin
- 4762213 4762217 4853683 4857098 4862529 ■ 115019-02 – SunOS 5.9_x86: patch boot/solaris/devicedb/master
- 4794712 ■ 115021-01 – SunOS 5.9_x86: patch vold
- 4794712 ■ 115023-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte UFS - patch headers
- 4807983 ■ 115025-01 – SunOS 5.9_x86: patch dqblk
- 4794712 ■ 115027-01 – SunOS 5.9_x86: patch ml_odunit
- 4794712 4807979 4817074 ■ 115029-01 – SunOS 5.9_x86: quota utilities
- 4794712 ■ 115031-01 – SunOS 5.9_x86: file system identification utilities
- 4794712 ■ 115033-01 – SunOS 5.9_x86: file system maintenance tools
- 4794712 ■ 115034-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/lib/fs/ufs/df patch
- 4794712 ■ 115035-02 – SunOS 5.9_x86: /usr/lib/fs/ufs/fsck patch

4632750 4794712

- **115036-01 – SunOS 5.9_x86: /usr/lib/fs/ufs/mount patch**

4794712

- **115159-04 – X11 6.6.1_x86: xscreensaver patch**

4841343 4838390 4849641

- **115166-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/libnisdb.so.2 Patch**

4655472

- **115167-01 – SunOS 5.9_x86: usr/bin/cpio Patch**

4711504 4738687 4740813 4768749 4771017 4790357 4792482

- **115168-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/security/pam_krb5.so.1 Patch**

4830044

- **115178-01 – SunOS 5.9_x86: SUNWjxmft/SUNWjxcft postinstall patch**

4851735

- **115316-02 – SunOS 5.9_x86: fixing dtlogin issues**

4854079

- **115318-01 – SunOS 5.9_x86: usr/bin/i86/gcore Patch**

4832466

- **115320-02 – SunOS 5.9_x86: /kernel/drv/e1000g Patch**

4842659 4842664 4842697 4844546 4853683 4862529

- **115321-01 – SunOS 5.9_x86: isa.125/ata.bef Patch**

4836662

- **115347-01 – SunOS 5.9_x86: udfs Patch**

4762254

- **115351-01 – SunOS 5.9_x86: ident_udfs.so.1 Patch**

4855145

- **115353-01 – SunOS 5.9_x86: elxl.bef Patch**

4791458

- **115355-01 – SunOS 5.9_x86: slpd Patch**

4471576 4767287 4837368

- **115547-01 – SunOS 5.9_x86: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files**

4853683 4857098

- **115623-01 – SunOS 5.9_x86: usr/snadm/lib/libspmisoft.so.1 Patch**

4801754